元気、
美味しい、
暮らしやすい
ENERGY OF PEACE
ひろしま

若年層の社会減少要因調査分析について

令和６年10月

広　島　県

目次

1　調査分析の概要

2　広島県の社会減少の状況

3　社会減少の要因分析と課題解決の方向性
3-１：分析の対象
3-２：分析の手法
3-３：ライフステージごとの分析
3-３-１：新卒就職
3-３-２：UIターン
3-３-３：大学進学

4　まとめ

１　調査分析の概要

1　調査分析の概要

■調査の趣旨・ねらい

- 広島県では、人口の転出が転入を上回る**転出超過の状態が続いている。転出超過のうち、10代から30代までの若年層が全体の８割以上**を占めており、40代までで転出超過はほぼ収束している。
- これまで広島県では、公的統計調査のデータ分析や、大学生、社会人、企業等に対するアンケートやヒアリング調査を行ってきたが、若年層側の居住地・就職先決定プロセスにおいて、どのような志向・行動を通じて県外に流出しているか、そのような動きを企業側はどのように認識し、採用活動を行っているか、十分な深掘りができていなかった。
- このため、こうした社会動態の要因を把握し、社会減対策の再構築を図るため、調査を実施した。

1　調査分析の概要

〈調査の対象〉

フェーズ	調査対象
大学進学	学校基本調査による分析が可能な大学進学者を分析の対象とした（高卒就職は全体の約4分の1に留まるため対象外）。
新卒就職	学校基本調査により県外の大学に進学した数が推定できる四年制大学卒業者に焦点を当てて分析を行った。
UIターン	転出超過がほぼ収束する49歳までを分析の対象とした。

〈調査の実施内容〉

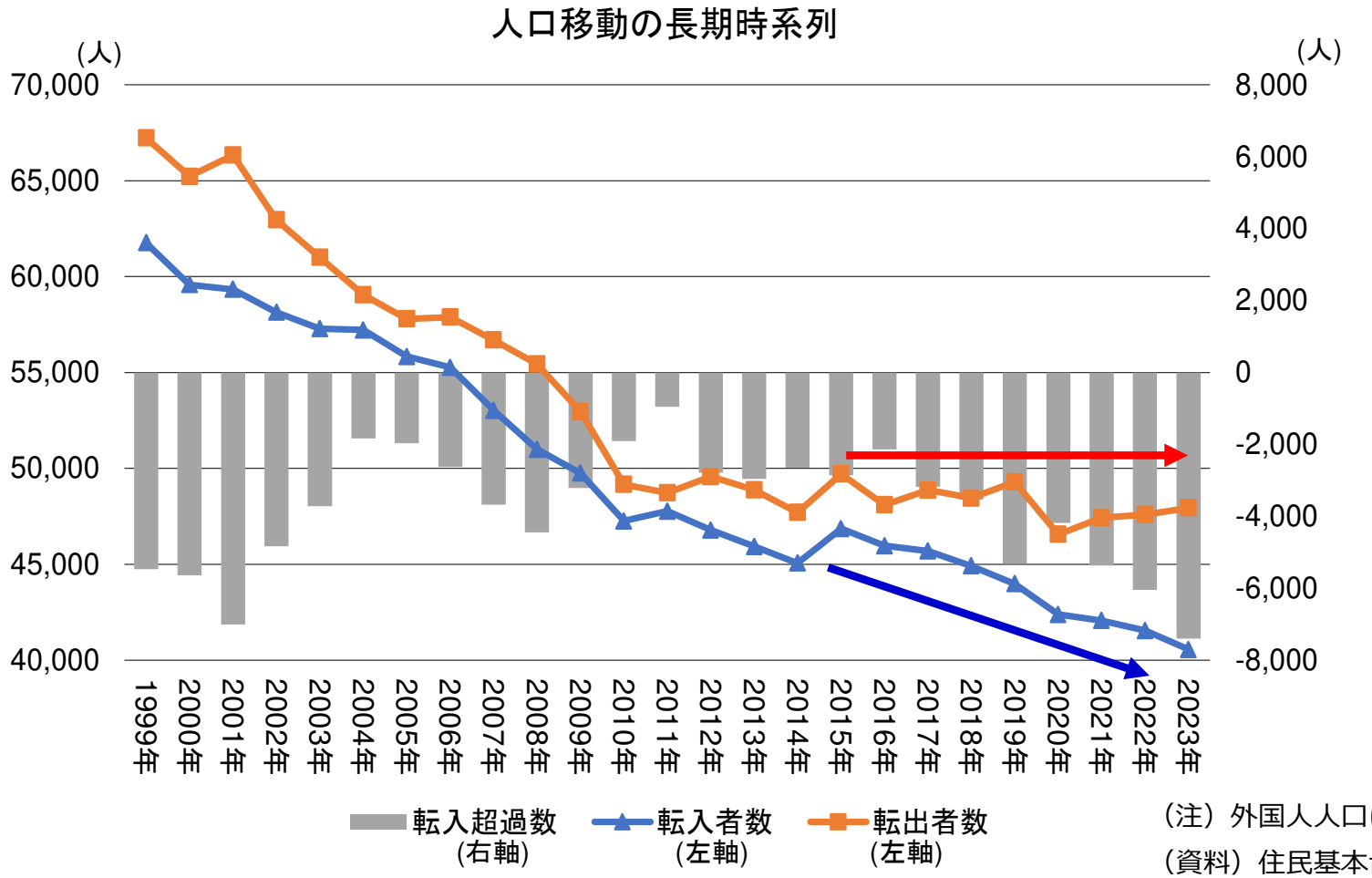
調査区分	実施内容
アンケート調査	■ 進学・就職・転職における定着・脱落過程を把握するためアンケート調査を実施（日本人を対象） ● Webモニター：広島県及び周辺県（鳥取・島根・岡山・山口・愛媛）在住または出身の**10,300人** 広島県及び周辺県非在住・非出身の**6,180人**　を対象としたアンケート ● 企業従業者：広島県より協力依頼をかけた企業の従業者を対象としたアンケート（**回収3,148人**） ● 同窓会・県人会の会員：広島県人会（**回収41人**）、および県内大学等同窓会の会員（**回収3校119人**） ■ 従業者の採用状況等に関するアンケート ● 企業採用担当者：広島県より協力依頼をかけた企業の採用担当者を対象としたアンケート（**回収385人**）
ヒアリング・インタビュー調査	■ アンケート調査結果を深掘りする形でヒアリング・インタビュー調査を実施（日本人を対象） ● Webモニター（グループ1：県外出身者だが広島居住を優先、グループ2：就活の過程で他県への転出を選択、グループ3：UIJターン経験者）、同窓会・県人会の会員等（**24人**） ● 企業採用担当部署、大学キャリアセンター（**12団体25人**）
統計・文献調査	■ 公的統計や既存の文献を通じて、社会減少の現状や、その背景となる就業、生活等に関するデータを整理・分析

２　広島県の社会減少の状況

2　広島県の社会減少の状況

■社会減少の推移

- 2023年は、1999年以降で最も転出超過数が多かった2001年を上回る水準となった。
- 最近10年の傾向としては、転出者数が高止まりしているのに対して、転入者数が減少しているため、転出超過数が拡大している。



（注）外国人人口は含まれない

（資料）住民基本台帳人口移動報告

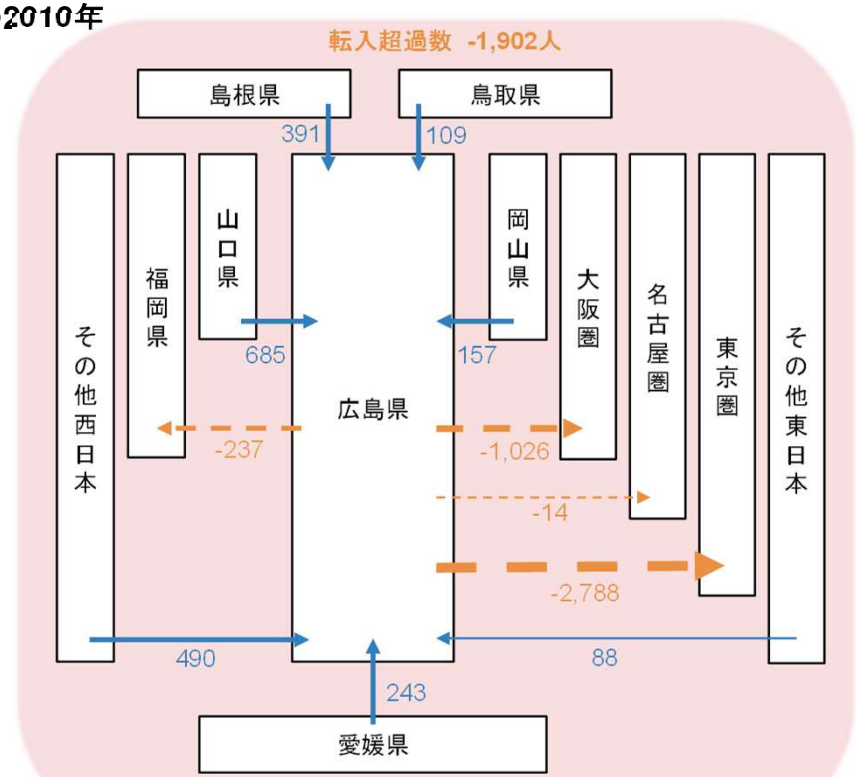
2　広島県の社会減少の状況

■地域別の転出入

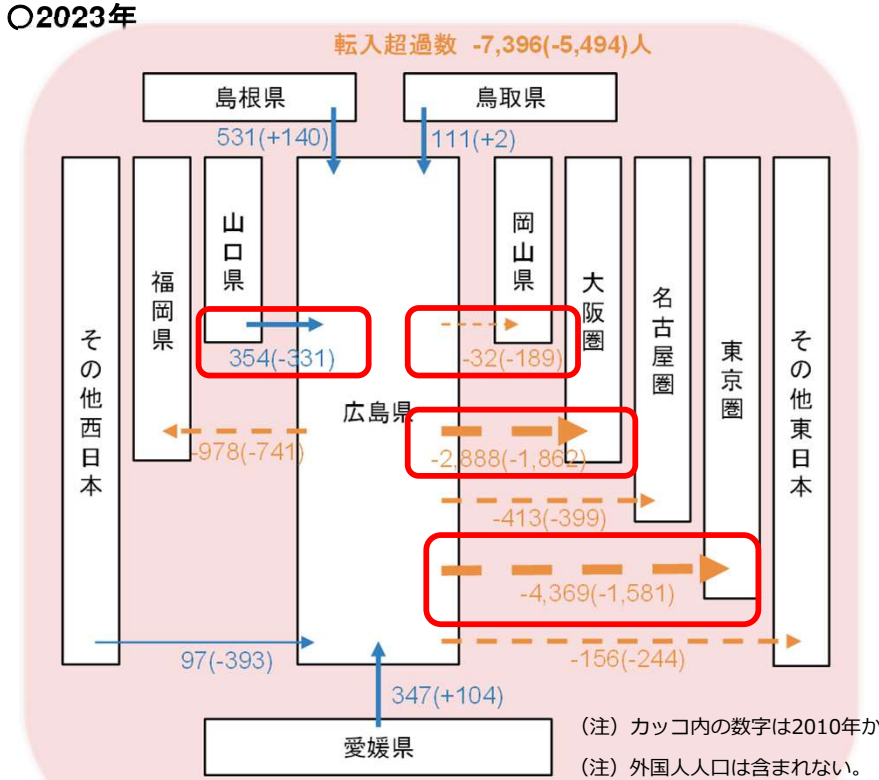
- 三大都市圏（東京圏・名古屋圏・大阪圏）と福岡県への転出超過が拡大している。
- 特に大阪圏への転出超過の拡大が顕著である。
- 対岡山県は年によって転入超過・転出超過を繰り返しているが、2010-23年通算では転出超過となっている。
- 山口県からの転入超過が半減している。

（注）東京圏　：東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県
名古屋圏：愛知県、岐阜県、三重県
大阪圏　：大阪府、兵庫県、京都府、奈良県

○2010年



○2023年



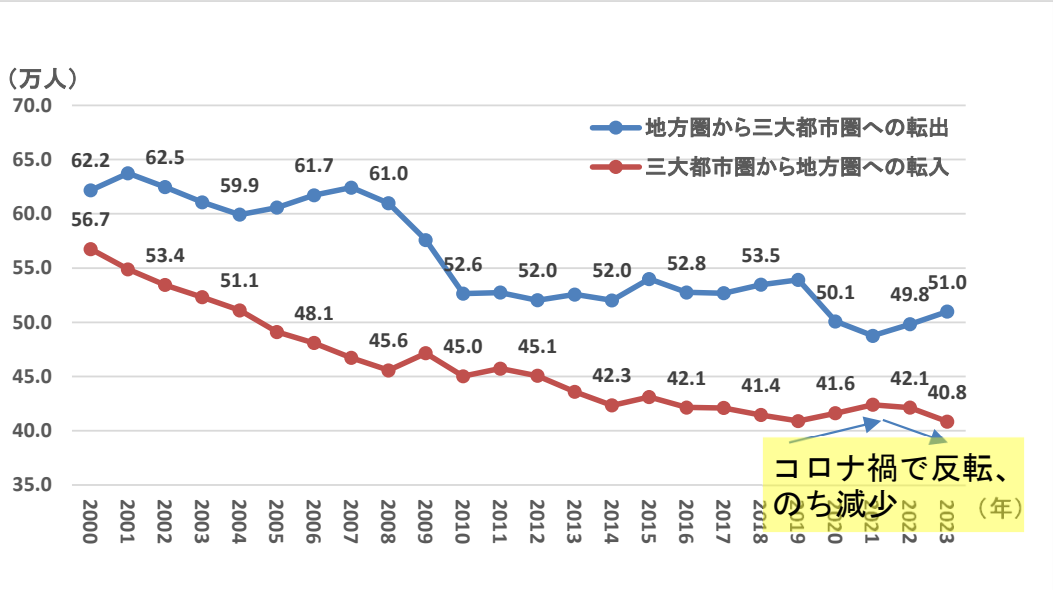
（注）カッコ内の数字は2010年からの増減数を示す。
（注）外国人人口は含まれない。
（資料）住民基本台帳人口移動報告

2　広島県の社会減少の状況

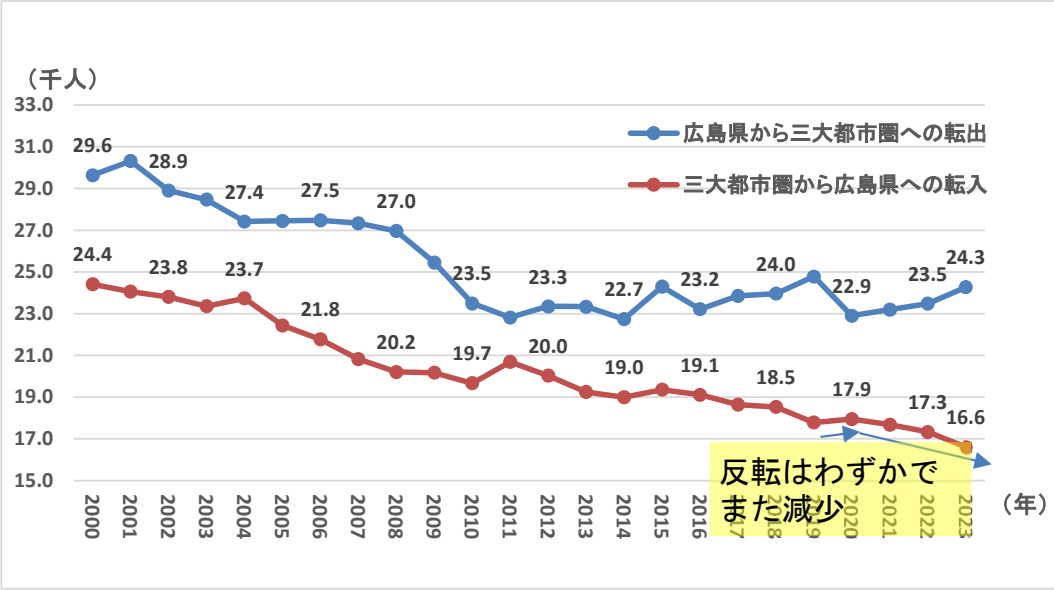
■全国的な動向との比較（三大都市圏との人口移動）

- 傾向として、三大都市圏から地方圏への転入が年々減少している一方で、地方圏から三大都市圏への転出は2010年代以降は横ばいにある。
- 広島県においても、地方圏全体と概ね同じ傾向にある。**三大都市圏からの転入減少が地方圏全体と比較してより顕著**であることが、直近の転出超過拡大の要因と考えられる。
- 地方圏全体で見れば、**コロナ禍の時期に三大都市圏からの転入が2年連続で増加**し、その後また減少に転じているのに対し、広島県は、**コロナ禍における反転が小さく、かつ1年のみ**に止まり、再び減少している。

三大都市圏と地方圏間の人口移動推移



三大都市圏と広島県間の人口移動推移



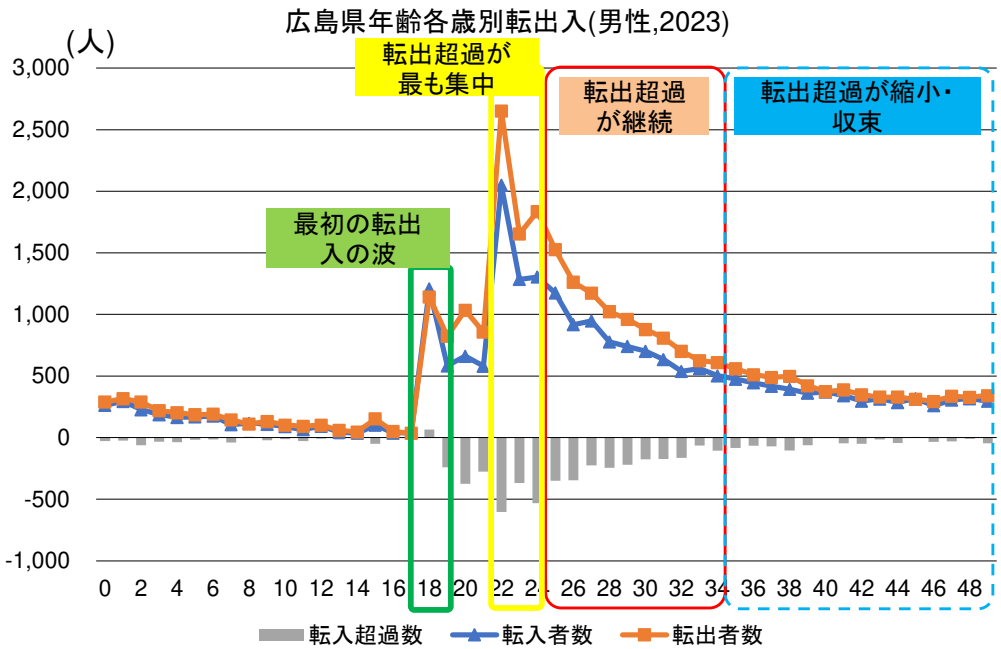
（注）外国人人口は含まれない。

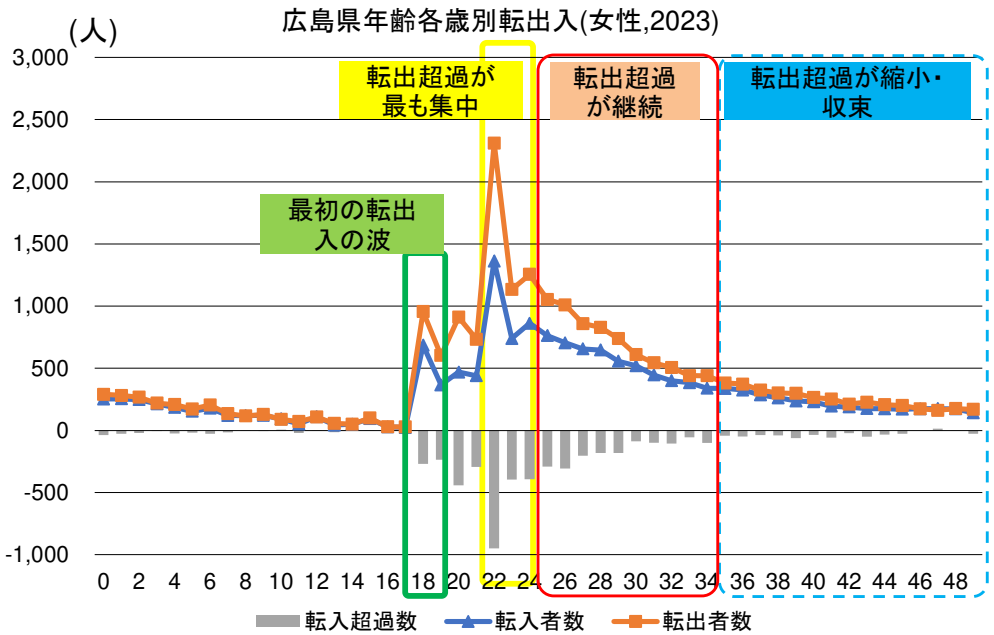
（資料）住民基本台帳人口移動報告

2　広島県の社会減少の状況

■年齢別の特徴

- 高校卒業に当たる18歳時点で、最初の転出入の大きな波がある。
- 次に、大学卒業から大学院修士課程修了にあたる**22-24歳で転出入の山が最大**となり、単年での転出超過が最も大きくなる。男女別では、女性の22歳における転出超過が際立っている。
- それ以降も小幅に転出超過が続き、 **40代半ばで転出超過はほぼ収束**する。
- 以上から、転出超過の大きな波としては、**大学進学、新卒就職、20代後半から40代までのUIターンという３つのフェーズ**に分けることができる。





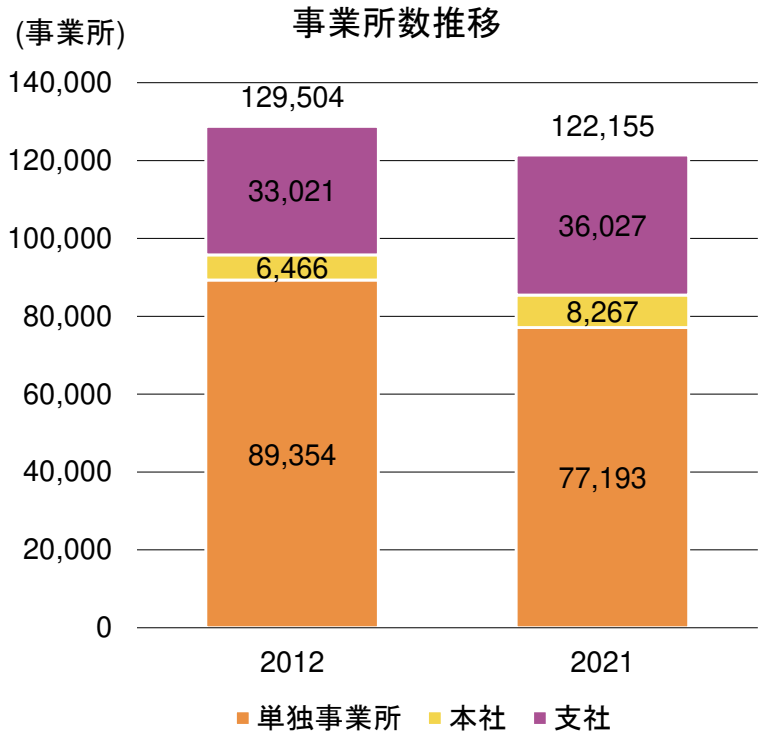
（注）年齢各歳別の集計値が公表されている日本人住民と外国人住民を含めた総数を掲載

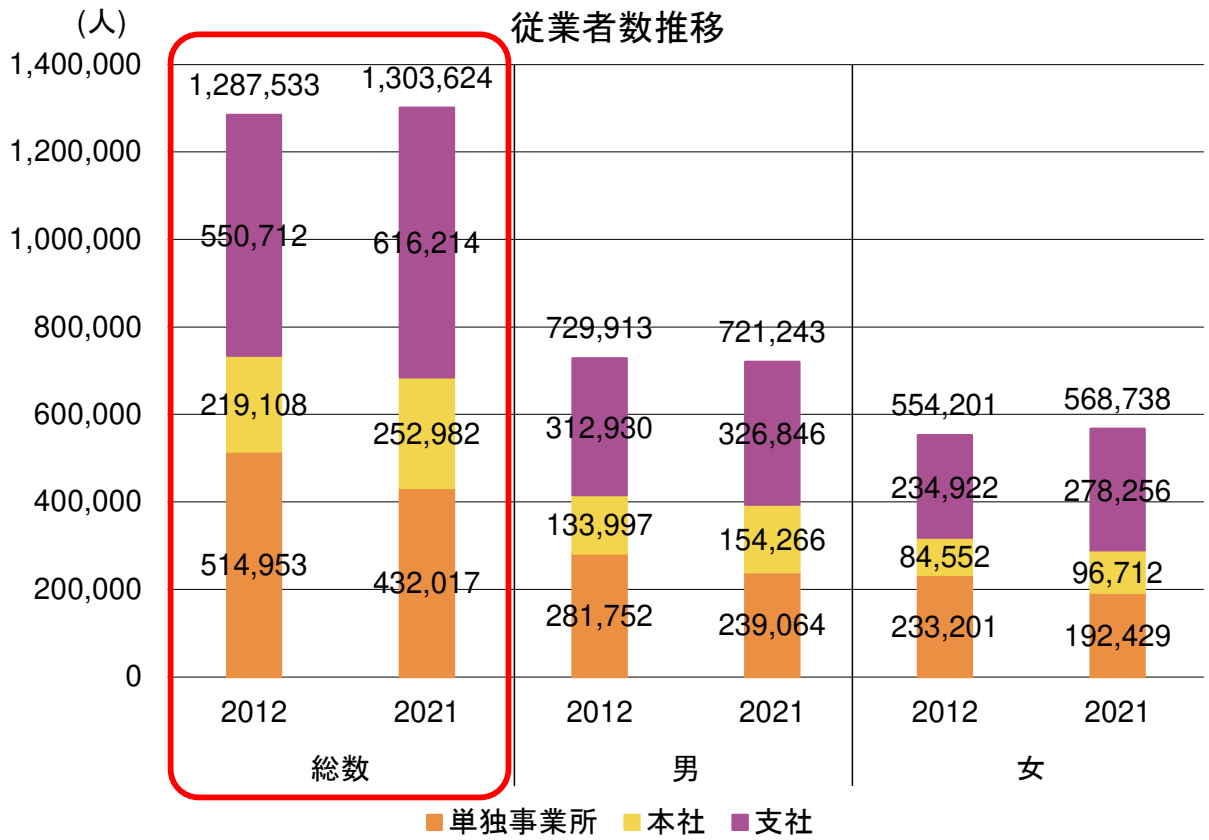
（資料）住民基本台帳人口移動報告

2　広島県の社会減少の状況

■広島県内の従業者数の推移

- 県内の従業者数は増加しており、少なくとも**量的に仕事がないから人が流出している、という状況ではない。**





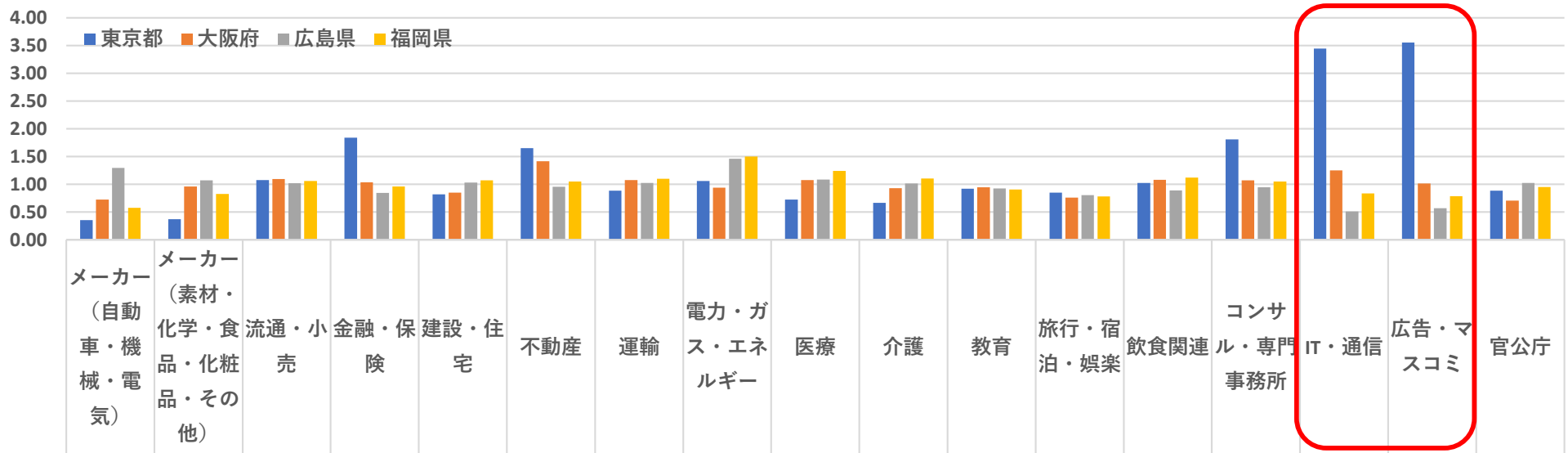
（注１）従業者数には外国人を含む。
（注２）総数には「法人でない団体」の事業所数、従業者数が含まれるため、内訳の合計値とは一致しない。
（注３）民営事業所についてのものであり、国及び地方公共団体の事業所を除く。
（資料）経済センサス活動調査(平成24年、令和3年)

2　広島県の社会減少の状況

■産業構造：従業者数特化係数の比較（東京都、大阪府、広島県、福岡県）

- 従業者数の特化係数（構成比の全国平均との比較）から東京都、大阪府、広島県、福岡県の産業集積を示した。
- 広島県は、電力・ガス・エネルギーといったインフラ産業や製造業の集積が厚い産業構造である他、医療も相対的に高い比率にあることが明らかとなった。
- **広告・マスコミ、IT・通信の分野では東京の比率が極めて高く**なっており、次いで、金融・保険やコンサル・専門事務所も東京に集積しており、**広島県との差が大きい。**

産業別従業者数の特化係数



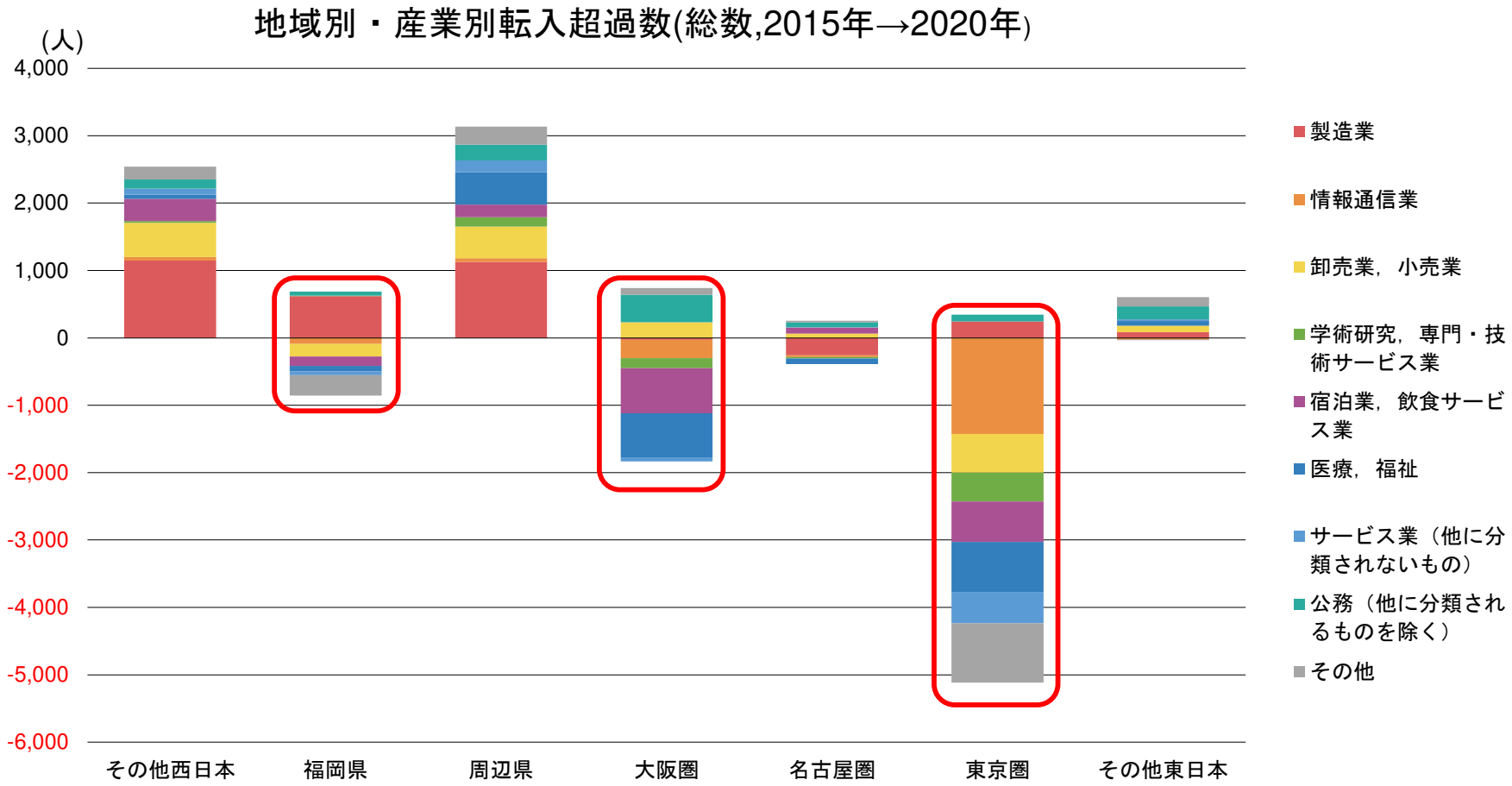
	メーカー（自動車・機械・電気）	メーカー（素材・化学・食品・化粧品・その他）	流通・小売	金融・保険	建設・住宅	不動産	運輸	電力・ガス・エネルギー	医療	介護	教育	旅行・宿泊・娯楽	飲食関連	コンサル・専門事務所	IT・通信	広告・マスコミ	官公庁
東京都	0.36	0.37	1.07	1.84	0.82	1.65	0.89	1.06	0.73	0.67	0.92	0.85	1.03	1.81	3.45	3.55	0.88
大阪府	0.73	0.96	1.10	1.03	0.85	1.41	1.08	0.94	1.07	0.93	0.95	0.76	1.08	1.07	1.25	1.02	0.71
広島県	1.30	1.07	1.02	0.84	1.03	0.95	1.03	1.46	1.09	1.02	0.93	0.81	0.89	0.94	0.51	0.57	1.03
福岡県	0.58	0.82	1.06	0.96	1.07	1.05	1.10	1.50	1.24	1.11	0.90	0.78	1.12	1.05	0.84	0.78	0.95

（注）産業分類は本調査のアンケートによる分類をもとに再編している。
（資料）総務省「令和3年経済センサス活動調査」をもとに作成

2　広島県の社会減少の状況

■産業構造

- 東京圏・大阪圏・福岡県に対しては、**情報通信業、宿泊業・飲食サービス業、医療・福祉**など第３次産業に属する多くの業種で転出超過となっている一方で、東京圏・福岡県からは製造業と公務、大阪圏からは公務など、いくつかの産業においては転入超過となっている。



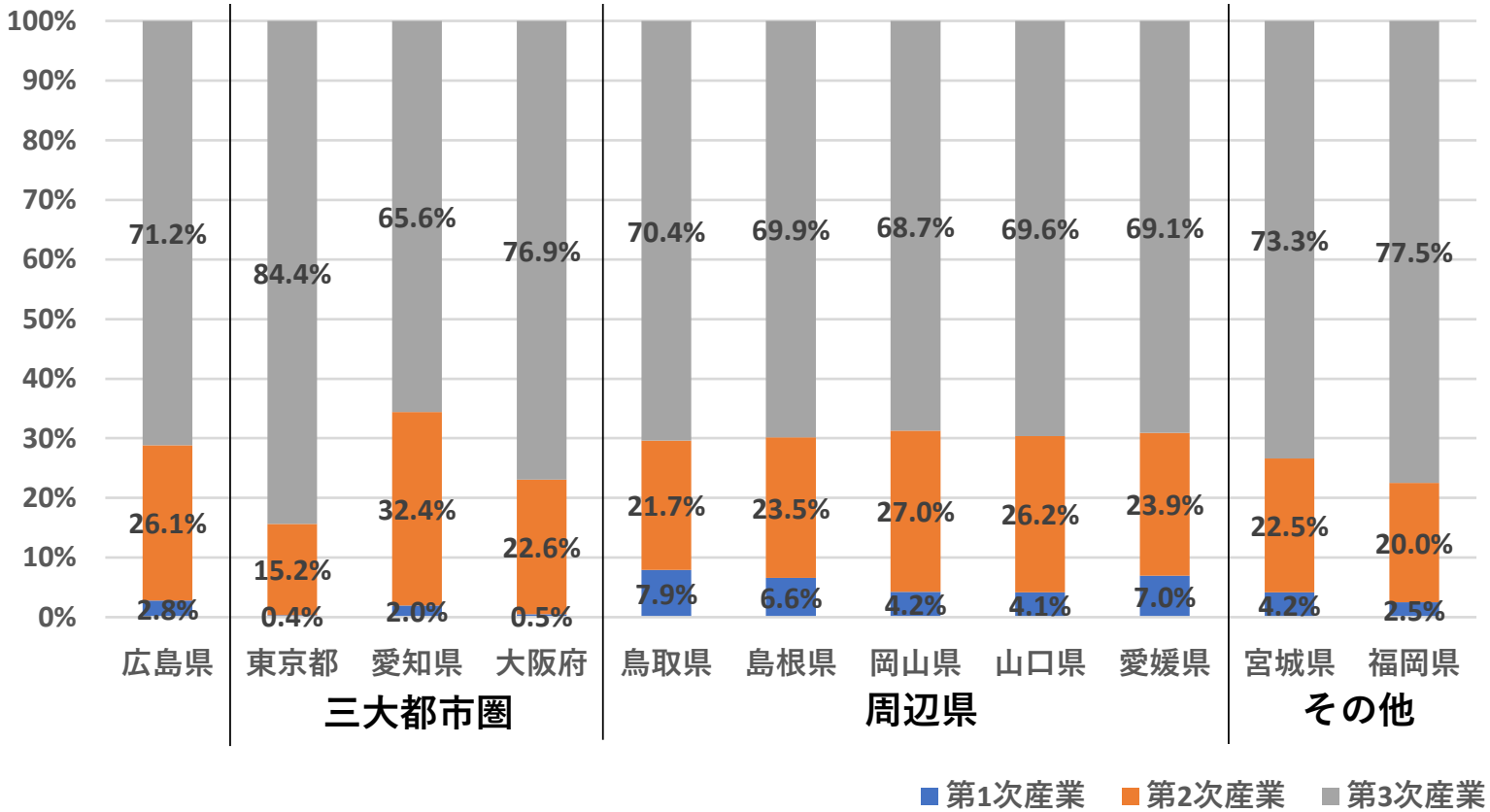
（資料）総務省「令和2年国勢調査」

2　広島県の社会減少の状況

■産業構造の比較

- 広島県において転出超過が多い東京都、大阪府、福岡県はいずれも広島県よりも5ポイント以上第３次産業の比率が高く、先にみたように広島県からこれらの都府県に**第３次産業の就業者が流出**している。
- 中国地方および愛媛県は、いずれも第３次産業比率がほぼ70%となっており、広島県が71.2%とこの中では最も高いが、差はわずかである。
- その他、各地方の中核となっている宮城県や福岡県と比べても第３次産業比率は低い。

産業別三分類別就業者数の構成比



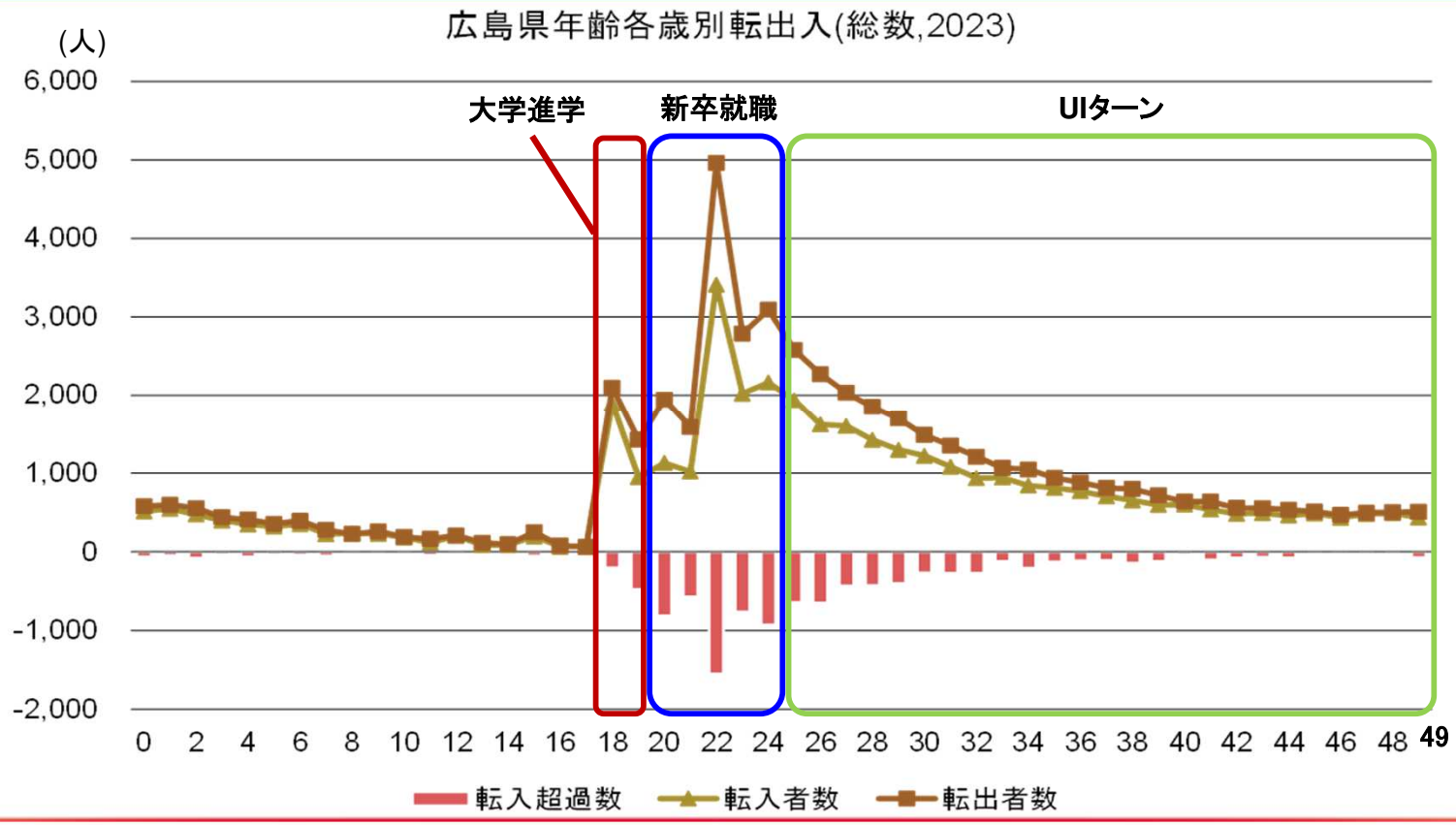
（資料）総務省「令和2年国勢調査」

３　社会減少の要因分析と課題解決の方向性

３－１　分析の対象

■ **分析の対象**

- 前述のとおり、転出超過の大きな波としては、**大学進学、新卒就職、20代後半から40代までのUIターン**という３つのフェーズに分けることができる。
- 高校卒業時の転出超過は、進学によるものと就職によるものが考えられるが、就職による転出数は全体の約４分の１に留まるため、**転出数が多く、学校基本調査により詳細な分析が可能な大学進学者**を分析の対象とした。
- 新卒就職時の転出超過は、転出数が多く、学校基本調査により**県外の大学に進学した数が推定できる四年制大学卒業者に焦点を当てて分析**を行った。
- UIターンについては、**転出超過がほぼ収束する49歳まで**を分析の対象とした。



（注）年齢各歳別の集計値が公表されている日本人住民と外国人住民を含めた総数を掲載

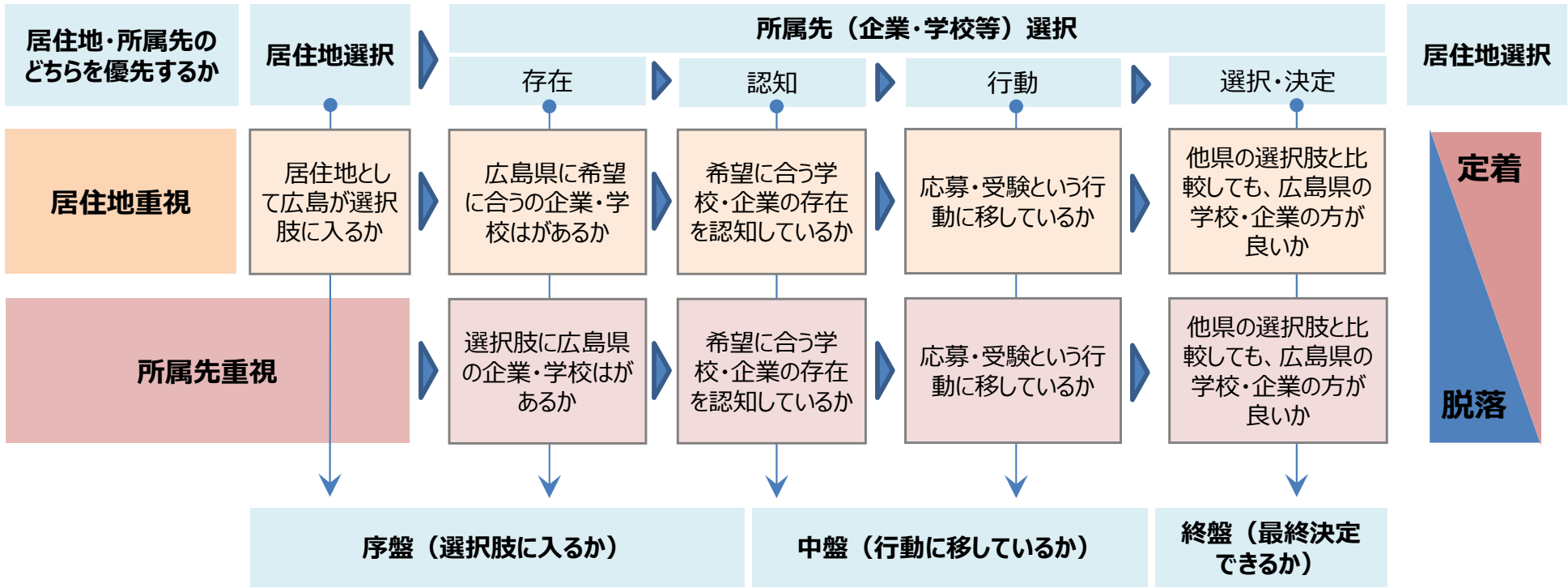
（資料）住民基本台帳人口移動報告

３－２　分析の方法

■「パイプラインによるアプローチ」について

・多くの人が同時期に経験し、ボリュームの推定をしやすい「大学進学」「新卒就職」という居住地選択の場面において、調査対象者が「居住地を重視しているのか」、「所属先を重視しているのか」のどちらに該当するか大別した上で、各対象者が、**序盤（選択肢に入るか）、中盤（行動に移しているか）、終盤（最終決定できるか）の選択段階において、どのように「定着（広島を選ぶ）」と「脱落（広島以外を選ぶ）」に分かれているのかを分析**した。

〈パイプラインによるアプローチ〉



3-3：ライフステージごとの分析

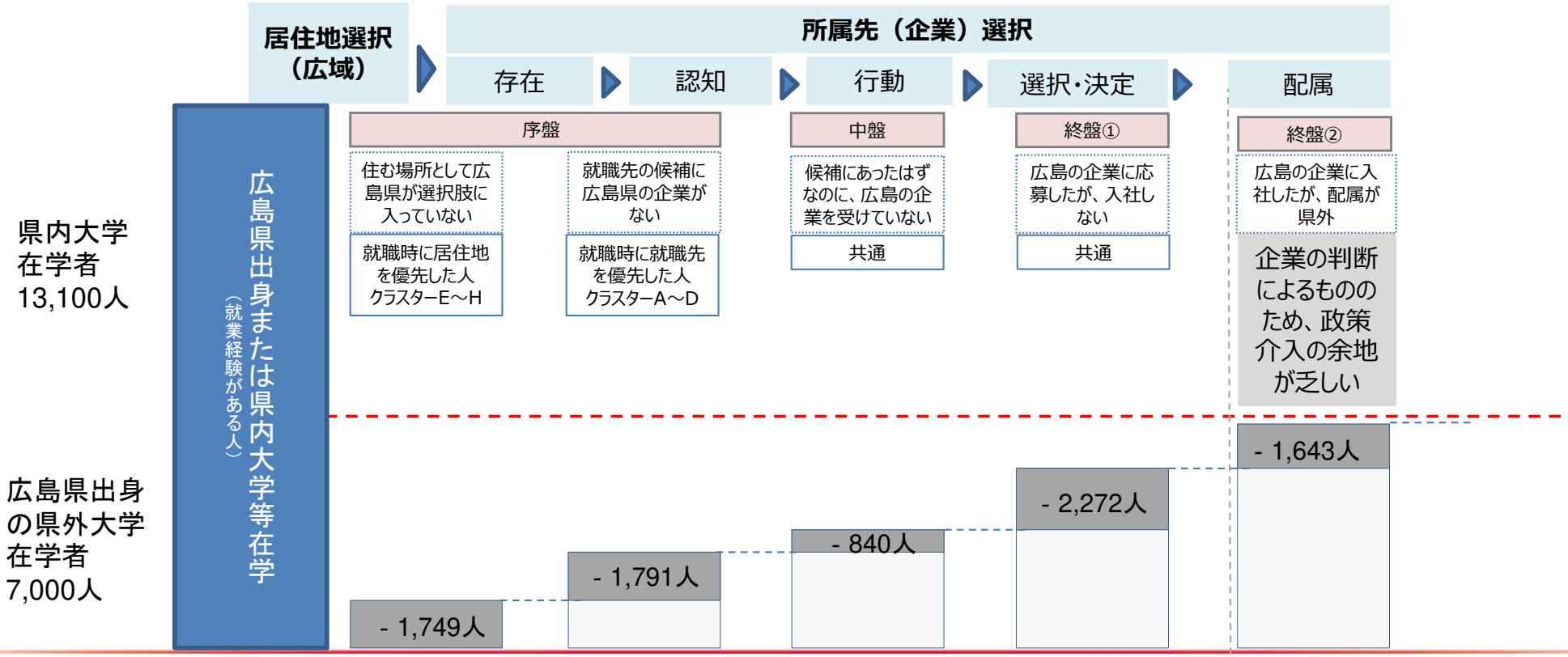
3-3-1：新卒就職
3-3-2：UIターン
3-3-3：大学進学

3-3-1 ：新卒就職

新卒就職 分析手法について

■パイプラインアプローチを用いて、脱落を防ぐ段階を見定める

- 新卒就職におけるパイプラインアプローチにおいては、**住む場所として広島県を候補から外した人、就職先の候補として広島県に本社・事業所がある企業を外した人を「序盤」**による脱落者とした。
- また、**広島県を候補にしていたにもかかわらず、広島県に本社・事業所がある企業を第5希望までの企業に挙げなかった人（面接を受けていない人）を「中盤」、面接を受けたが入社しなかった人を「終盤①」**とした。
- さらに、**広島県に本社・事業所がある企業に入社したが、最初の勤務地が広島県とならず、結果的に転出となった人を「終盤②」**とした。この属性については、企業判断によるもので政策介入の余地が乏しいため、対策の検討対象から外している。



（資料）Webモニターアンケート及び文部科学省「学校基本統計」より作成

新卒就職 分析手法について

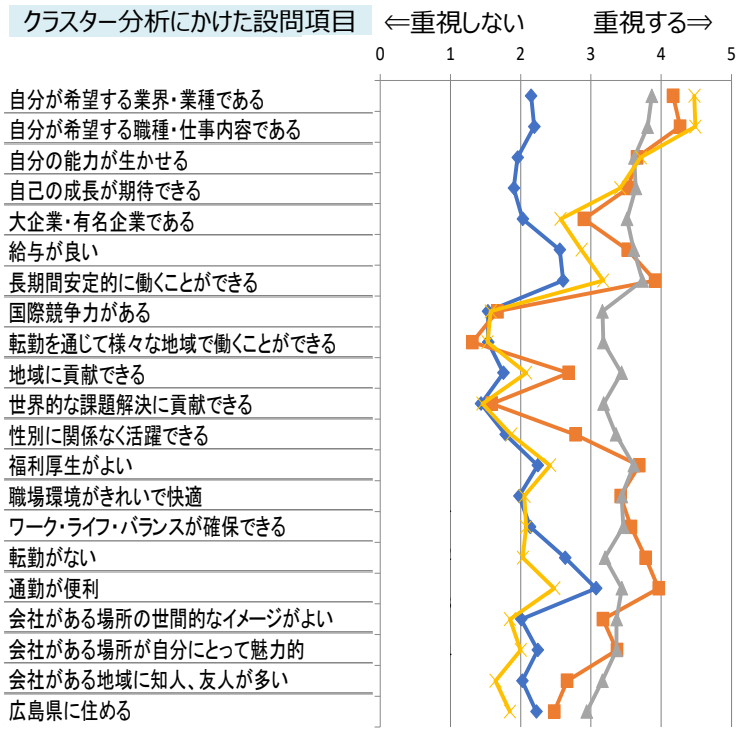
■クラスター分析を踏まえて志向パターンで対象を分類

・転出超過が最も多い新卒就職時を分析するに当たり、居住地や就職先に対する志向によって行動に違いが生じるのではないかという仮説の下、アンケート調査の設問（就職先/居住地を選択する際に重視する項目）に対する回答に基づき、**一定の同じ志向を持つ人たちのクラスター（集団）に分類**することとした。

・その上で、**クラスターごとに、パイプラインによるアプローチを用いて分析**し、脱落理由の解像度を上げた。

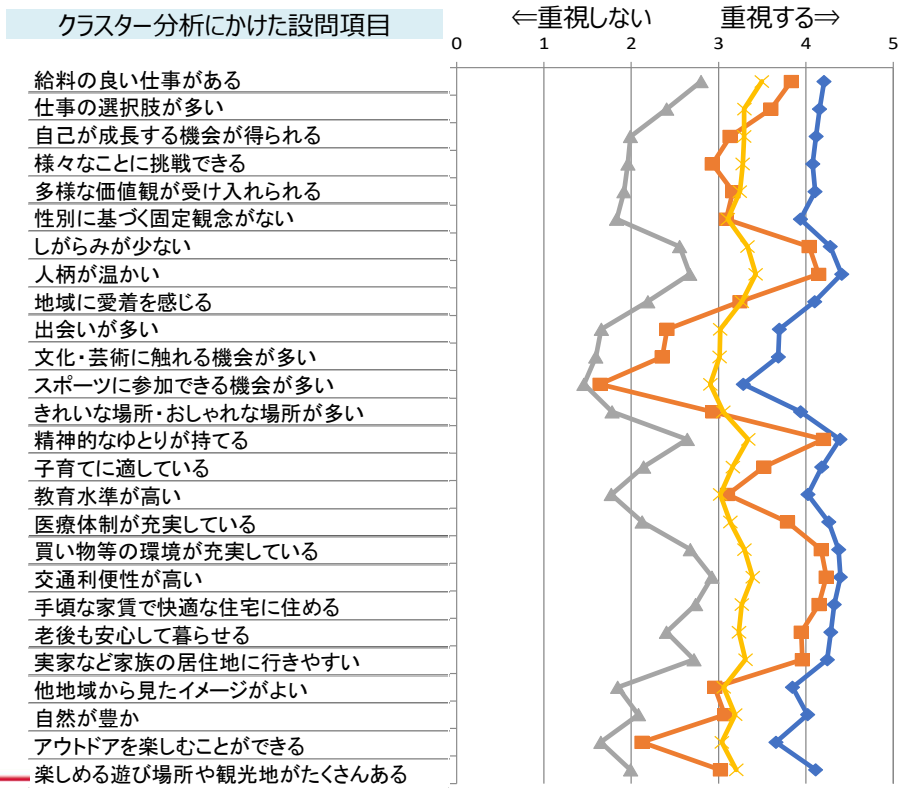
就職先を選択する際に重視する項目のクラスター

- クラスターA:成長志向
- クラスターB:業務分野・適性重視
- クラスターC:安定・WLB重視※ ※WLB：ワーク・ライフ・バランス
- クラスターD:こだわりが薄い



居住地を選択する際に重視する項目のクラスター

- クラスターＥ：相対的にアクティブ志向
- クラスターＦ：全方位こだわり型
- クラスターＧ：安定・ゆとり重視
- クラスターＨ：こだわりが薄い



（資料）Webモニターアンケート

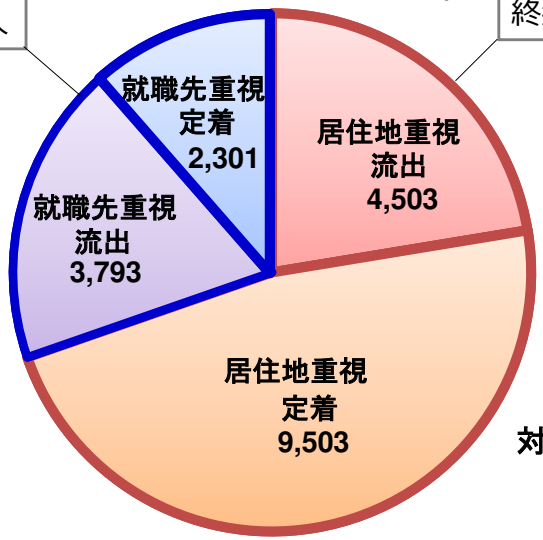
新卒就職 分析手法について

・**８つのクラスターに分類**し、それぞれのクラスターに当たる人が、どこへどのような理由で流出（脱落）/定着しているかを分析することにより、**クラスターごとの脱落理由を把握する。**
※クラスターD・Hはボリュームが少なく、かつ、志向についての特定の傾向も見られないため、施策に対する効果を見込みにくいことから、分析対象外とする。

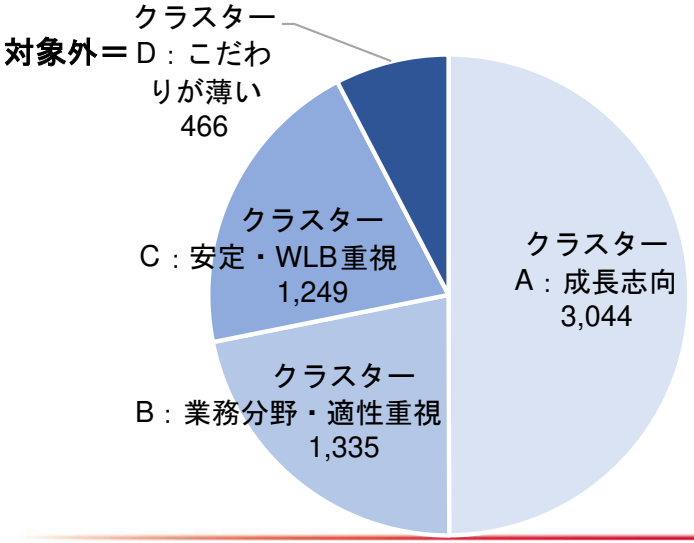
序盤脱落：1,792人
中盤脱落：　360人
終盤脱落：1,641人

（単位：人）

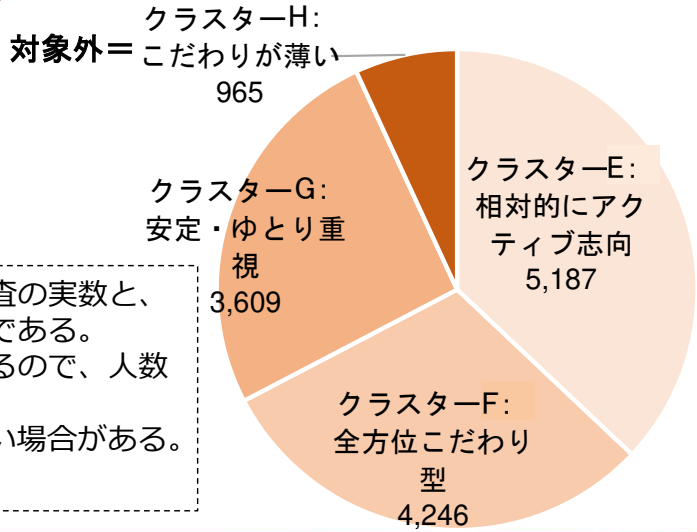
序盤脱落：1,748人
中盤脱落：　480人
終盤脱落：2,275人



就職先重視 6,094人



居住地重視 14,006人



※ここで算出している人数は、学校基本統計調査の実数と、アンケートの回答傾向をもとに算出した概算値である。
そのため、相応の誤差は生じるものと想定されるので、人数は概数を把握するための目安と理解されたい。
※端数処理により、合計と内訳の計が一致しない場合がある。
（以下のグラフ・データにおいても同様）

（資料）Webモニターアンケート及び文部科学省「学校基本統計」より作成

クラスターA
（就職先重視：成長志向）

業種・職種といった分野から**「給与等の待遇」「自己の成長」**といった事項まで、様々な項目を重視するクラスターである。特に、他のクラスターがあまり重視しない**「国際競争力がある」「世界的な課題解決に貢献できる」**といった項目も重視しており、**成長志向が強いクラスター**と捉えることができる。

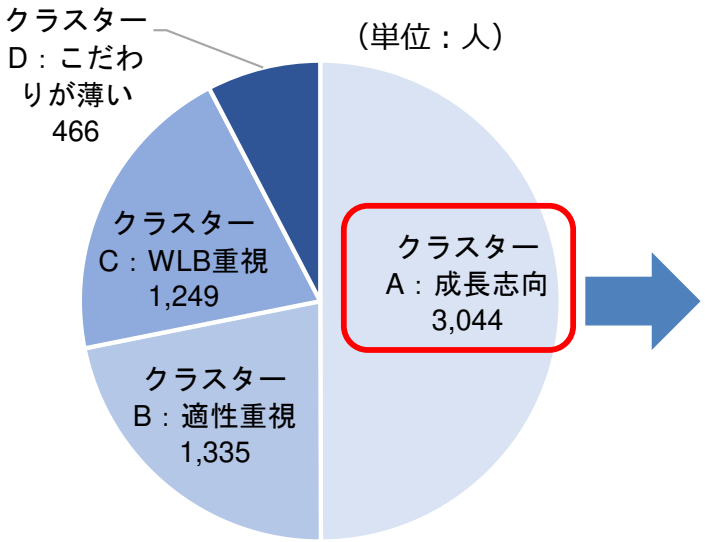
クラスターA　（就職先重視：成長志向）【全体ボリューム・脱落プロセス】

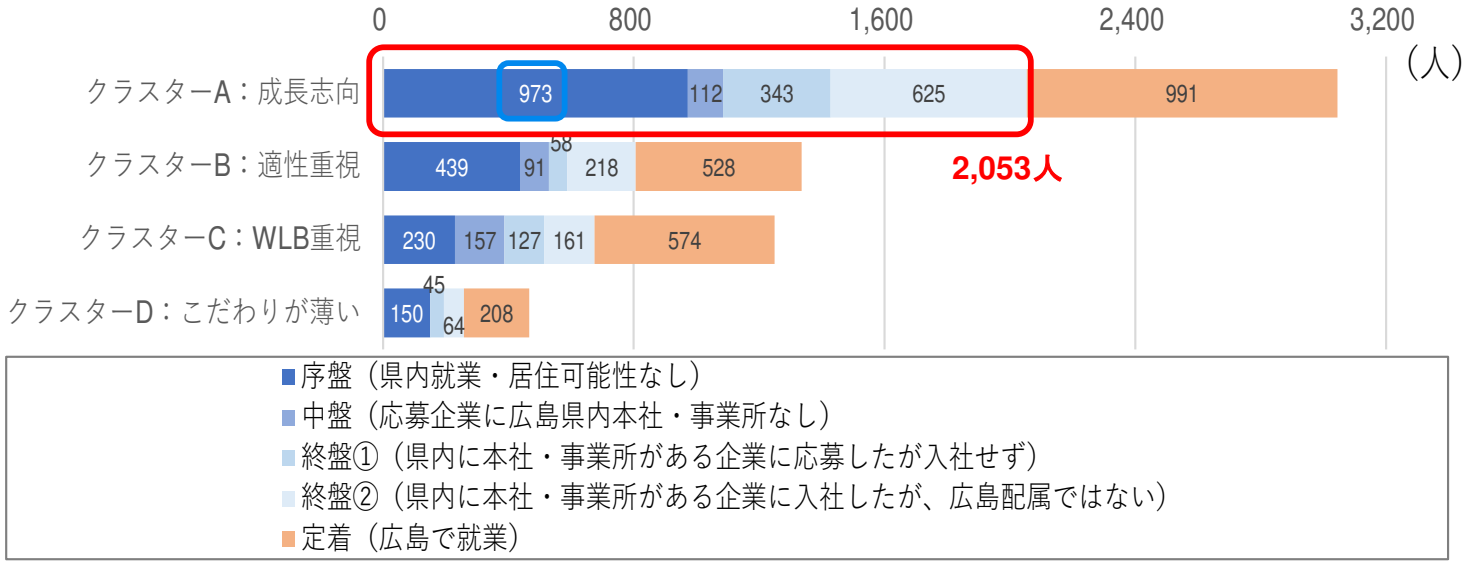
全体ボリュームと脱落プロセス

- クラスター全体の人数は3,044人。そのうち、定着者は991人（定着率：32.6%）
- 脱落者は2,053人（脱落率：67.4%）で、**序盤脱落者は973人**

➢ **序盤での脱落が多い。**

全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス





（資料）Webモニターアンケート

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）　【志向】

広島に対するイメージ

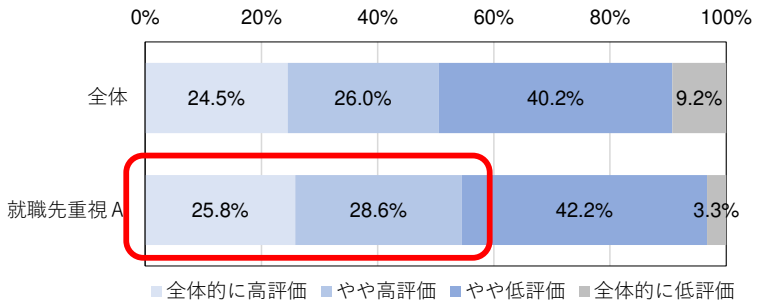
- 広島県の居住環境に対する評価の傾向を見ると、脱落者全体や定着者全体と比較しても、「全体的に高評価」「やや高評価」の比率が高い。

➢ あくまで**就職先を優先すると広島県の企業にならなかった**、というだけで、**居住地としての広島県に対するイメージが他のクラスターに比べて悪いわけではない。**

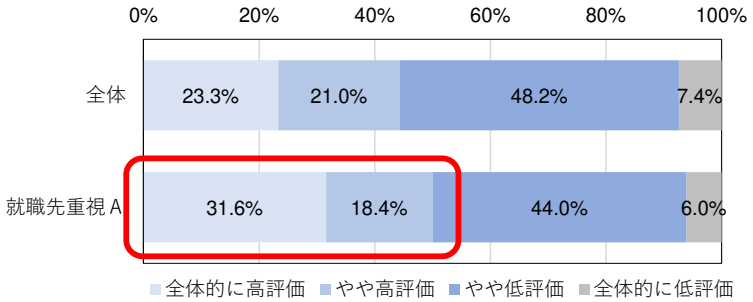
脱落者・定着者別の広島県に対するイメージの傾向

比率

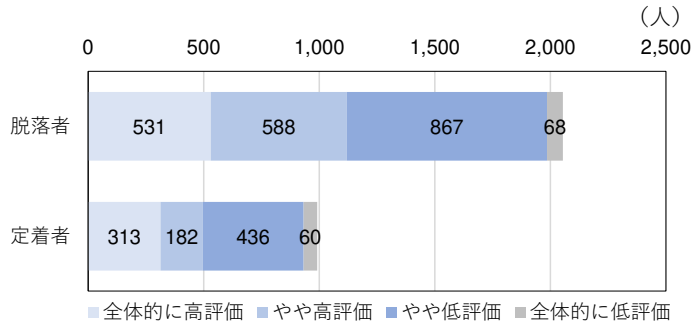
脱落者



定着者



実数



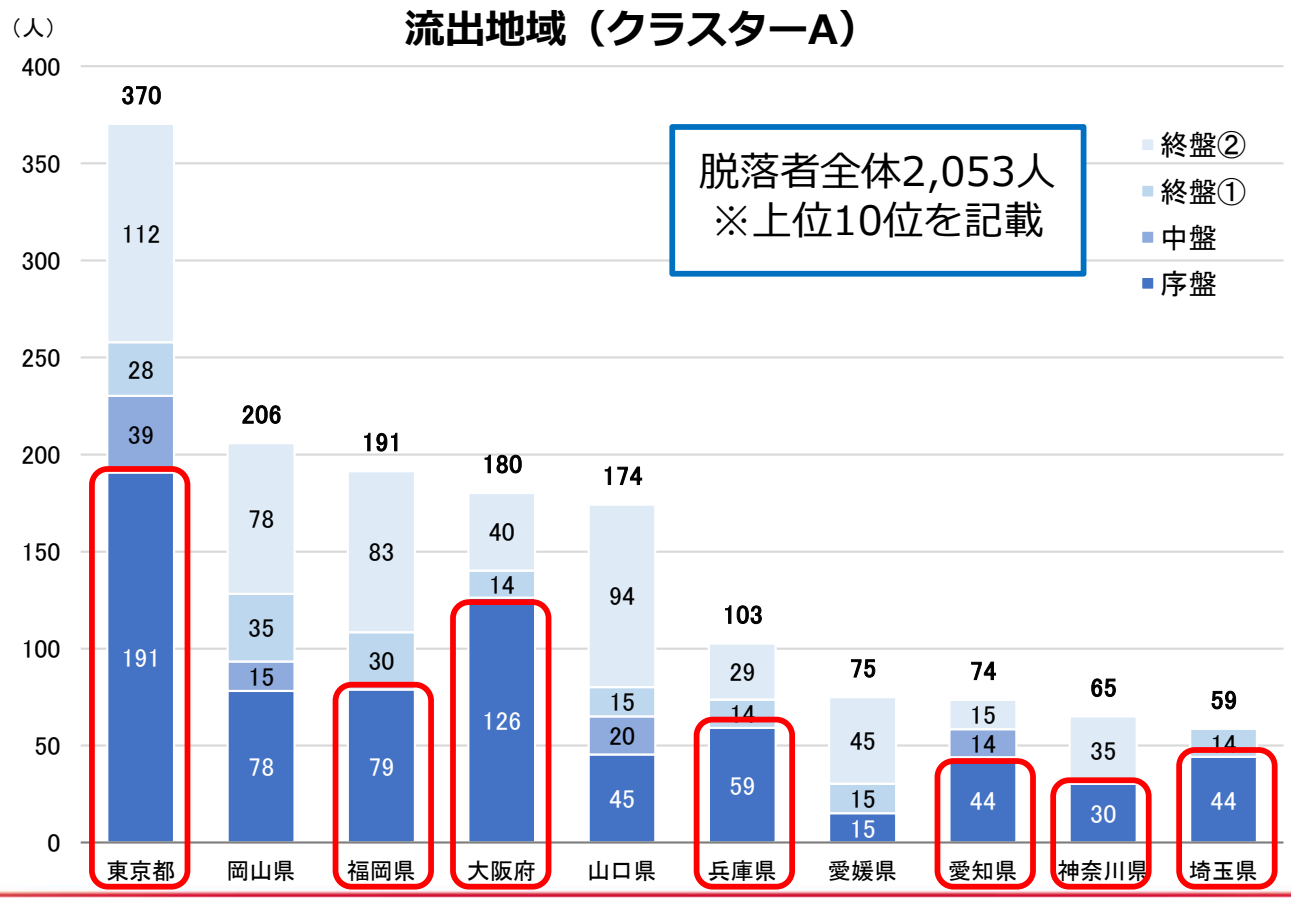
（資料）Webモニターアンケート

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）　【行動】

流出地域

- 脱落者の脱落段階を地域別に見ると、東京都への流出者のうち51.6%（191人）、大阪府への流出者のうち70.0%（126人）が**序盤で脱落**している。

➢ **都会に流出している人は、序盤で脱落**している傾向がある。



（資料）Webモニターアンケート

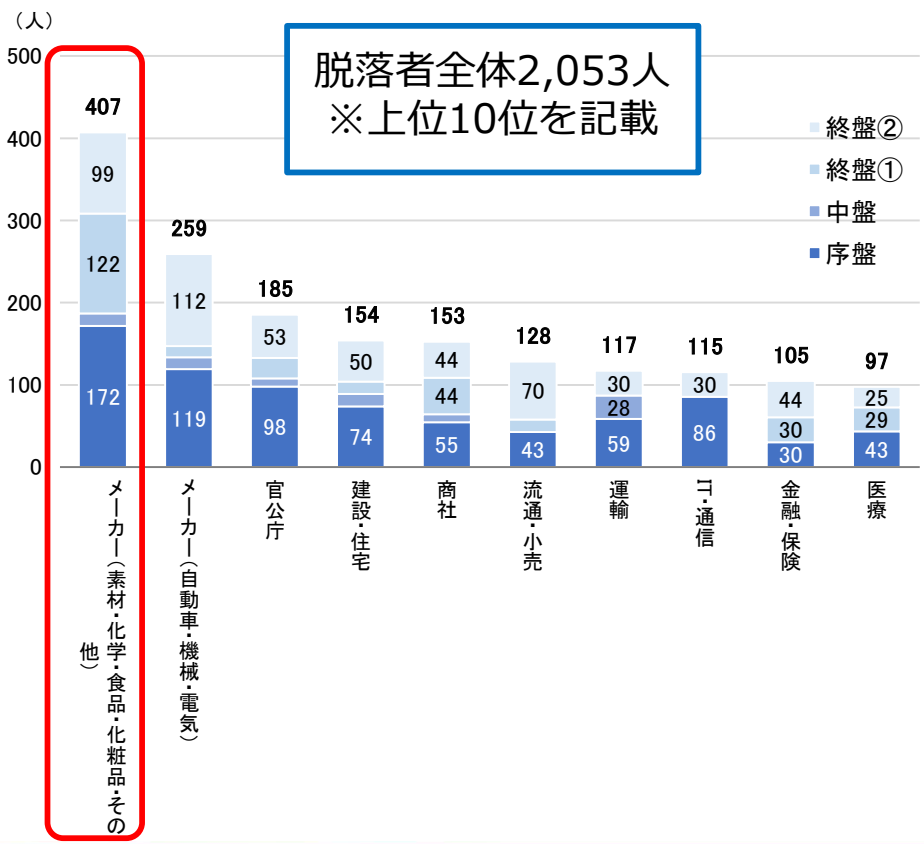
クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【行動】

第一志望業種

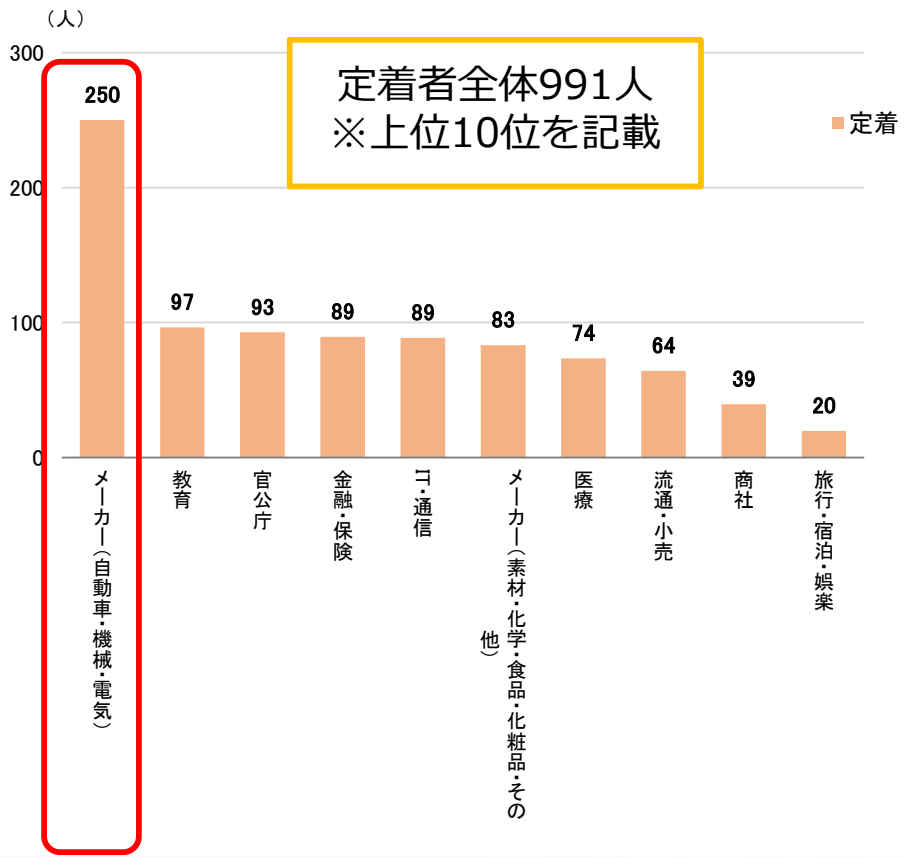
- 脱落者と定着者の志望先業種を比較すると、両者とも**メーカーの志望者が最も多い**が、脱落者が「メーカー（素材・化学・食品・化粧品・その他」を最も志望している一方、定着者は「メーカー（自動車・機械・電気）」を最も志望している。

➢ **脱落者も広島に一定の集積がある業種を志望**している。

第一志望業種（クラスターA ）（脱落）



第一志望業種（クラスターA ）（定着）



（資料）Webモニターアンケート

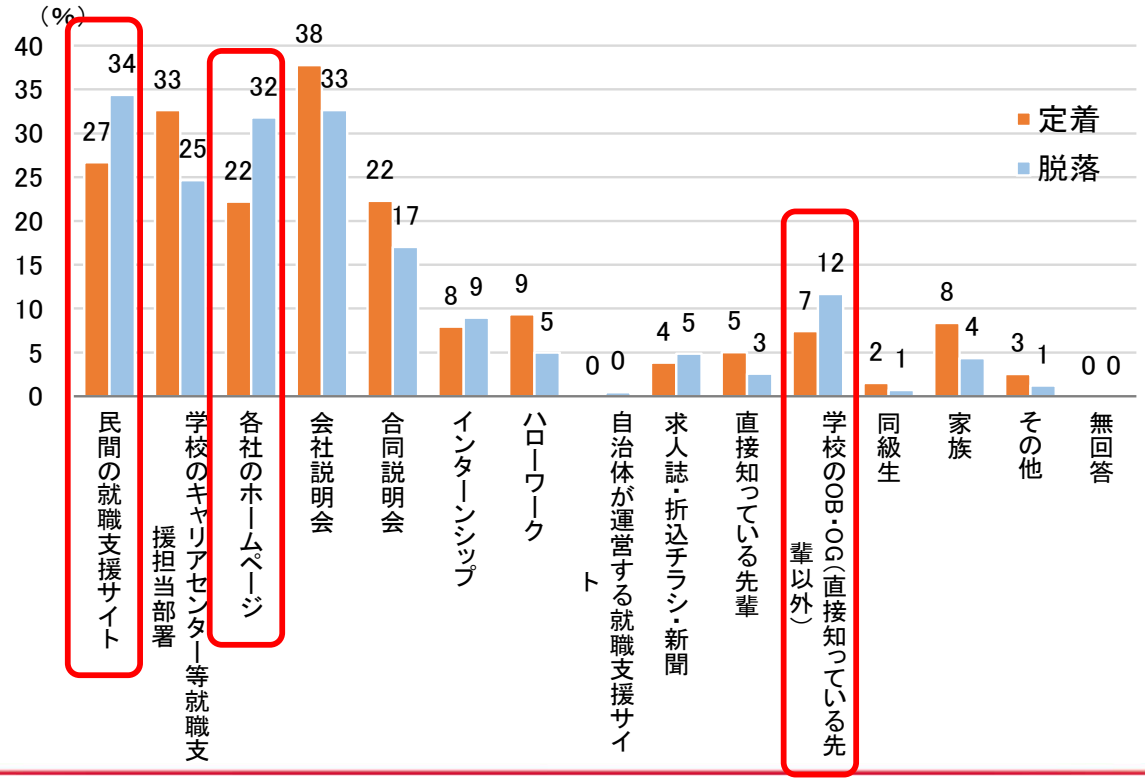
クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【行動】

情報収集手段

- 脱落者と定着者の情報収集手段を比較すると、脱落者は「民間の就職支援サイト」、「各社のホームページ」、「学校のOB・OG（直接知っている先輩以外）」の割合が比較的多い。
- 一方で、**キャリアセンターの利用割合は低い。**

➢ 脱落者は**民間の就職支援サイトや各社のホームページを見ながら、自分で志望先をある程度特定**し、OB訪問をするなどして情報収集を行っているのではないか。

情報収集手段-全般（クラスターA ）



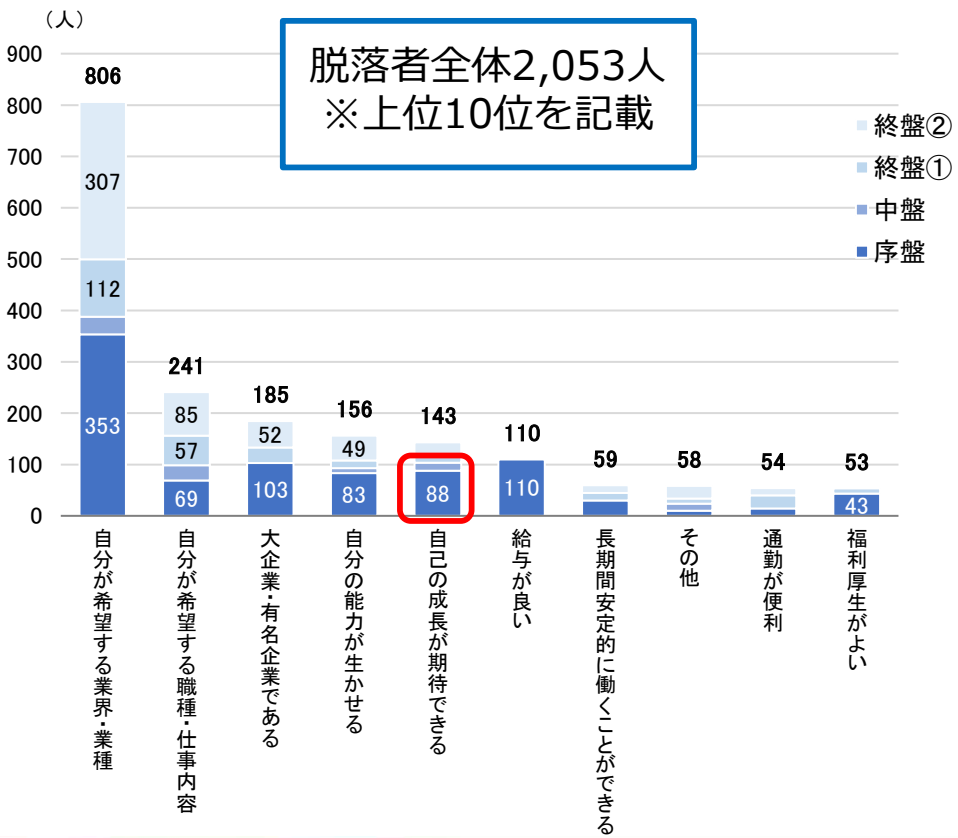
（資料）Webモニターアンケート

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【行動】

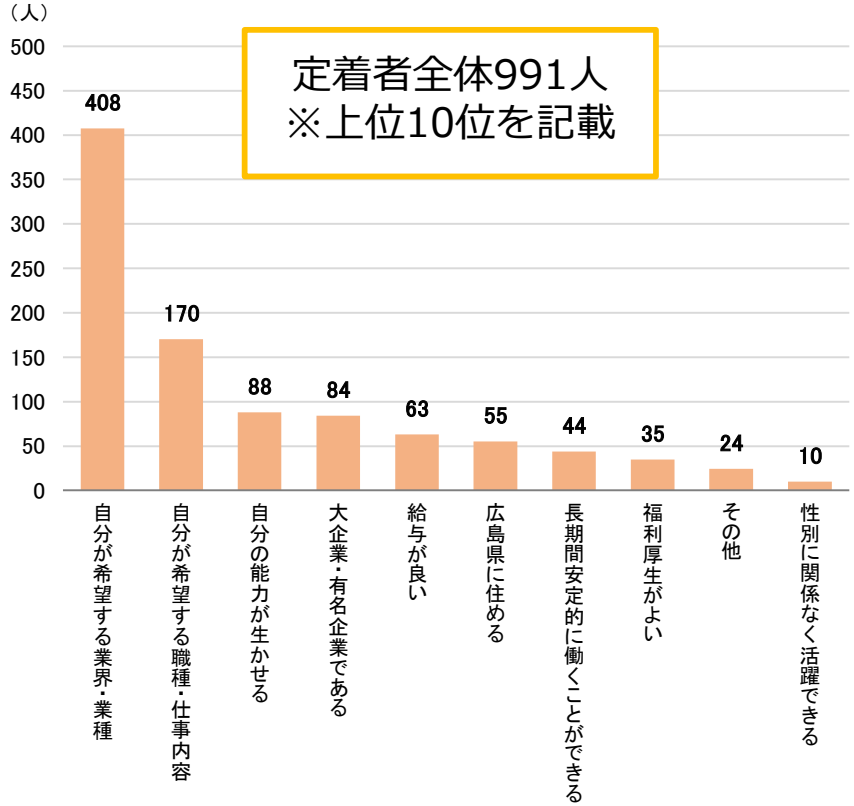
就職先の決め手

- 脱落者、定着者とも「自分が希望する業界・業種」という回答が最も多い。
- 脱落者の上位回答の中には、定着者の上位には出てこない**「自己の成長が期待できる」**という項目があり、序盤で脱落している人にその回答者が多い。

就職先の決め手（クラスターA ）（脱落）



就職先の決め手（クラスターA ）（定着）



（資料）Webモニターアンケート

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【補足情報】

ヒアリング結果より

■知名度の格差

- マイクロンメモリー、ディスコ、ローツェ、JELなどは製造業で**比較的大きい会社であるのに全く知られておらず、学生がエントリーすらしていない**。他方でエフピコは一定の認知度があり、**非常にばらつきがある**。（大学キャリアセンターＢ）
- いい企業はたくさんある一方で、マツダなどの一部の上場企業しか知られていないため、そこがアピールできるといい。関東にあるからいい企業というわけではなく、地元でもいい企業はある。マイナーでも待遇がよい、福利厚生がよいなど、大学生や高校生を引き付けるような企業は広島に多くあると思う。（クラスターAに分類されるWebアンケート回答者）

■就活の変化とミスマッチ

- 各大学で、**合同企業説明会を実施しても学生が集まらない。学生が自分たちで情報を入手できており**、企業側のスカウトから情報が来るケースも増えている。その分、**よく吟味せずに内定を得られるので、ミスマッチが起きている**のではないか。（大学キャリアセンターＡ）
- オンライン面接などが増えたことで、**東京の企業が地方学生を採用しやすくなっている**。最近は最終面接だけ対面で、その交通費も企業が負担するケースが増えている。（大学キャリアセンターＡ）

■効果的な会社説明

- **BtoBという切り口**で何かのイベントをしてほしい。様々な業種全体で合同説明会をすると、BtoC企業のブースに学生が流れてしまう状況がある。（製造業）

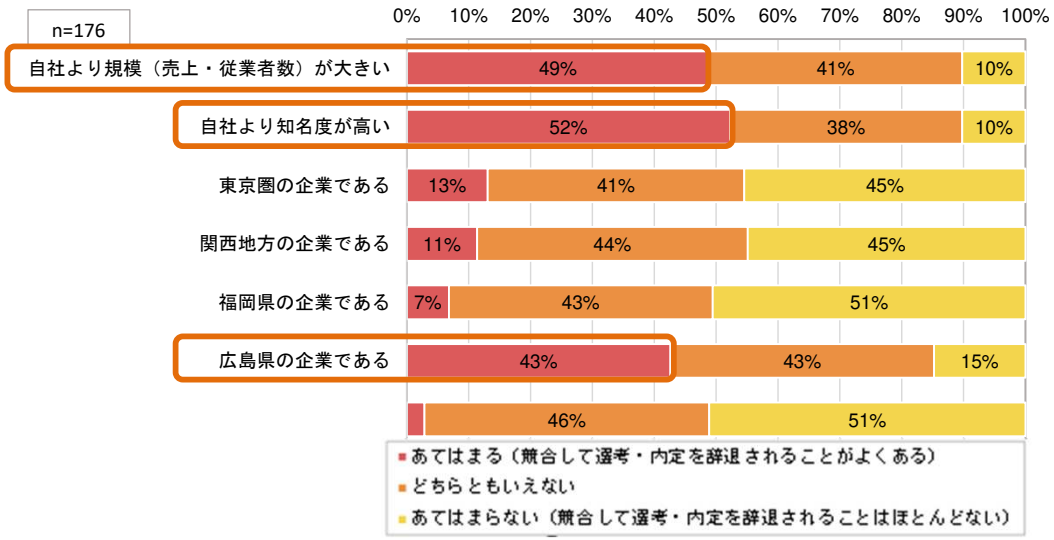
クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【補足情報】

企業アンケート結果より

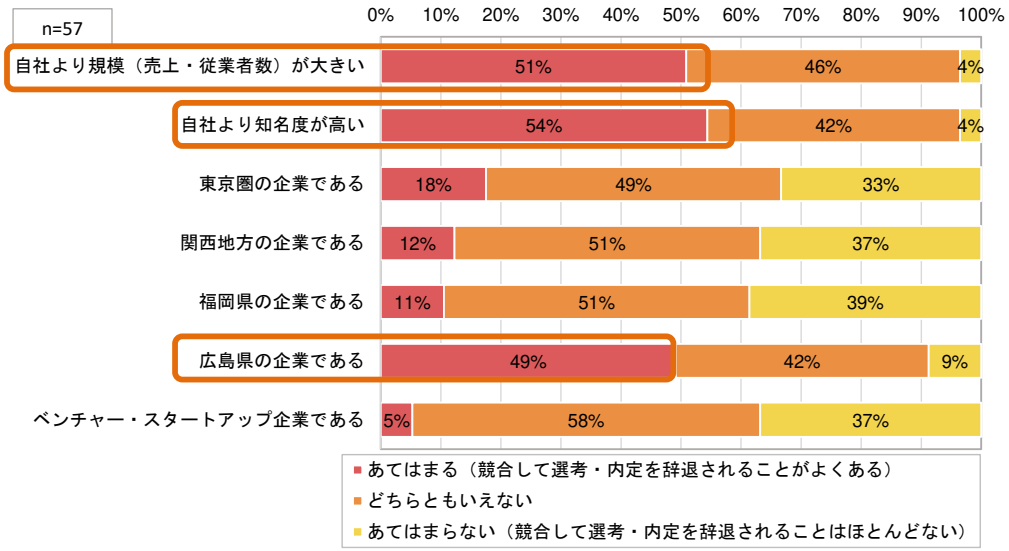
■競合した場合の流出先

- 採用候補者の流出先については、**同業種・異業種いずれにおいても、自社より大きな企業、知名度が高い企業に流出していると感じている企業が多い。**
- また、**他県の企業に流出しているというよりは、県内の企業に流出していると感じている企業が多い。**

採用候補者の流出先が同業種だった場合の企業の属性



採用候補者の流出先が異業種だった場合の企業の属性



（資料）企業従業者アンケート

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 広島県に対するイメージは悪くないが、就職活動の序盤段階で、**主に民間の就職支援サイトや業界大手のホームページから情報収集している中で、結果として、選択肢の中心が都会の大企業**となり、**広島県内企業が選択肢に入らない。**
- 自分の**成長イメージが持てる企業や大企業が広島県内にあったとしても気づいていない、又は、実際に存在していない**ために脱落している人が多数いるのではないか。

《行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している574人。

上記理由に該当する脱落者の推定数（単位：人）

流出先＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	計
都会	574	54	100	314	1,042
その他の県	399	58	243	311	1,011
計	973	112	343	625	2,053

大学所在地	性別	実数
広島県内	男性	257
	女性	30
県外	男性	232
	女性	55

該当者の所在・性別（推定数）

※ここでの「都会」は東京都、埼玉県、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県に流出した人をカウントしている。
※公的統計によるデータとアンケート回答者の回答比率を組み合わせて人数を推定しているため、端数処理の関係上、内訳と合計が一致しない場合がある。

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 推定される脱落理由の該当者（序盤で脱落し、大都市で就職している学生）は、県内と県外で、実数、出現係数（※）とも大きな差はないが、男女別に見ると明確に実数・出現係数とも女性よりも男性の方が大きく、男性が主要なターゲットとなる。
- 序盤の脱落者が多くみられる属性は、県内大では「県外出身の理系学生」という傾向が明確に見られるため、ここをターゲットとして**企業の存在を深く認識**してもらえる打ち手を検討する。
- 県外大学においては文理の差はほとんど見られないため、広島県出身の県外大学在学者をターゲットとし、**広範に情報を発する中で、ターゲットの特性を踏まえた「刺さる」メッセージ**の発信が有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》
ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、序盤で脱落し、大都市で就職しているクラスターAの学生の内訳をみると、県内の大学に通う男性、県外の大学に通う男性が多い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	257	1.2
	女性	30	0.5
県外	男性	232	1.3
	女性	55	0.5

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》
ターゲットの絞り込み

クラスターAに分類され、序盤で脱落する県内の大学に通う男性は、全体の構成比に比べると、県外よりも県内出身者、文系よりも理系である割合が高い。クラスターAに分類される、序盤で脱落する県外の大学に通う男性は、学部による傾向の差が見られないので、これ以上はターゲットを絞りにくい。

			県内大男性		県外大男性	
			実数(人)	出現係数	実数(人)	出現係数
出身地	広島県		121	0.4	406	―
	県外	隣接県	91	1.8	―	―
		三大都市圏	91	4.6	―	―
		九州圏	76	4.2	―	―
		その他の地域	0	0.0	―	―
専攻	文系		121	0.75	174	1.06
	理系		182	1.40	174	1.00
	その他		30	0.95	14	0.54
	不明		30	0.71	43	1.19

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【まとめ】

【志向・行動特性】

- 序盤での脱落が多く、東京都や大阪府などの大都市を志向する人が序盤で脱落する傾向がある。
- 脱落者は自分で志望先をある程度特定した上で情報収集を行っているとみられる。
- 脱落者の就職先の決め手を見ると、「大企業・有名企業である」「自己の成長が期待できる」を決め手とした人は、序盤で脱落する人が多い。
- メーカーへの志望が比較的高い。

【推定される脱落理由】

- 広島県に対するイメージは悪くないが、就職活動の序盤段階で、**主に民間の就職支援サイトや業界大手のホームページから情報収集している中で、結果として、選択肢の中心が都会の大企業**となり、**広島県内企業が選択肢に入っていない。**
- 自分の**成長イメージが持てる企業や大企業が広島県内にもあることに気づいていない、又は、実際に存在していない**ために脱落している人が多数いるのではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- 序盤で脱落し、大都市で就職している学生574人（県内287人、県外287人）

クラスターＡ（就職先重視：成長志向）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- 居住地としての広島県に対するイメージが悪いわけではないので、自分の希望に合う企業が見つかれば、県内の企業も選択肢に入ると考えられるが、**民間の就職支援サイトや自分が志望する業界大手のホームページを見て**情報収集している中で、県内企業の存在に気づいていない。
- 「希望の業種である」「自己の成長につながる」等、**自分の志向に合う大企業（メーカー等）が実は広島県内にもある、ということに気づくことができれば**、自らホームページや就活サイト等から情報収集を進め、県内企業を志望対象に含める学生が出てくるのではないか。
- また、実現に時間を要するが、成長が感じられる**魅力的な仕事自体を増やしていく**ことが必要ではないか。

クラスターB
（就職先重視：業務分野・適性重視）

給与などの待遇、WLB、有名企業かどうか、などよりも、**自分が望む業務分野・仕事内容で働けるか、自分の適性が生かせるか**、といった「業務分野・適性を重視」するクラスターである。まずは自分の関心のある仕事か、ということを重視する職人気質のような人と捉えることができる。

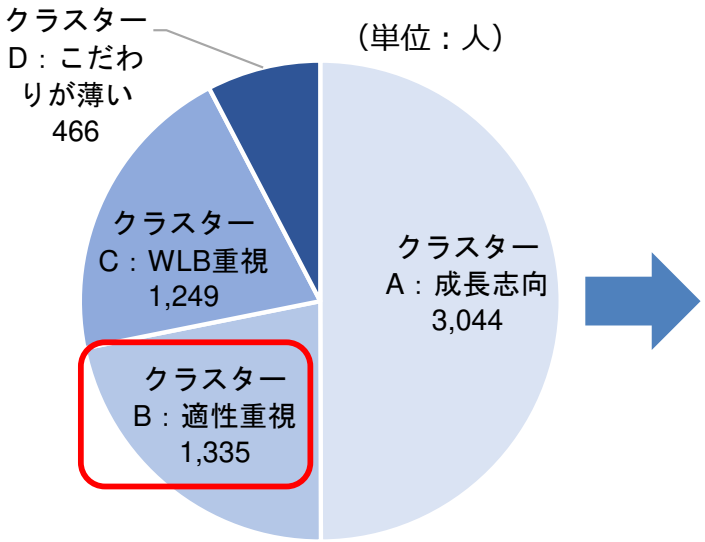
クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）　【全体ボリューム･脱落プロセス】

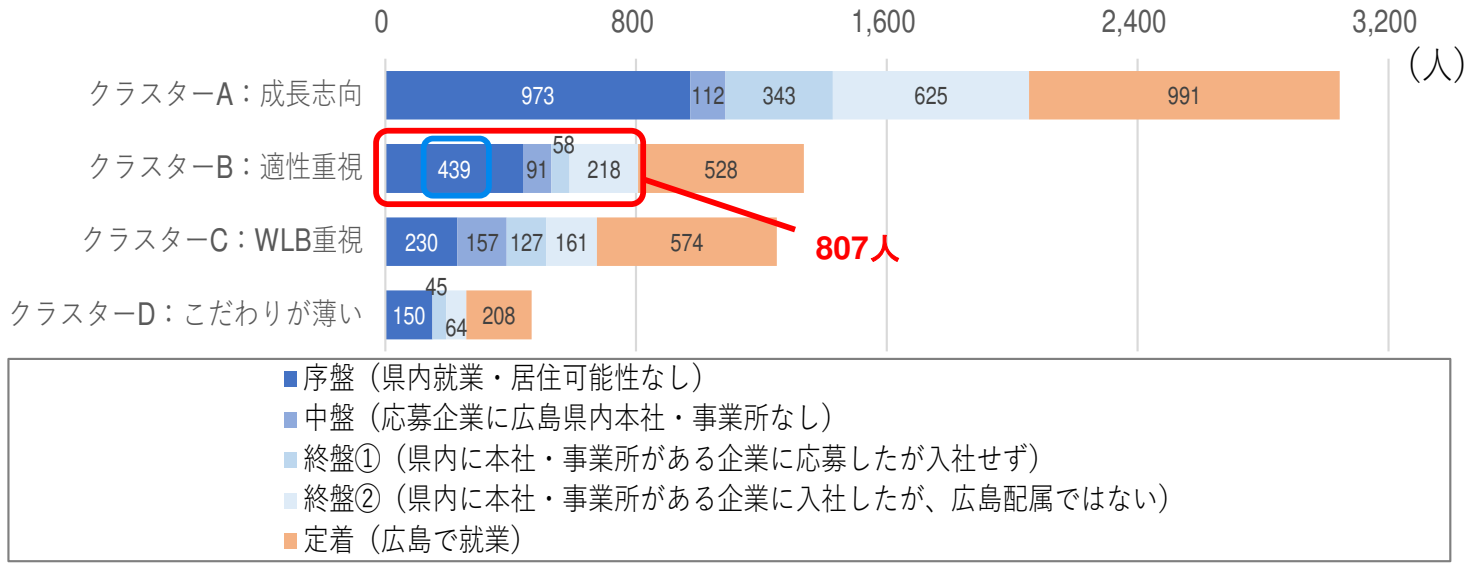
全体ボリュームと脱落プロセス

- クラスター全体の人数は1,335人。そのうち、定着者は528人（定着率：39.6%）
- 脱落者は807人（脱落率60.4%）で、**序盤脱落者は439人**

➢ **序盤での脱落が多い。**

全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス





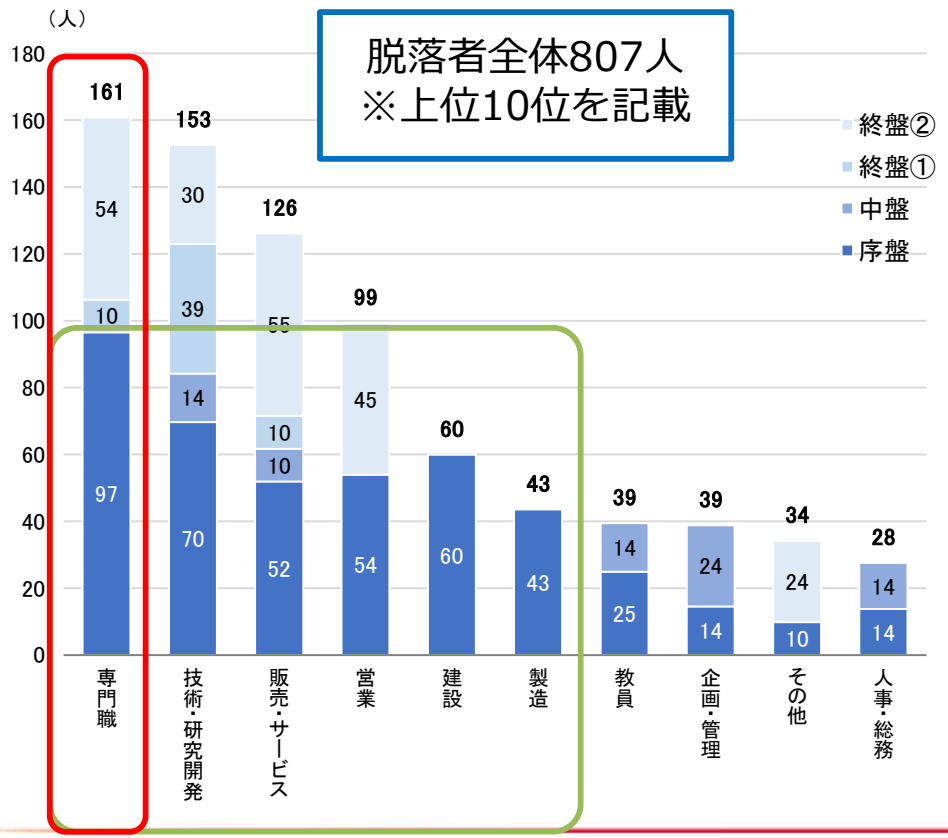
（資料）　Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）　【行動】

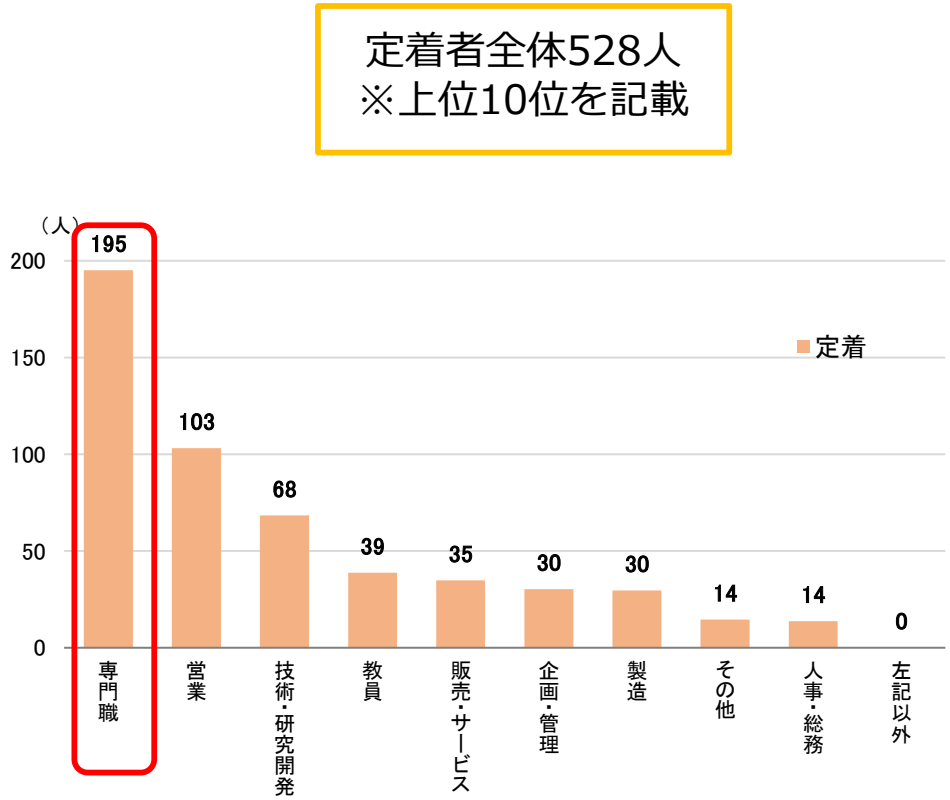
第一志望職種

- 脱落者と定着者の志望先職種を比較すると、**両者とも「専門職」の志望者が最も多い。**
- ➢ 脱落者の**上位志望職種については、序盤で脱落**する割合が高い傾向がある。

第一志望職種（クラスターB）（脱落）



第一志望職種（クラスターB）（定着）



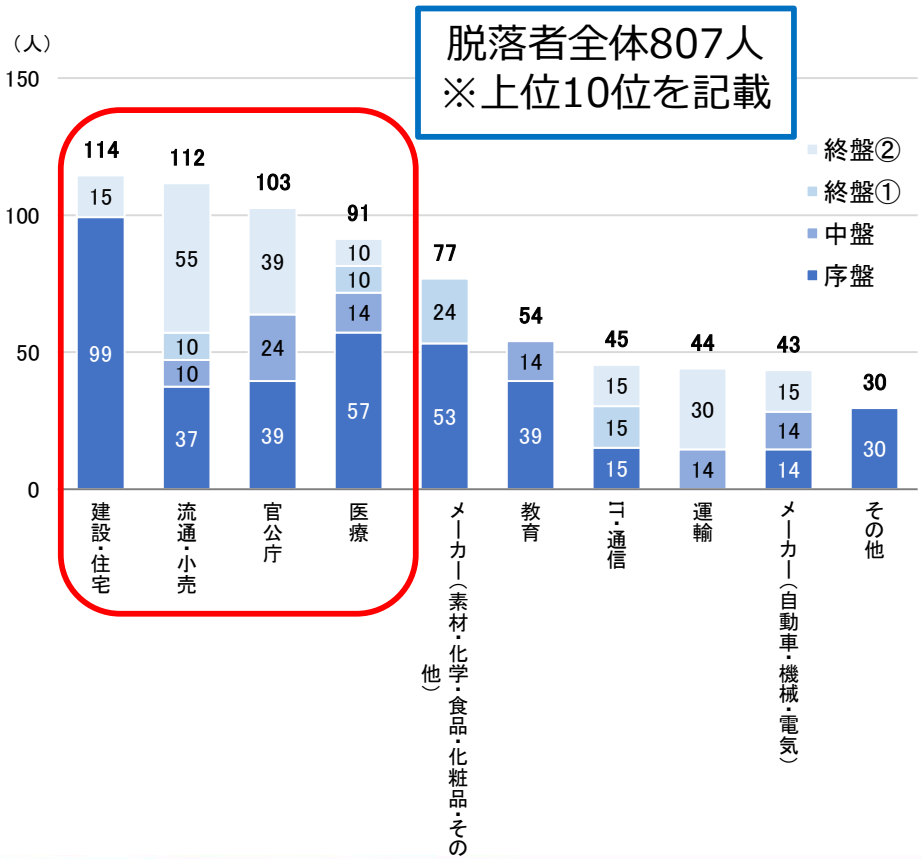
（資料）Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）　【行動】

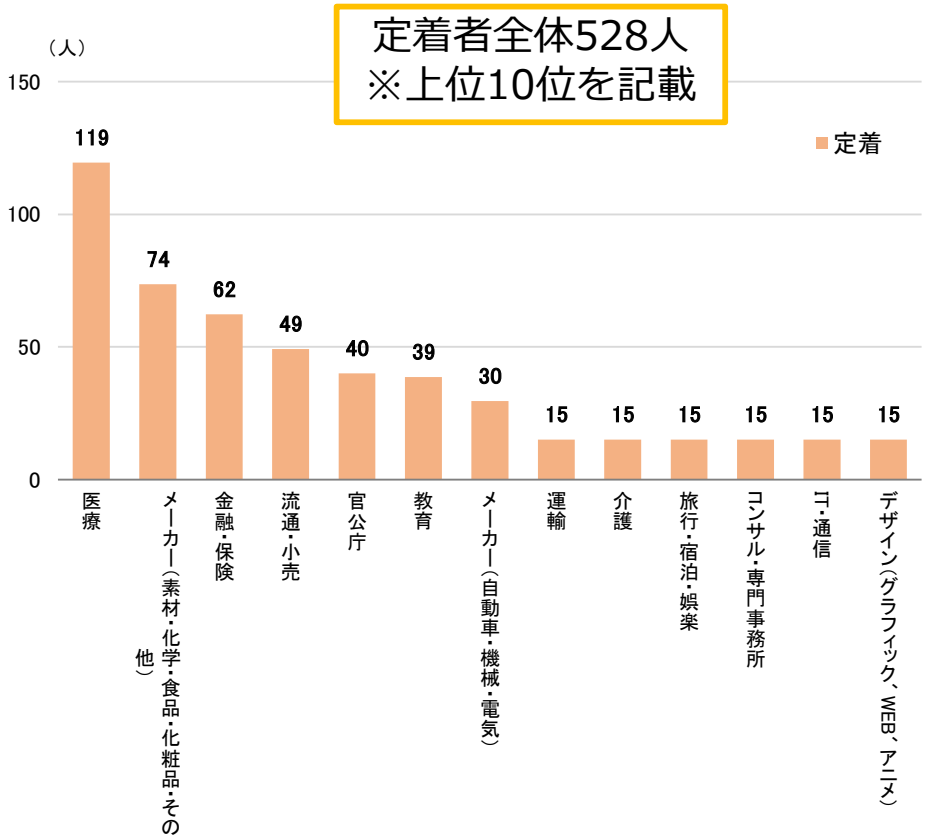
第一志望業種

- 脱落者と定着者の志望先業種を比較すると、脱落者の志望する業種として、「建設・住宅」「流通・小売」「官公庁」「医療」といったものが上位にあがっている。
- ➢ クラスターAと比較し、**脱落者は幅広い業種を志望している。**

第一志望業種（クラスターB）（脱落）



第一志望業種（クラスターB）（定着）



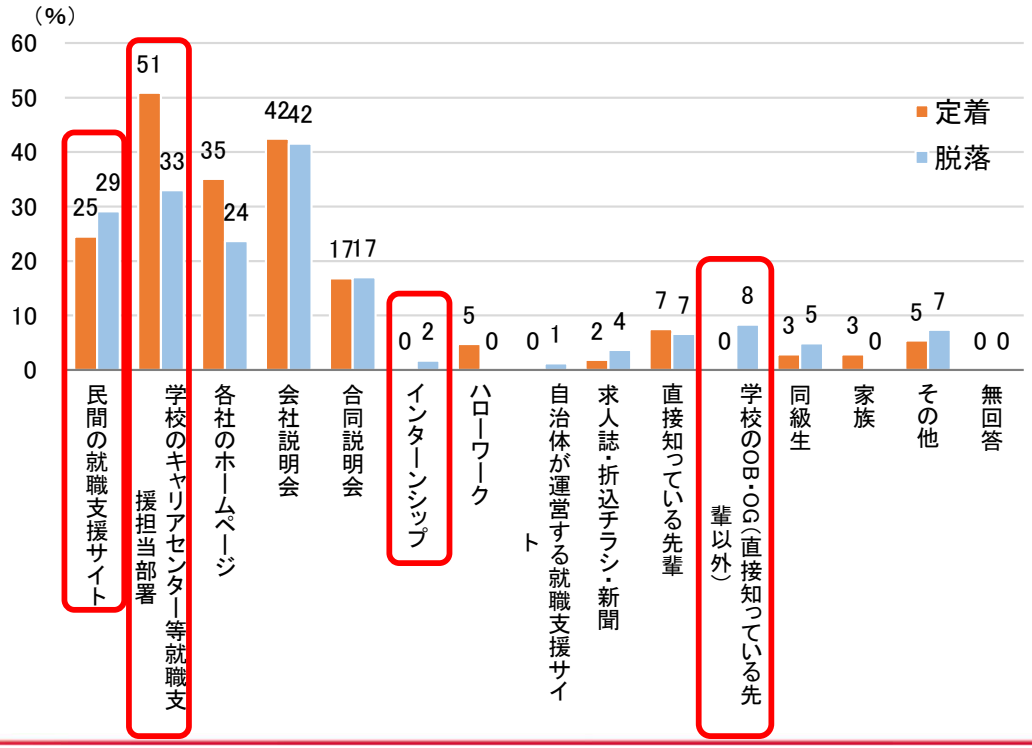
クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）　【行動】

情報収集手段

- 脱落者と定着者の情報収集手段を比較すると、脱落者は「民間の就職支援サイト」、「インターンシップ」、「学校のOB・OG（直接知っている先輩以外）」の割合がやや多い。
- 一方で、**キャリアセンターの利用割合は低い。**

➢ クラスターAと同様、**脱落者は定着者と比較して、自分で志望先をある程度特定**した上で情報収集を行っているとみられる。

情報収集手段-全般（クラスターB）



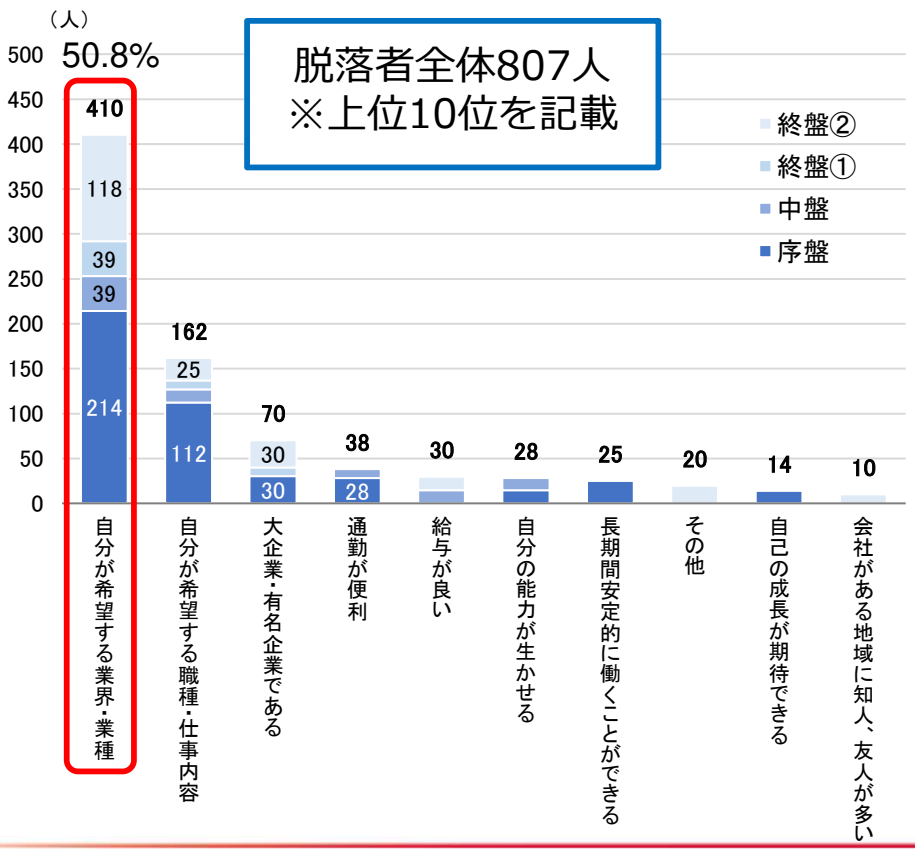
（資料）Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）　【行動】

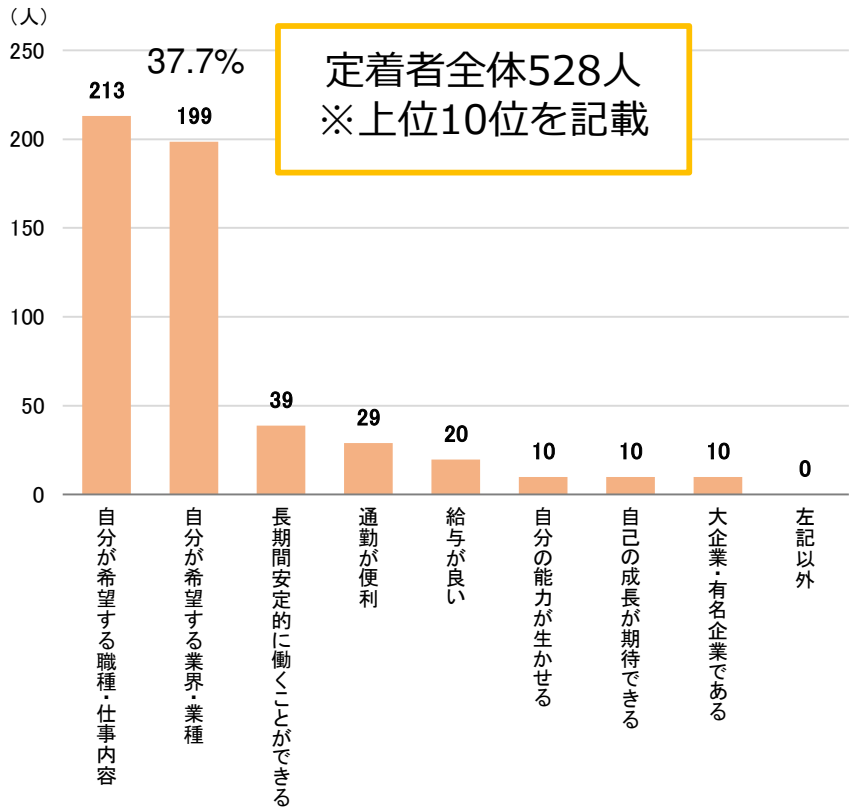
就職先の決め手

- 脱落者と定着者の就職先の決め手を比較すると、脱落者は**「自分が希望する業界・業種」を決め手**としている割合が高い。

就職先の決め手（クラスターB）（脱落）



就職先の決め手（クラスターB）（定着）



（資料）Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【補足情報】

ヒアリング結果より

■業務・適性重視に伴う業種の多様化

- 理系学生は昔からメーカーが多いが、**総合商社、コンサルも最近増えてきている。文系は多様な業種に進んでいる**ので、傾向は把握できていない。（大学キャリアセンターＡ）
- 競合先の業種はあまり定まっておらず、**人の役に立っていきたいという学生が多い**。食品系は多いが、企画、イノベーションというところで旅行会社に行く人もいる。（製造業）

■大学等の専攻内での情報伝達

- **ゼミの先輩経由で入手した専攻分野関連の企業リストに載っていて**、就活前から知っていた企業があり、その職種で採用されれば広島が勤務地になることも分かっていたため、受けてみた。（クラスターＢに分類されるWebアンケート回答者）
- 県内大学とは**共同研究も実施しているので、そのつながり**で来ている人もいる。技術系ではリクルーターチームをつくって、**OBが直接学生や先生のところに勧誘に行っている**。（製造業）

■東京での情報発信による認知度向上

- **県外で会社の知名度を高める取組**として、昨年度は会社説明会を東京で開催した。（製造業）
- 広島県出身の県外大学生にアプローチしづらくなっているため、**県に東京などでの合同説明会などを開催**してもらえるとありがたい。（金融・保険）

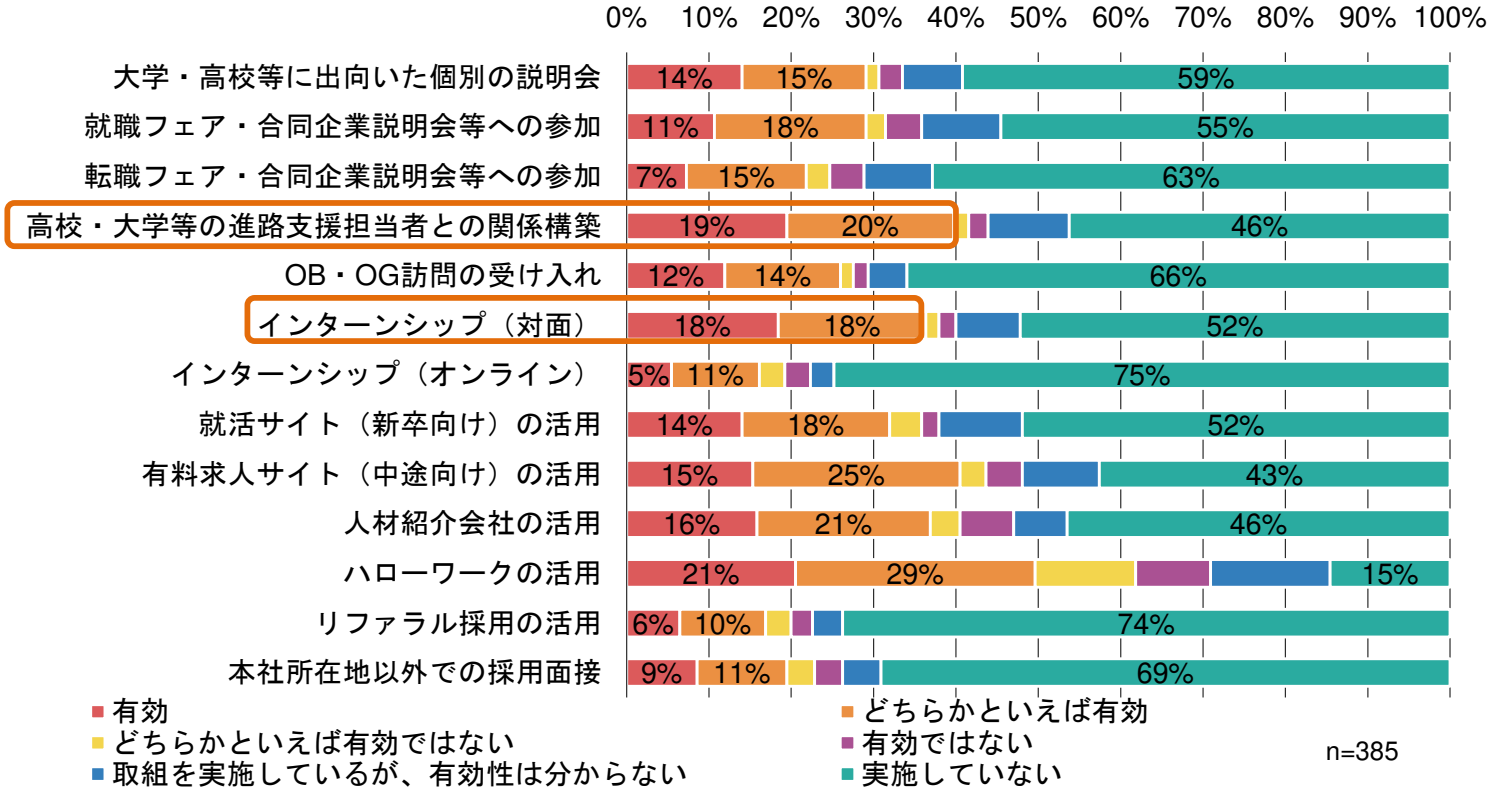
クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【補足情報】

企業アンケート結果より

■人材確保のために実施している取組と有効性

- 新卒採用に関連した取組としては、**「高校・大学等の進路支援担当者との関係構築」や「インターンシップ（対面）」が有効と捉えている企業の比率が高い。**

人材確保のために実施している取組と有効性



（資料）企業従業者アンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 専門職や技術開発職を志望している人が多いクラスターで、業種だけでなく**職種・仕事内容に対するこだわり**も強い。**脱落者は民間の就職サイトの利用率が高く**、キャリアセンターの利用率は低い。
- 具体的な業務内容にこだわる学生にとって業務内容を調べやすいのは、民間の就職支援サイトへの掲載等が充実した大企業・有名企業になる。
- 広島県内の企業における**具体的な仕事内容について、情報を収集しない、あるいはできないことから、流出につながっている**のではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している人は439人にのぼる。この中でも特に**職種・仕事内容へのこだわりが強いと考えられる専門職、技術・研究開発職167人**を中心に、仕事内容を深く知ることのできる機会を提供することで、行動変容を期待できるのではないか。

上記理由に該当する脱落者の推定数（単位：人）

志望職種＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	計
専門職、技術・研究開発職	167	14	49	84	314
上記以外の業種	272	77	10	134	493
計	439	91	58	218	807

大学所在地	性別	実数	出現係数
広島県内	男性	91	1.7
	女性	20	0.4
県外	男性	14	0.4
	女性	41	1.4

※公的統計によるデータとアンケート回答者の回答比率を組み合わせて人数を推定しているため、端数処理の関係上、内訳と合計が一致しない場合がある。

（資料）Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 推定される脱落理由の該当者で、実数、出現係数ともに大きいのは、**県内大学の男性**と、広島県出身の**県外大学の女性**である。
- **県内大学の男性については、理系**が目立って多いため、ここをターゲットとして、その会社における仕事内容を普段からできるだけ知る機会が持てるような仕掛けをつくる。
- 広島県出身の**県外大学の女性については、専攻による傾向の差はあまり見られない**。県外大学に所属しているため、帰省ができるタイミングなどで、会社の仕事内容を深く知る機会を提供することが有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》
ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、序盤で脱落し、大都市で就職しているクラスターBの学生の内訳をみると、県内の大学に通う男性、県外の大学に通う女性が多い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	91	1.7
	女性	20	0.4
県外	男性	14	0.4
	女性	41	1.4

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》
ターゲットの絞り込み

クラスターBに分類され、序盤で脱落する県内の大学に通う男性は、全体の構成比に比べると、文系よりも理系である割合が高い。
クラスターBに分類され、序盤で脱落する県外の大学に通う女性は、学部による傾向の差が見られないので、これ以上はターゲットを絞りにくい。

			県内大男性		県外大女性	
			実数(人)	出現係数	実数(人)	出現係数
出身地	広島県		61	0.4	83	―
	県外	隣接県	45	2.5	―	―
		三大都市圏	45	8.4	―	―
		九州圏	0	0.0	―	―
		その他の地域	15	7.5	―	―
専攻	文系		30	0.38	41	1.08
	理系		121	2.46	28	0.97
	その他		0	0.00	0	0.00
	不明		15	1.09	14	1.80

（資料）Webモニターアンケート

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【まとめ】

【志向・行動特性】

- 専門職や、技術・研究開発を志望する人が多い。
- 業種はクラスターAより多様であり、人気の業種というよりも、**自分が行きたい業種**を調べていると考えられる。
- 定着者に比べて**脱落者は民間の就職サイトの利用率が高く**、キャリアセンターの利用率は低い。

【推定される脱落理由】

- 具体的な業務内容にこだわる学生にとって業務内容を調べやすいのは、民間の就職支援サイトへの掲載等が充実した大企業・有名企業になってしまう。
- 広島県内の企業における**具体的な仕事内容について、情報を収集しない、あるいはできないことから、流出につながっている**のではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している人は439人。特に**職種・仕事内容へのこだわりが強い**と考えられる**専門職、技術・研究開発職167人を中心に、仕事内容を深く知ることのできる機会**を提供することで、行動変容を期待できるのではないか。

クラスターＢ（就職先重視：業務分野・適性重視）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- 具体的な業務内容にこだわる学生にとって、業務内容を調べやすいのはHP等が充実した大企業・有名企業になってしまう。
- 県内の学生に対しては、単発の説明会ではなく、**普段から常に県内の色々な企業の事業成果やその実現過程が見られる機会を持てるように**すれば、自分の専攻や志向とのつながりをイメージして、志望先として検討しようと思うのではないか。
- 県外の学生に対しては、インターンを経由した採用が増加する中、県内企業に対面でインターン出来る機会を充実させる必要があるのではないか。

クラスターＣ
（就職先重視：安定・WLB重視）

長く働けるか、転勤が無いか、福利厚生が良いか、など、**安定してWLBを保った働き方を志向**する「安定・WLB重視」のクラスターである。

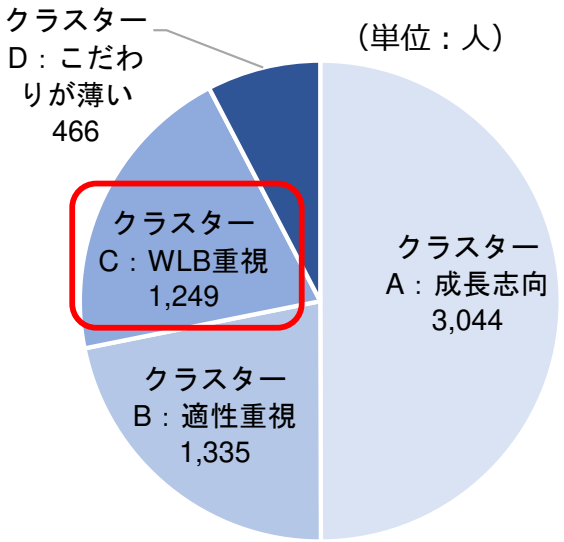
クラスターＣ（就職先重視：安定・WLB重視）【全体ボリューム・脱落プロセス】

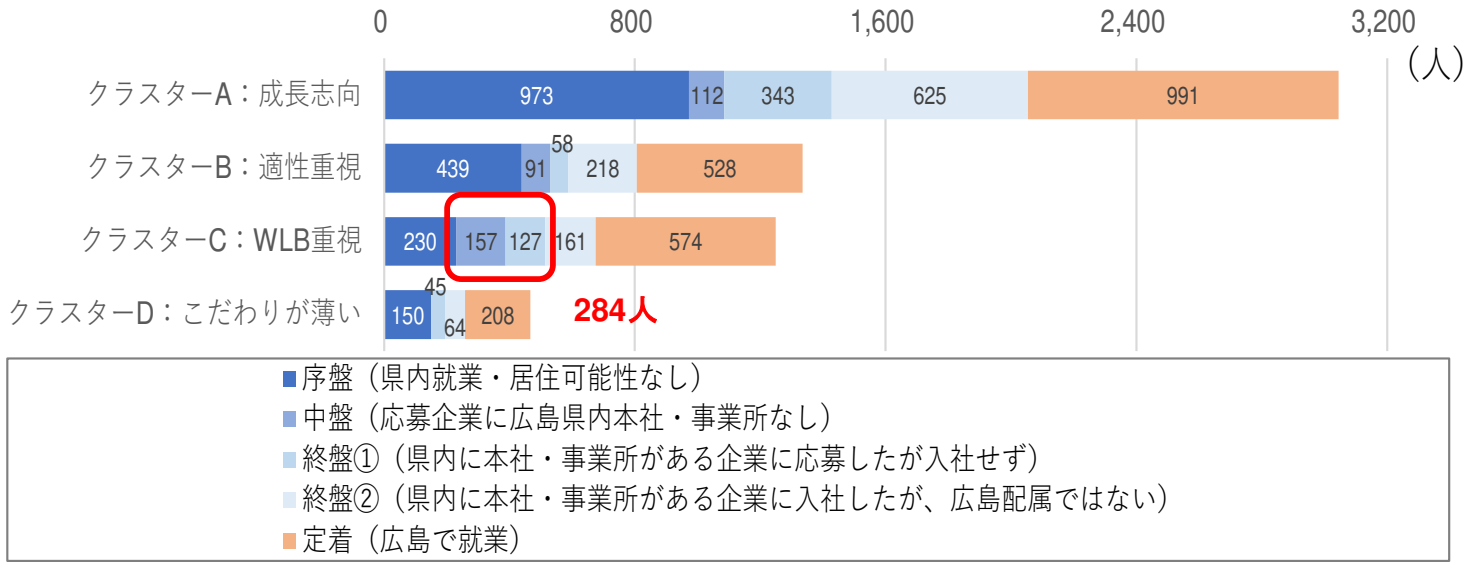
全体ボリュームと脱落プロセス

- クラスター全体の人数は1,249人。そのうち、定着者は574人（定着率：46.0%）
- 脱落者は675人（脱落率54.0%）で、**序盤脱落者は230人、中盤と終盤①の脱落者が284人。**

➢ クラスターＡやＢと比べて、**中盤以降での脱落者**（広島県の企業を候補としたが行動しなかった、もしくは広島の企業を候補としたが就職しなかった脱落者）が多い。
（脱落者のうち、中盤以降での脱落割合　クラスターA：52.6%、クラスターB:45.5%、クラスターC：65.9%）

全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス





（資料）　Webモニターアンケート

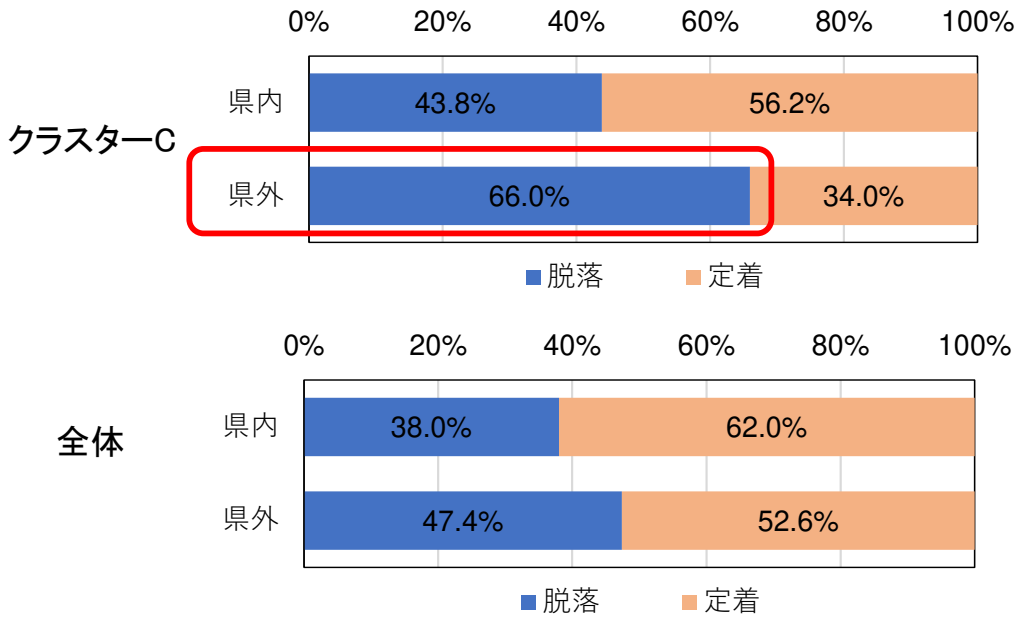
クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【属性】

所属（県内大・県外大）

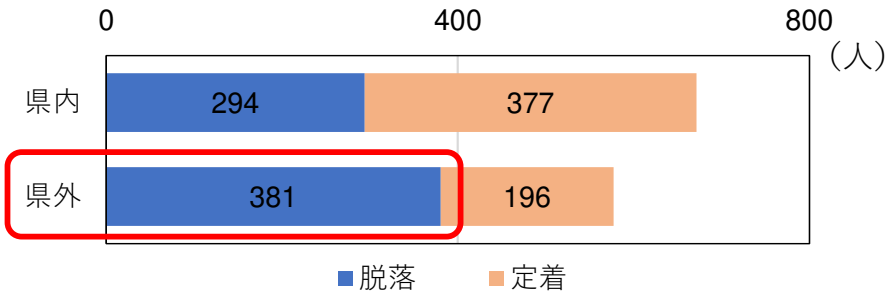
- 脱落状況を所属別で見ると、**県外大学進学者が66.0%（381人）と高い割合で脱落している。**

脱落・定着の状況（所属先別）

比率



実数



（資料） Webモニターアンケート

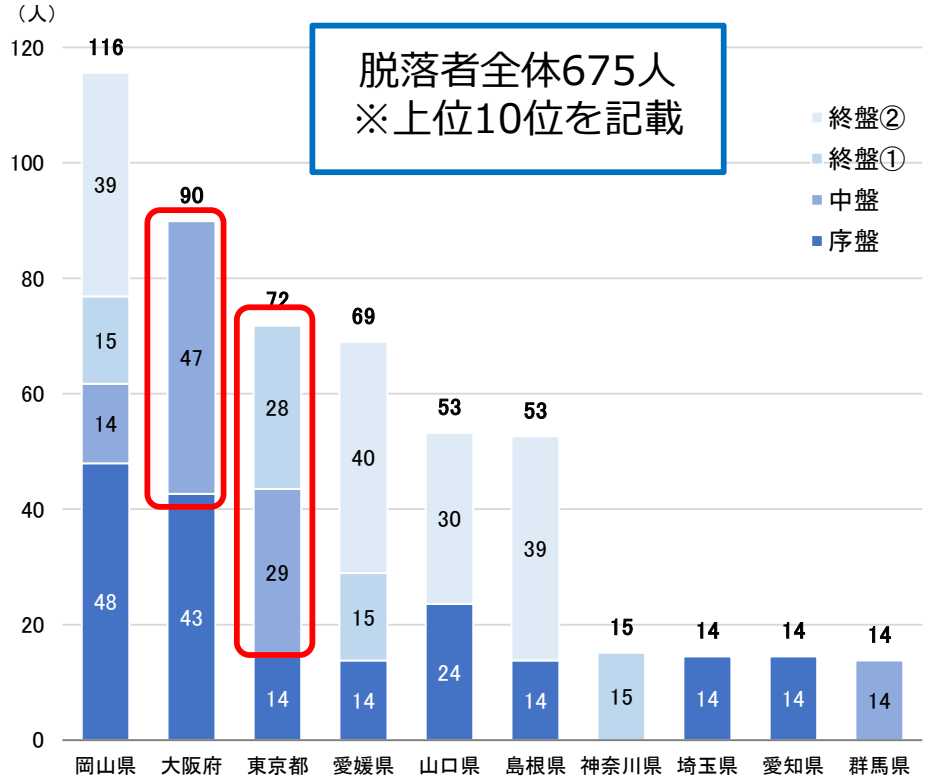
クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【行動】

流出地域

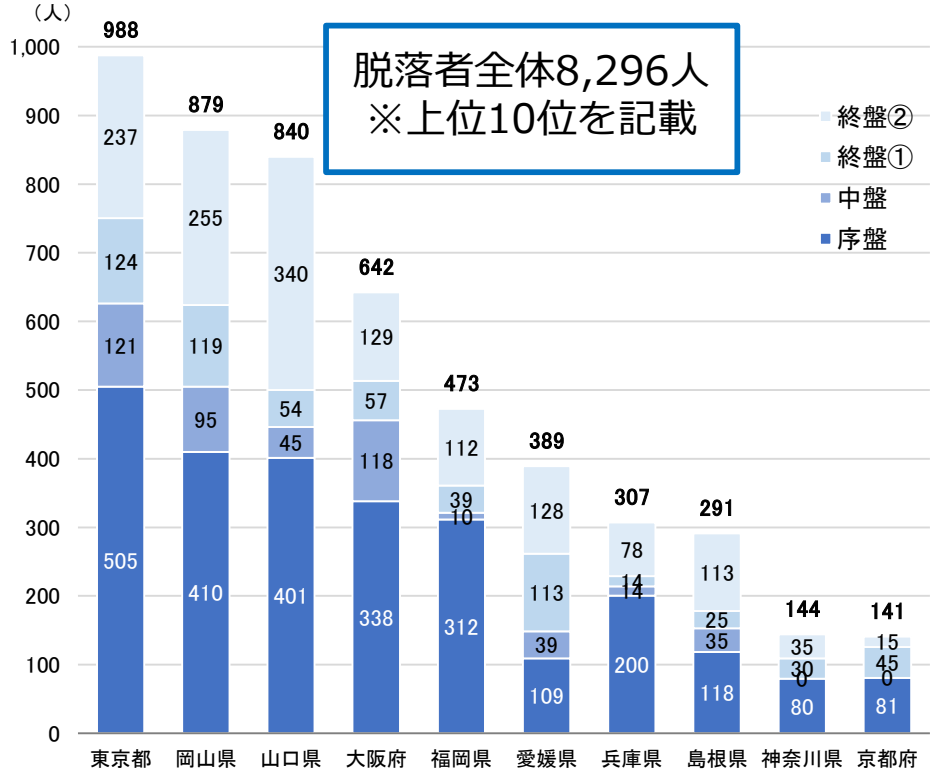
- 脱落者は岡山県、大阪府、東京都の順で多いが、大阪府へは中盤で47人と半数以上が、東京都へは中盤と終盤①で57人と8割近くが脱落している。

➢ **就活途中で大都市を選ぶ**ケースが目立つ。

流出地域（クラスターC）



流出地域（全クラスター）

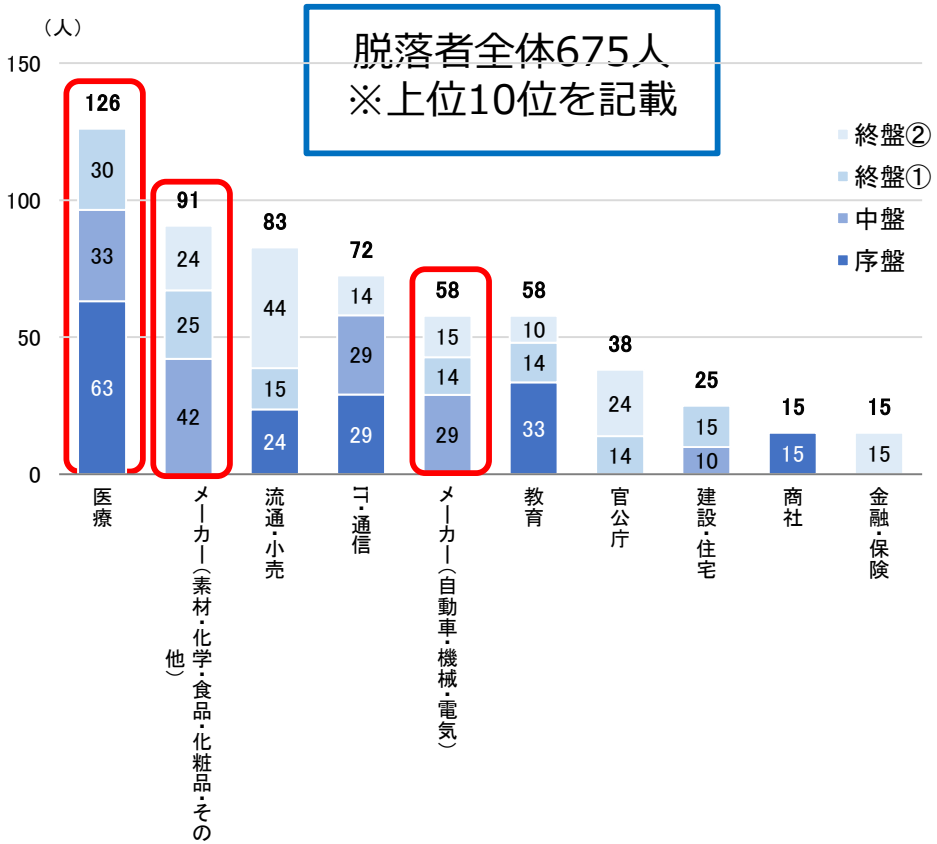


クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【行動】

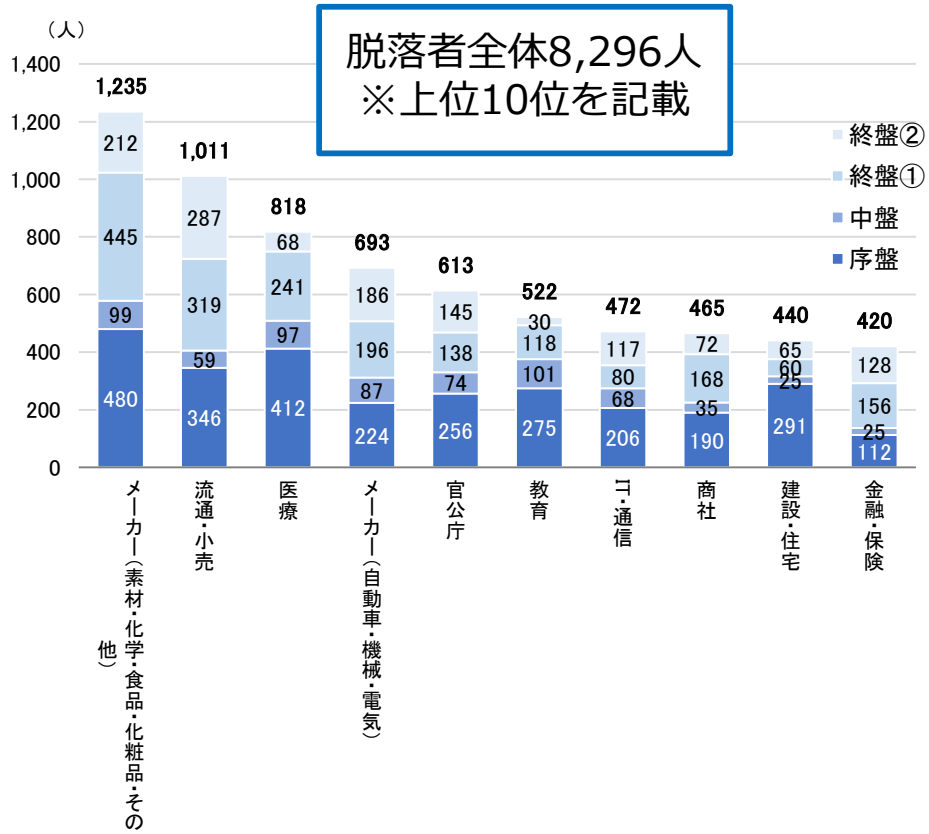
第一志望業種

- 脱落者：全クラスターでは３位の**「医療」が１位**（序盤63人、中盤33人、終盤①30人）、**次いでメーカー**の順となっている。
  - ➢ メーカーは2業種とも序盤の脱落がなく、中盤以降で脱落している。医療においても、半数が中盤と終盤①で脱落しており、**県内の企業が選択肢に入ったうえで、脱落している者が多い**ことがわかる。

第一志望業種（クラスターC）



第一志望業種（全クラスター）



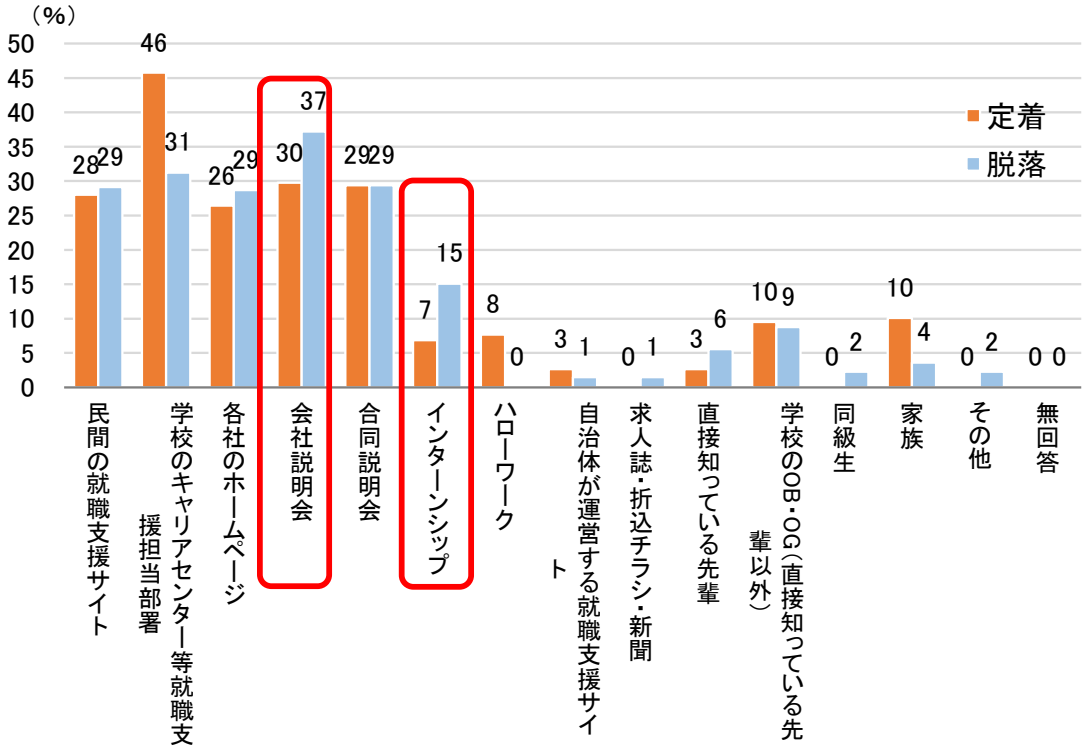
（資料）Webモニターアンケート

クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【行動】

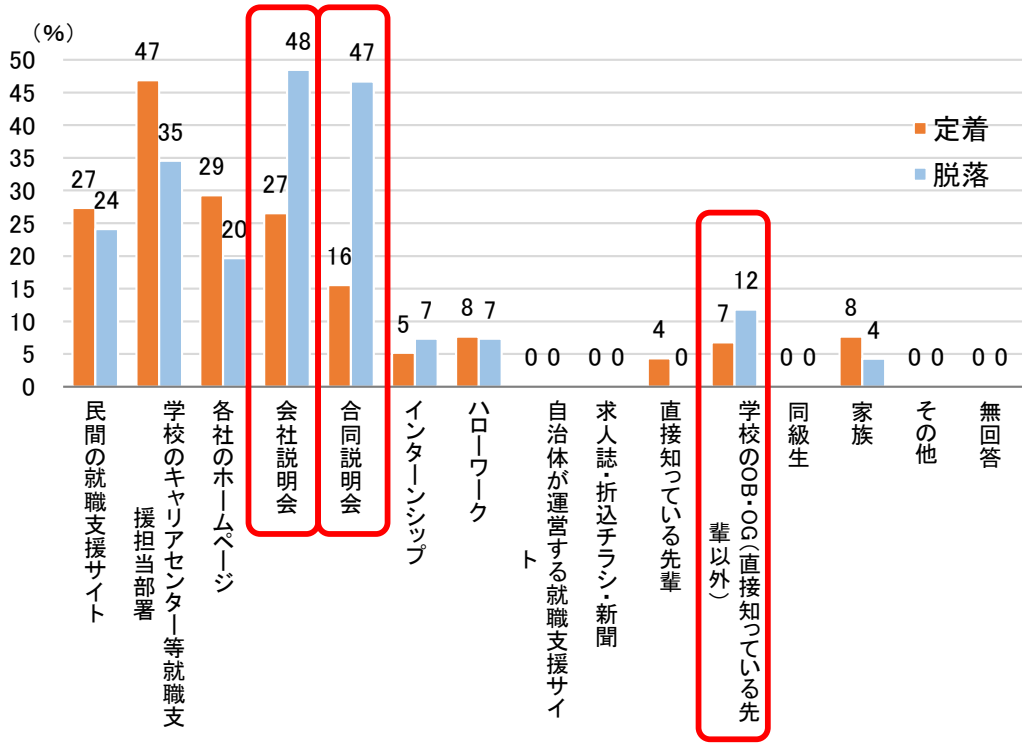
情報収集手段

- 脱落者と定着者の情報収集手段を比較すると、脱落者は全般的な情報収集では「会社説明会」や「インターンシップ」、県内企業に関する情報収集では、「会社説明会」、「合同説明会」、「学校のOB・OG（直接知っている先輩以外）」の割合が定着者よりも高い。
- ➢ **企業と直接的な接点を持てる手段の割合が定着者よりも高い。**

情報収集手段-全般（クラスターC）



情報収集手段-県内企業（クラスターC）

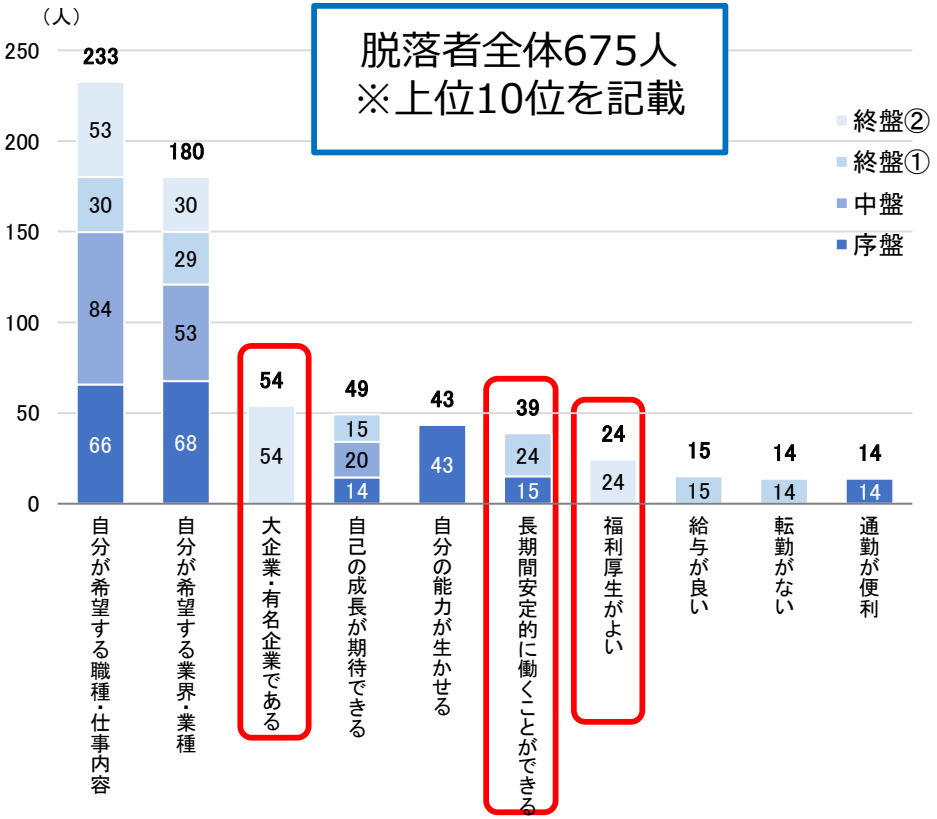


クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【行動】

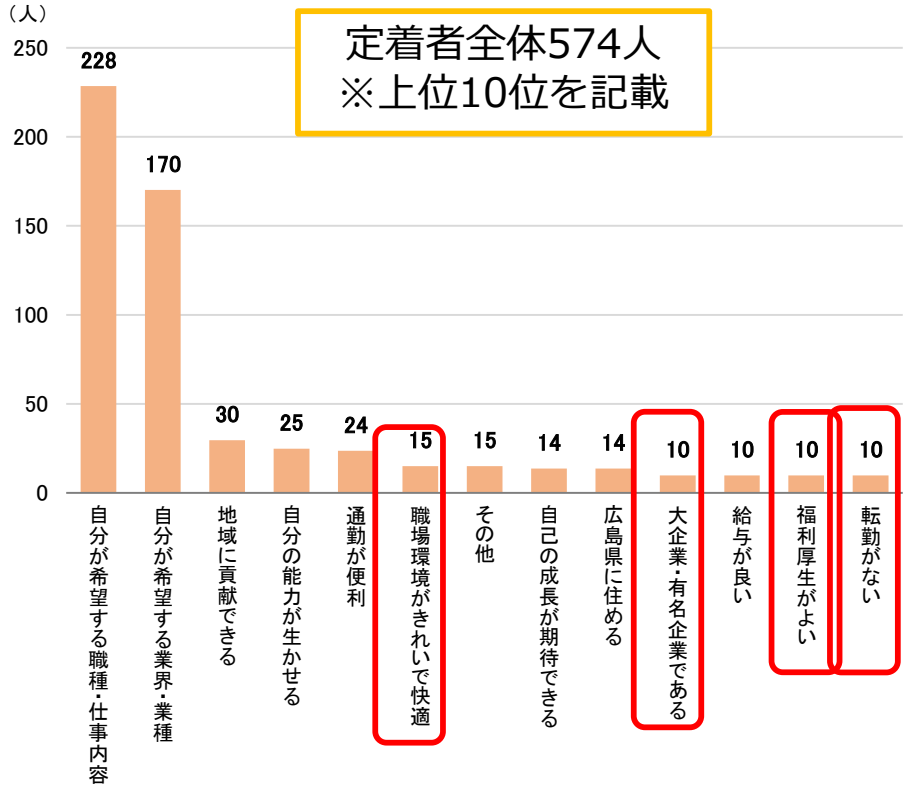
就職先の決め手

- 脱落者と定着者の就職先の決め手を比較すると、脱落者は「大企業・有名企業である」、「長期間安定的に働くことができる」「福利厚生がよい」を重視しており、安定・WLB重視型のクラスターにあって、**特に安定を重視**している。
- 定着者の決め手には、**「職場環境がきれいで快適」**や「転勤がない」といった他の就職先重視のクラスターにはない項目を選ぶ人が見られた。

就職先の決め手（クラスターC）（脱落）



就職先の決め手（クラスターC）（定着）

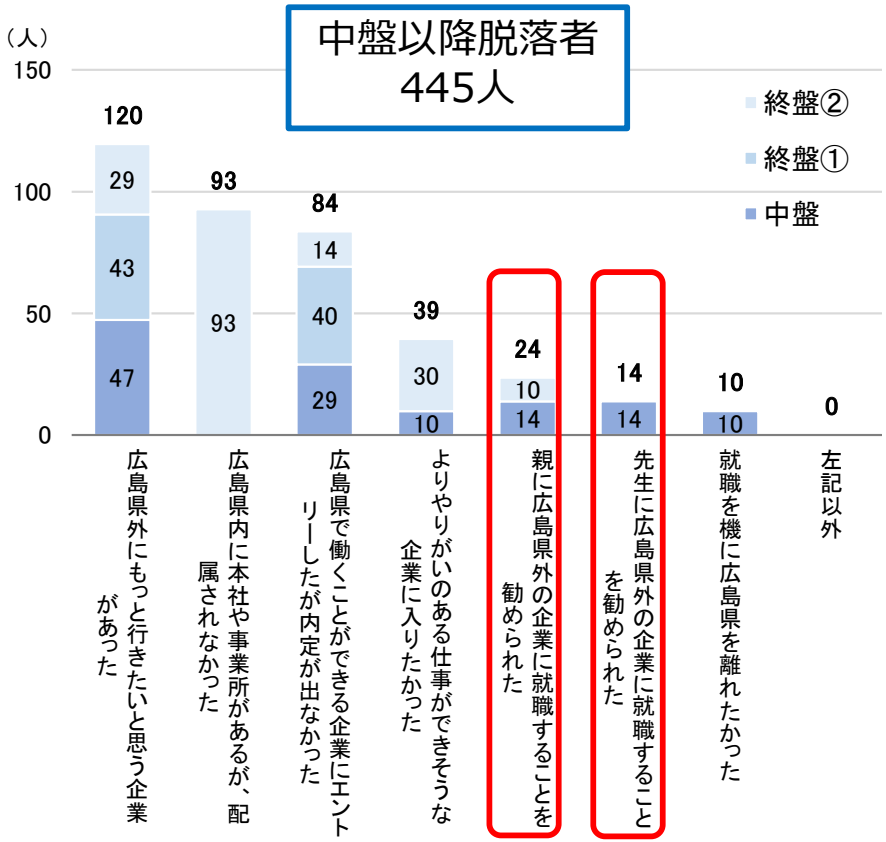


クラスターＣ（就職先重視：安定・WLB重視）【行動】

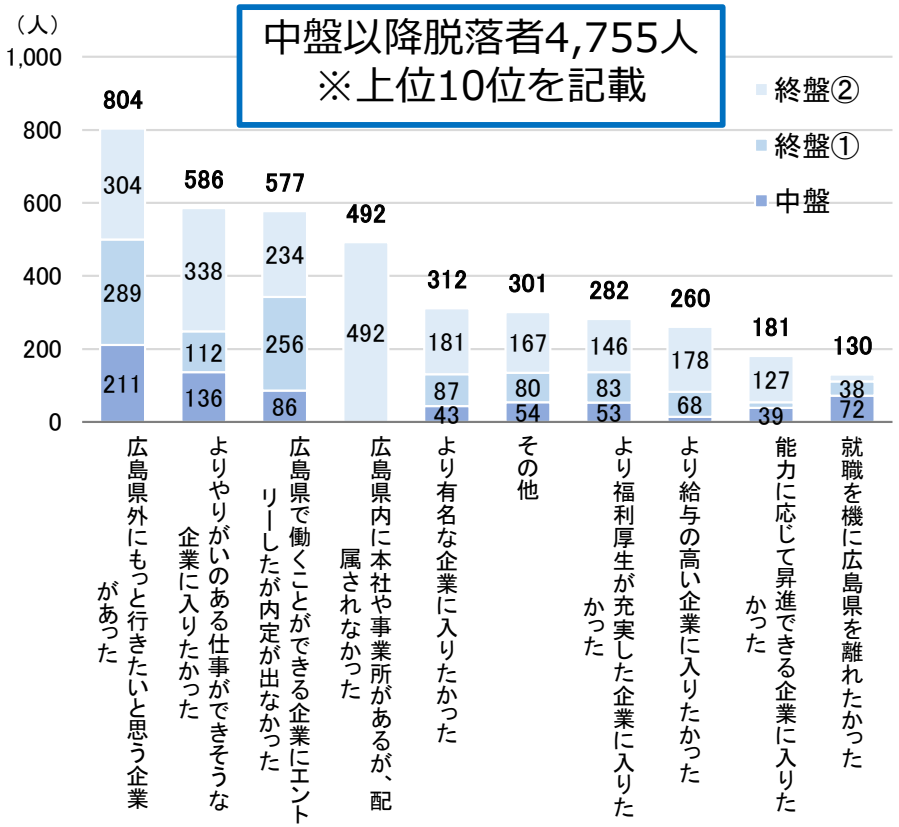
広島県で就職しなかった理由

- 「親に広島県外の企業に就職することを勧められた」や「先生に広島県外の企業に就職することを勧められた」にも回答が集まっており、**本人が安定を求めるだけでなく、周囲がそれを肯定・後押しする環境も一部にはある。**

県内就職しなかった理由（クラスターC）



県内就職しなかった理由（全クラスター）



（資料）Webモニターアンケート

クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【補足情報】

ヒアリング結果より

■処遇の良さ・柔軟な働き方への関心

- ものづくりへの関心の低下が大きいと認識している。また、**処遇を意識する方が多くなっている**印象もある。長期雇用を前提とした処遇体系のため、初年度から高額の給与を出す企業とは金額では戦えない。（製造業）
- 副業OK、育休取得可能など**都市部企業の働き方の柔軟性と、広島県内企業のカルチャーの差**が可視化されてきているのではないか。（大学キャリアセンターＢ）
- **業務内容であったり、自由な風土がある中で、共感を持ってくれた人**は、都会方面に行こうとは思わないのではないか。よって、あまり競合というものは感じない面あり。（IT・通信）

■職場のハード面での格差

- 広島県内で就職したいと言っていた学生が、大阪と広島の企業に内定後、**実際のオフィスを見に行って、大阪の企業に即決していた事例もある。職場環境のハード面が決め手となっている事例**も多いのではないか。（大学キャリアセンターＢ）

■企業が発信する情報の格差

- 今の学生は民間の就職支援サイトなどの媒体を利用して自力で活動していることが多い。学生への周知に力を入れて、学生に知ってもらうことをしていく必要性を感じている。**地元に良い企業があったとしても、それを知る機会が限られている。**（金融・保険）

クラスターＣ（就職先重視：安定・WLB重視）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 転勤もなく、長くじっくりと働きたいと考えている中で、立地する環境や職場の雰囲気が就活を進める中で明らかになってきた時、**同じ希望する職種・業種で働けるのであれば、より魅力的な職場で、より周辺環境も魅力的な大都市で**、と思い、大阪府や東京都に流出しているのではないか。

《行動変容を期待するボリューム》

- 実際に就職活動を進める中で、**職場環境や周辺環境を他県の応募先として比較する中で脱落している**と推定される、**中盤・終盤①で脱落している学生284人**（県内大学・県外大学共通）。特に**都会に流出している129人**

上記理由に該当する脱落者の推定人数（単位：人）

流出先＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	合計
都会	96	76	53	0	225
その他の県	134	81	74	161	449
計	230	157	127	161	675

大学所在地	性別	実数
広島県内	男性	15
	女性	30
県外	男性	43
	女性	41

※ここでの「都会」は東京都、埼玉県、神奈川県、愛知県、大阪府、兵庫県、福岡県に流出した人をカウントしている。
※公的統計によるデータとアンケート回答者の回答比率を組み合わせて人数を推定しているため、端数処理の関係上、内訳と合計が一致しない場合がある。

（資料）　Webモニターアンケート

クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 就職先重視のクラスターの中では**定着率が高いため、推定される脱落理由に該当する人の数は多くない。**
- 全体の構成比に比べて、**県内大学の女性が推定される脱落理由に該当する比率が高い。**
- サンプルが少ない中ではあるが、**文系の該当者はいない。**
- そこで、技術系や医療系で専門職として働く人ことを志望する県内大学の女性をメインターゲットとして意識しながら、周辺環境も含めた**事業所の職場環境の差を理由に脱落する層**の行動変容を図ることが有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》
ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、中盤・終盤①で脱落し、大都市で就職しているクラスターCの学生の内訳をみると、県内の大学に通う女性が多い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	15	0.4
	女性	30	2.1
県外	男性	43	1.0
	女性	41	1.1

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》
ターゲットの絞り込み

クラスターCは、基本的に定着率が高い中で相対的に特徴的な脱落者を抽出しているため人数が少ないが、中盤・終盤①で脱落している中には文系の該当者はなく、理系かその他となっている。

			県内大女性・中盤		県内大女性・終盤①	
			実数(人)	出現係数	実数(人)	出現係数
出身地	広島県		20	0.8	0	0.0
	県外	隣接県	10	3.0	0	0.0
		三大都市圏	0	0.0	10	30.8
		九州圏	0	0.0	0	0.0
		その他の地域	0	0.0	0	0.0
専攻	文系		0	0.00	0	0.0
	理系		20	2.26	10	3.4
	その他		10	2.73	0	0.0
	不明		0	0.00	0	0.0

（資料）Webモニターアンケート

クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【まとめ】

【志向・行動特性】

- 就職先を重視する中では最も定着率が高いクラスターである。
- 脱落しているケースは中盤から終盤①にかけて多く、**選考の途中で広島県が選択肢から外れる**ケースが多い。
- 流出する地域は岡山県のほか、大阪府や東京都が多く、業種では**メーカーや医療**、職種としては**専門職、技術・研究開発**が多くなっている。
- **「長期間安定的に働くことができる」、「福利厚生が良い」、「転勤がない」などを重視**している。
- **県内大学の女性**のウエイトが大きい（全体の約４割、流出者の約３割）。

【推定される脱落理由】

- **希望する職種・業種で働けるのであれば、実際に勤務する職場環境（新しさ・快適さ等）が最後の選択に影響するのではないか。**（県外の比較対象事業所と比べて劣っている場合、それが脱落の決め手になっているのではないか）

《行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している学生284人（県内大学・県外大学共通）。特に都会に流出している129人

クラスターＣ（就職先重視：安定･WLB重視）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- 医療系の専門職や、メーカーの技術者等、業種・職種にこだわって就活をしている人でも、仕事の内容が同じであれば、実際に勤務する医療機関や研究所・工場等の**職場環境（新しさ・快適さ等）**や、生活環境が最後の選択で影響するのではないか。
- 特に、**女性が働きたいと思えるような事業所の環境改善**を図っていけば、**男性も含めて、最後の選択の場面で他県に流出する人を抑制**できるのではいか。

クラスターE
（居住地重視：相対的にアクティブ志向）

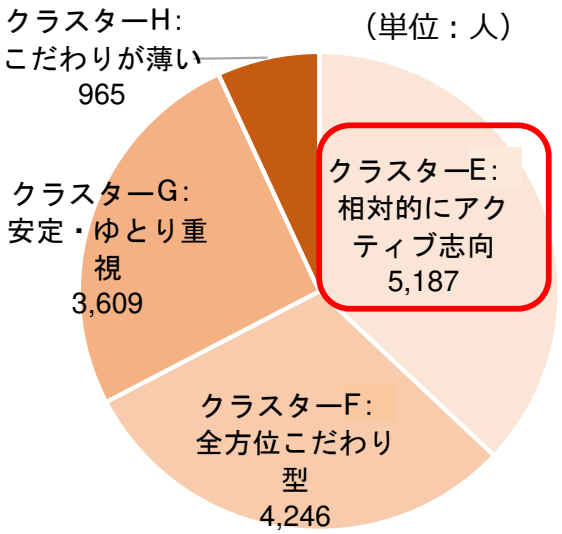
居住地選択に関わる様々な項目について、全ての項目を中位に評価するクラスターである。相対的には他の属する他のクラスターに比べて、**「文化・芸術に触れる機会」「スポーツに楽しむ機会」など活動的な項目を重視**する。

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【全体ボリューム・脱落プロセス】

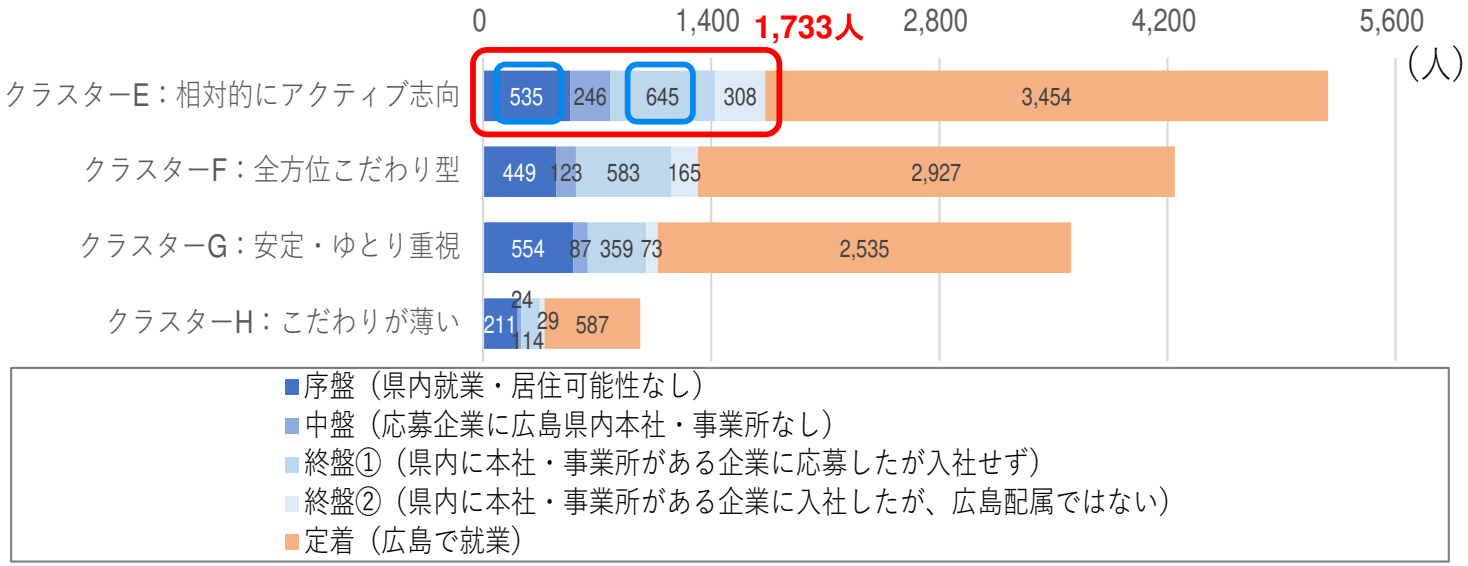
全体ボリュームと脱落プロセス

- クラスター全体の人数は、5,187人。そのうち、定着者は3,454人（定着率：66.6%）
- 脱落者は1,733人（脱落率：33.4%）で、**序盤脱落者 535人、終盤脱落者 645人**

➢ **序盤と終盤での脱落が多い。**



全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス



（資料） Webモニターアンケート

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【志向】

居住地に対する志向

- アンケートにおける「広島県に足りないもの」についての自由記述において、遊ぶ場所、テーマパークといったアミューズメントに関するキーワードが多数出されている。
  - **広島にはアミューズメントが不足していると感じる人が一定数存在する。**

広島県の良いところ	広島県の足りないところ
➢ 路面電車 ➢ カープへのファンの愛 ➢ 厳島神社 ➢ 程よい都会、食べ物が美味しい ➢ スポーツが盛ん ➢ 世界遺産が二つある ➢ 平和を考えること ➢ 地元へと愛着がある人が多い ➢ 交通の便がよい	➢ 家族でレジャーに出かけられる場所が少ない ➢ デザイン性に乏しい ➢ 遊ぶところがない ➢ 熱しやすく冷めやすい ➢ 都会的なところがない ➢ コンサートで飛ばされる ➢ 交通の便 ➢ 中小企業ばかり

（資料）Webモニターアンケート

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【志向】

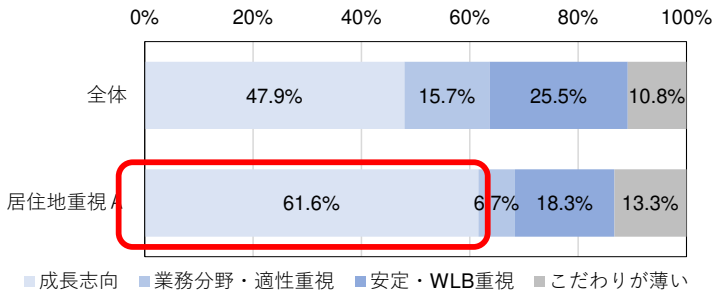
就職先に対する志向

- 自分の能力が生かせる、自己の成長が期待できるといった**成長志向をもつ人の割合**が高い。

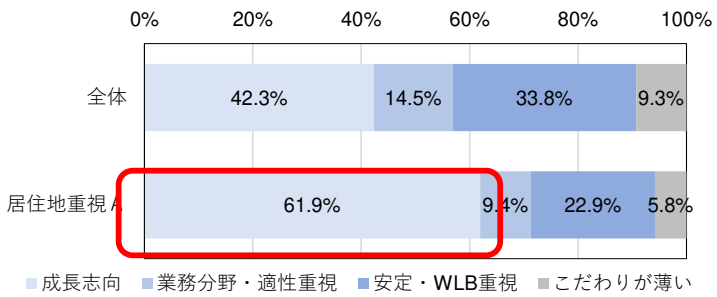
脱落者・定着者別の就職先に対する志向の傾向

比率

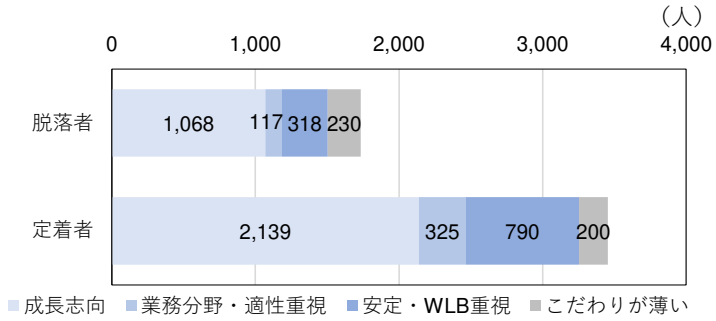
脱落者



定着者



実数



（資料）Webモニターアンケート

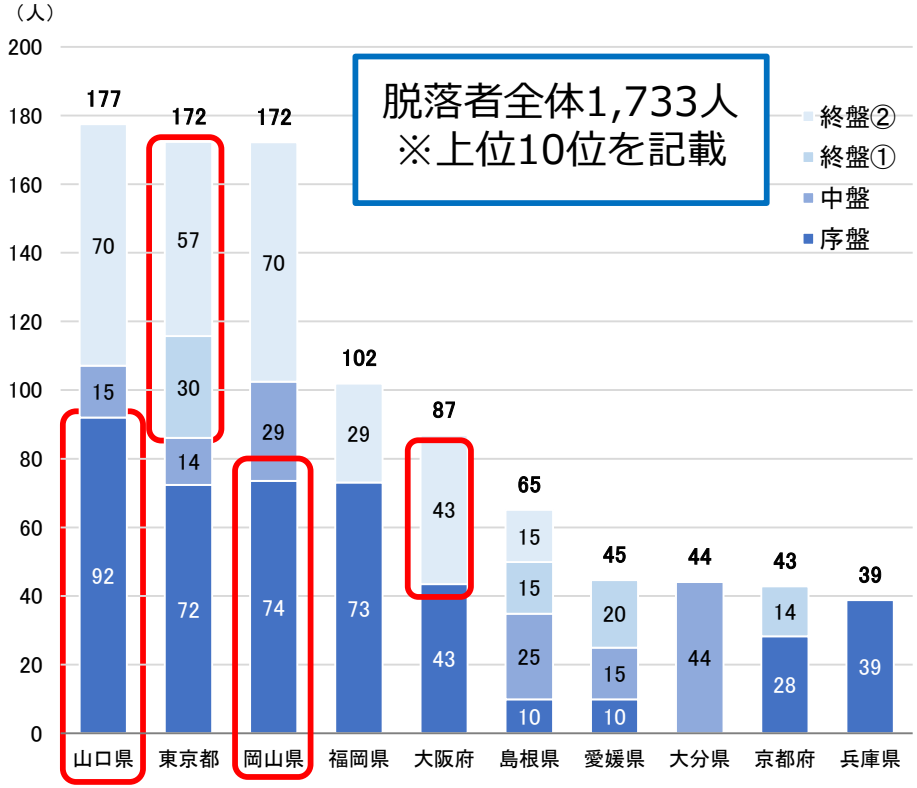
クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【行動】

流出地域

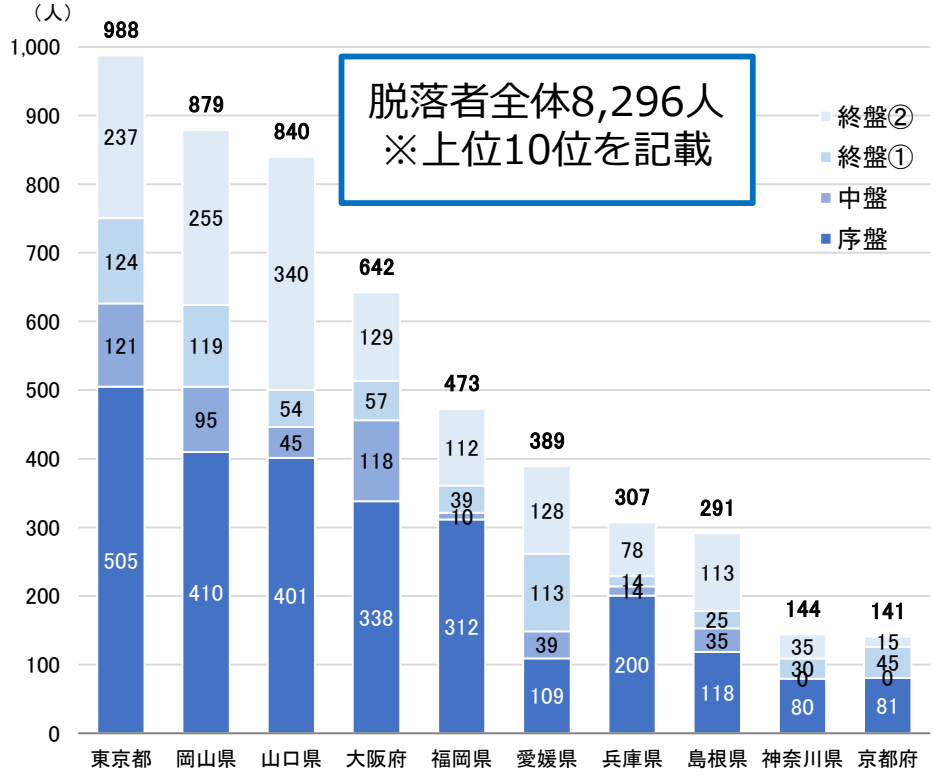
- 脱落者の流出地域上位は山口県：序盤92人、終盤70人、東京都：序盤72人、終盤57人 以下、岡山県、福岡県
- 全クラスターに比べて**山口県や岡山県へ序盤で流出**している比率が高い。一方、**東京都や大阪府については、終盤**の割合が高い。

➢ 最初から確固として都会に出たいと思っているわけではなく、結果的に都会に流出している脱落者と、序盤で脱落して出身地へのUターンを志向している脱落者（ターゲットにしにくい）が混在している。

流出地域（クラスターE）



流出地域（全クラスター）



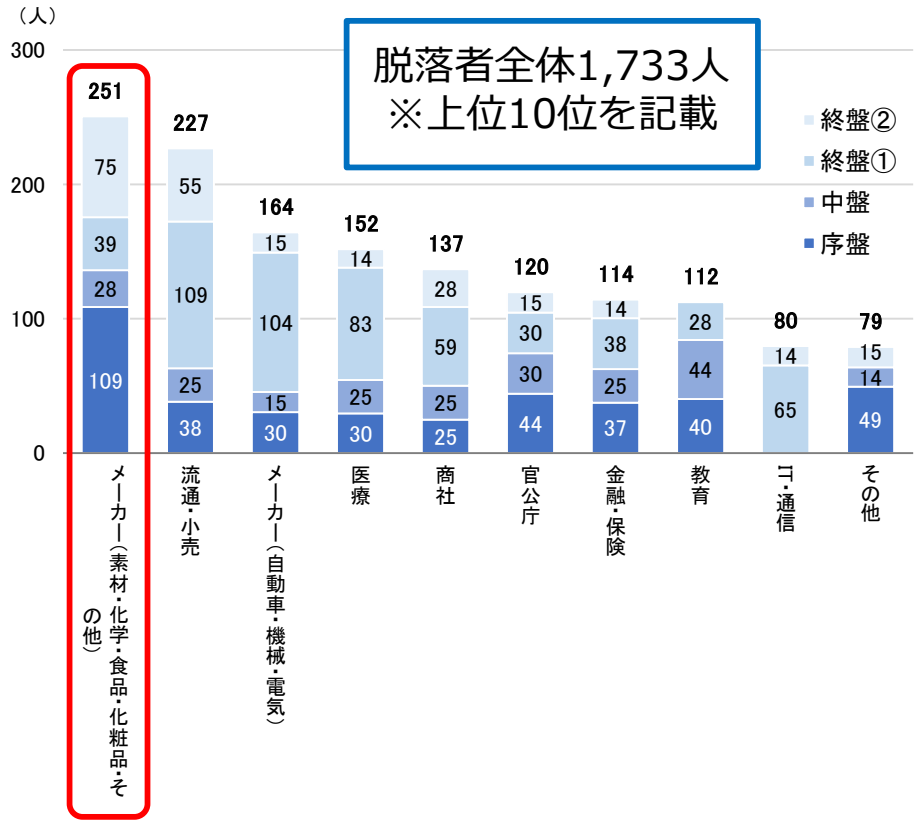
（資料）Webモニターアンケート

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【行動】

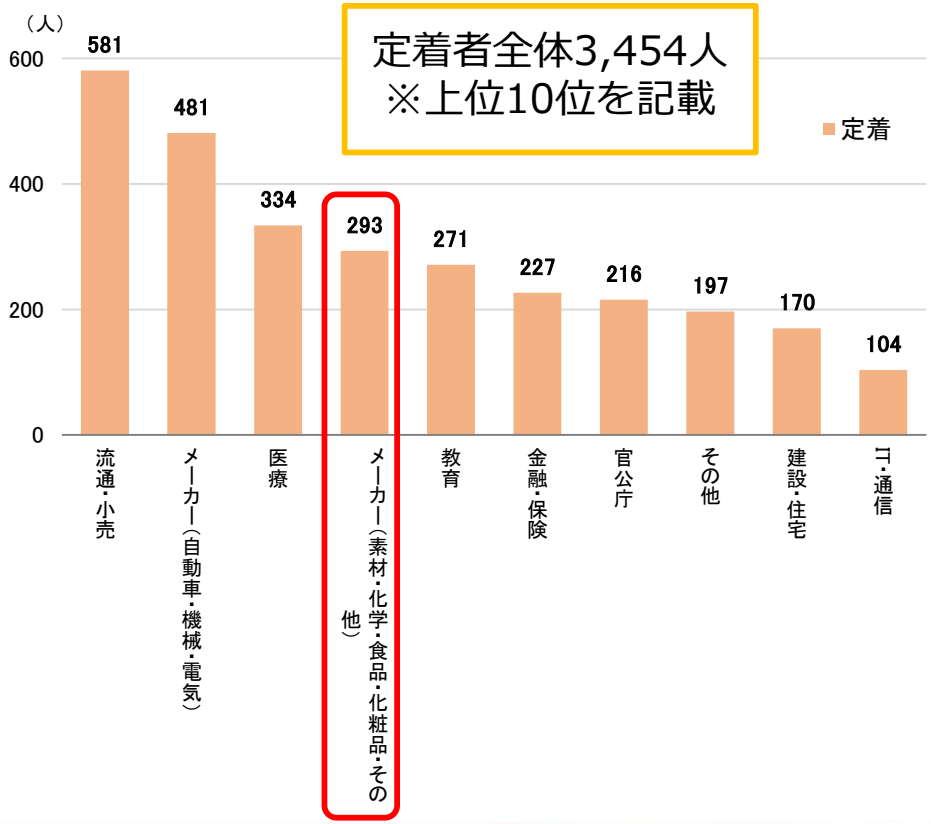
第一志望業種

- 脱落者と定着者の志望先業種を比較すると、**「メーカー（素材・化学・食品・化粧品・その他」を志望している者の脱落が多い。**

第一志望業種（クラスターE）（脱落）



第一志望業種（クラスターE）（定着）



クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【補足情報】

ヒアリング結果より

■ **最終的に東京を選択**

- 採用活動において広島県が有利な点は、東京や大阪と比べて物価や家賃が安く、生活しやすいところだと思う。一方で、**良くも悪くも地域に緊張感がなく、成長を望む若者は東京圏に出て行ってしまう。**（製造業）
- オンライン面接などが増えたことで、**東京の企業が地方学生を採用しやすくなっている。**最近は最終面接だけ対面で、その交通費も企業が負担するケースが増えている。（大学キャリアセンターＡ）
- 全国から応募してもらっているが、**内定後、最終的に関東の企業に行く**方もおり、広島に行くかどうかは大きな選択肢になっていると感じる。（製造業）

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- アクティブ志向であり、漠然と広島の環境に物足りなさを感じている。就職においてもどちらかと言えば成長志向であるため、やりがいが見出せそうな仕事を、特に広島とも東京とも決めずに活動するが、最終的に、大都市には何でもあるというイメージに引きずられて、大都市へと流出しているのではないか。
- 居住地として**広島を優先することにつながる体験が不足**しているのではないか。

《行動変容を期待するボリューム》

- 就職活動を進める中で、**自分の活動欲求を満たし、成長につながる環境**は他地域なのではないかという**漠然としたイメージに引きずられて脱落している**と推定される、中盤・終盤①で流出している学生620人（県内大学）

上記理由に該当する脱落者の推定人数（単位：人）

大学所在地＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	計
県内大学	309	175	445	181	1,110
県外大学	225	70	200	127	623
計	534	245	645	308	1,733

大学所在地	性別	実数
広島県内	男性	424
	女性	197
県外	男性	174
	女性	96

（資料）Webモニターアンケート

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 推定される脱落理由に該当する学生は、**県内大学の男性**で比較的多くみられる。
- 出身地の内訳をみると、中盤で脱落するのは県外出身者だが、終盤①で脱落している広島県出身者も多い。
- 大学生になれば、自分で様々な場所に出かける機会が増えるため、男性が比較的好むアクティビティを意識しながら、広島の様々な資源に触れてもらって彼らの活動欲を満たし、**就職活動をする前から広島県の都市・自然等様々な資源のすばらしさを体感**してもらうことが有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》

ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、中盤・終盤①で脱落しているクラスターEの学生の内訳をみると、県内の大学に通う男性が多い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	424	1.3
	女性	197	0.8
県外	男性	174	1.0
	女性	96	0.7

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》

ターゲットの絞り込み

クラスターEに分類され、中盤・終盤①で脱落する、県内の大学に通う男性は、中盤の脱落者は県外、終盤①の脱落者は県内が多いため、出身地による傾向は絞りにくい。また、学部も特定の属性に特に偏っているという傾向は見られないので、これ以上はターゲットを絞りにくい。

			県内大男性中盤		県内大男性終盤①	
			実数(人)	出現係数	実数(人)	出現係数
出身地	広島県		30	0.3	257	1.1
	県外	隣接県	61	4.0	30	1.0
		三大都市圏	15	3.4	0	0.0
		九州圏	30	8.4	0	0.0
		その他の地域	0	0.0	0	0.0
専攻	文系		45	0.70	91	0.66
	理系		61	1.50	76	0.89
	その他		15	0.91	15	0.43
	不明		15	1.33	106	4.41

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【まとめ】

【脱落者の志向・行動特性】

- 居住地に対する志向を見ると、相対的にアクティブ志向がある中で、遊ぶ場所やテーマパークといったアミューズメントが広島県に足りないと感じている人が一定数存在する。
- 就職先に対する志向を見ると、全体的に成長志向の比率が高い。
- 最初から確固として都会に出たいと思っているわけではなく、結果的に都会に流出している脱落者と、序盤で脱落して出身地へのUターンを志向している脱落者（ターゲットにしにくい）が混在している。
- 「メーカー（素材・化学・食品・化粧品・その他」を志望している者の脱落が多い。

【推定される脱落理由】

- アクティブ志向であり、漠然と広島県の環境に物足りなさを感じている。就職においてもどちらかと言えば成長志向であるため、やりがいが見出せそうな仕事を、特に広島とも東京とも決めずに活動するが、最終的に、大都市には何でもあるというイメージに引きずられて、大都市へと流出しているのではないか。

《行動変容を期待するボリューム》

- 就職活動を進める中で、**自分の活動欲求を満たし、成長につながる環境**は他地域なのではないかという**漠然としたイメージに引きずられて脱落している**と推定される、中盤・終盤①で流出している学生620人（県内大学）

クラスターE（居住地重視：相対的にアクティブ志向）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- アクティブ志向であり、漠然と広島県の環境に物足りなさを感じている。大学が市街地から離れているケースや、休業期間は実家に帰っているケースなどあり、広島県の魅力に触れる機会が少なく、居住地として広島県を優先する、という機会が持てていないのではないか。
- アクティブ志向の彼らの活動欲を満たし、自然・スポーツ・文化芸術等、様々な広島県の資源のすばらしさを体感してもらうことで、広島県の居住地選択上の優先度が上がることによって、漠然としたイメージに引きずられて大都市を中心とした他県に流出する人を抑制できるのではないか。

クラスターF
（居住地重視：全方位こだわり型）

居住地選択に係る多くの項目に高い評価を付ける、全項目高位のクラスターである。他のクラスターがあまり重視していない中で、本クラスターが重視している項目としては、**「様々なことに挑戦できる」「多様な価値観が受け入れられる」「地域に愛着を感じる」「楽しめる遊び場所や観光地がたくさんある」**などがある。

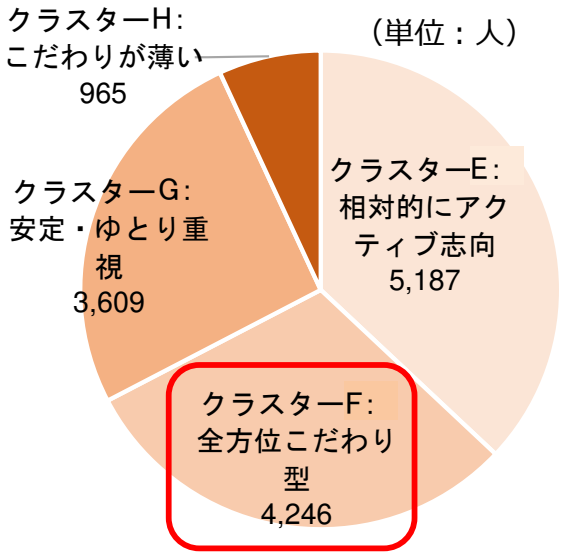
クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）　【全体ボリューム・脱落プロセス】

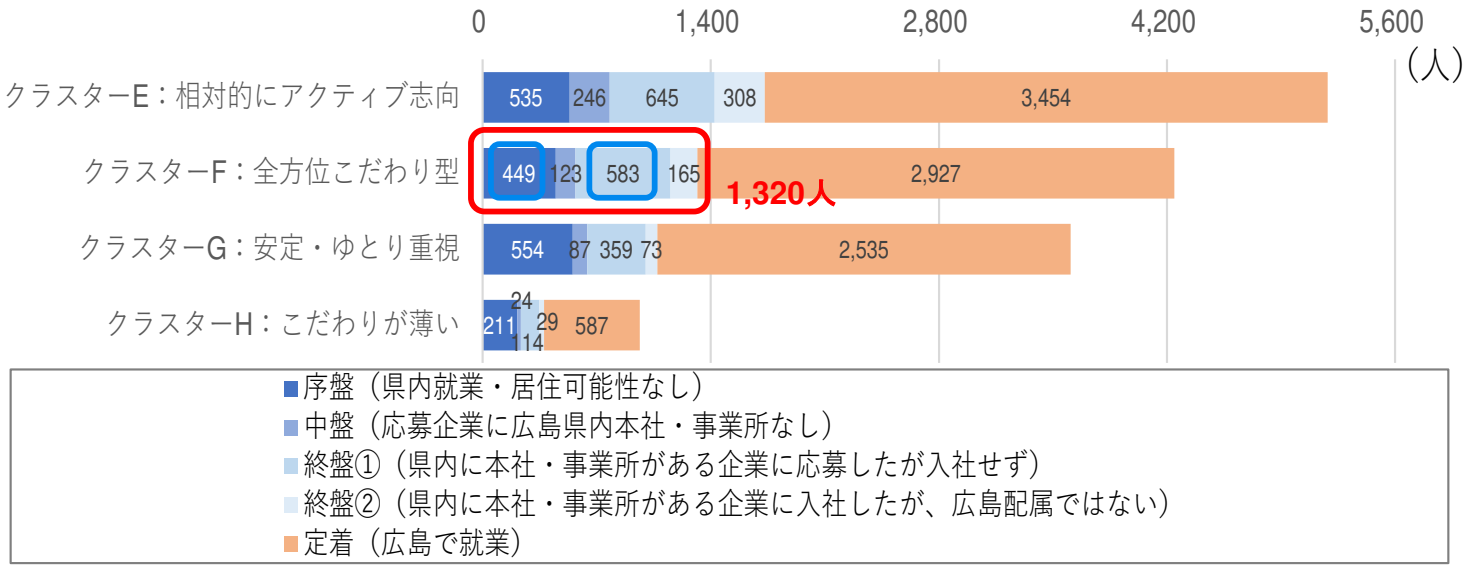
全体ボリュームと脱落プロセス

- クラスター全体の人数は、4,246人。そのうち、定着者は2,927人（定着率：68.9%）
- 脱落者は1,320人（脱落率：31.1%）で、**序盤脱落者 449人、終盤脱落者 583人**

➢ **序盤と終盤での脱落が多い。**

全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス





（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【志向】

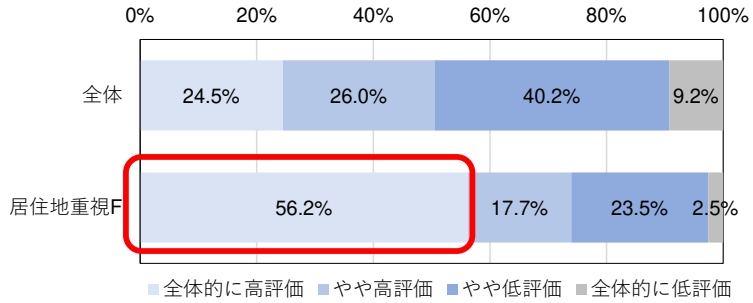
広島県に対するイメージ

- 脱落者・定着者ともに、**広島県に対するイメージは、全体的に高評価をしている人の割合が高い。**

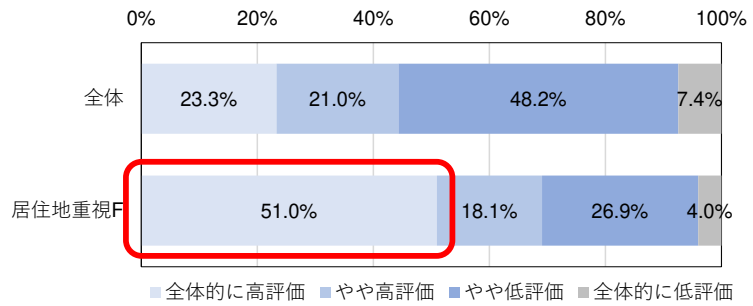
脱落者・定着者別の広島県に対するイメージの傾向

比率

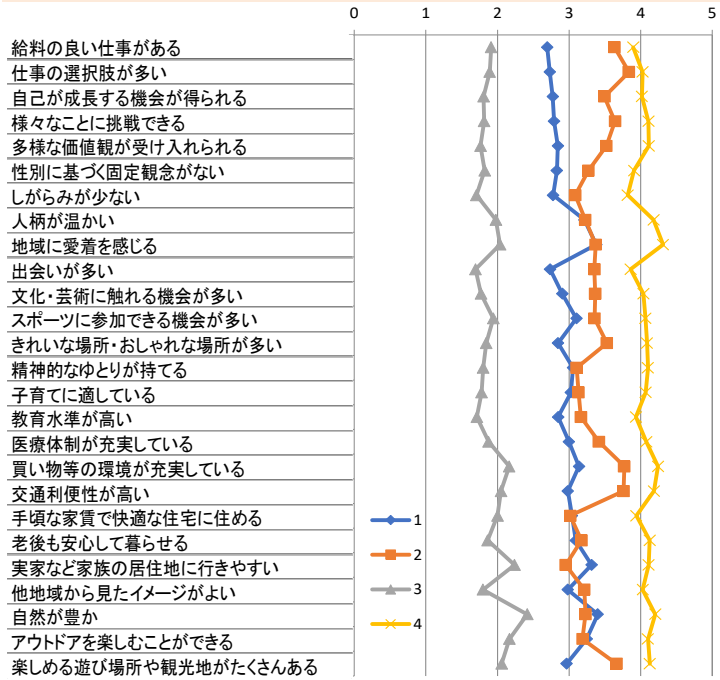
脱落者



定着者



広島県に対するイメージ
- 全体的に高評価(4)
- やや高評価（買い物・交通、遊びなど）(2)
- やや低評価（仕事、価値観、出会いなど）(1)
- 全体的に低評価(3)



（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【志向】

就職先に対する志向

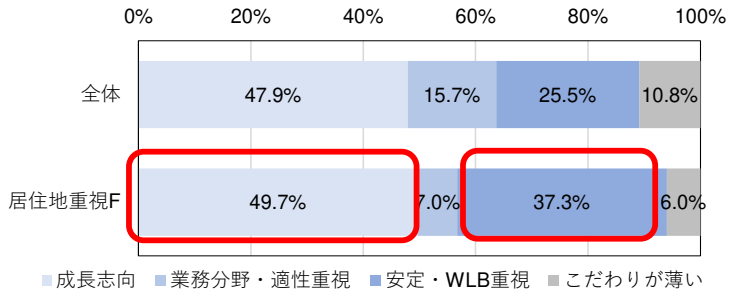
- 「自分の能力が生かせる」、「自己の成長が期待できる」といったことを重視する成長志向の人と、「長期間安定的に働くことができる」、「福利厚生が良い」、「転勤がない」といったことを重視するWLB志向の人の割合が高い。

➢ **就職先に対する志向は成長志向とWLB志向に二分されている。**

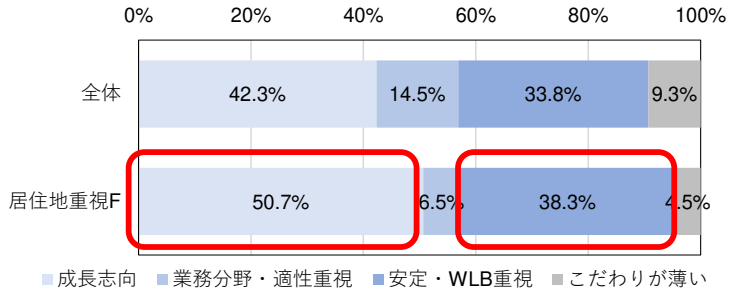
脱落者・定着者別の就職先に対する志向の傾向

比率

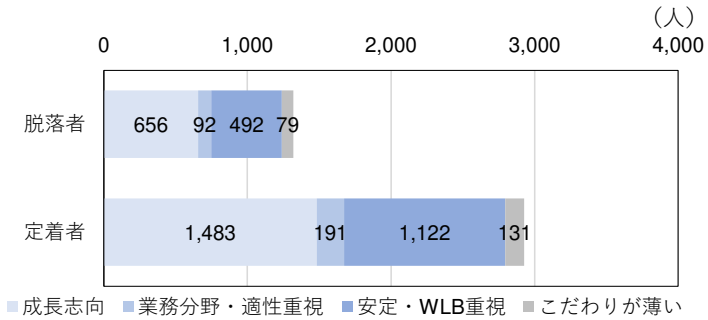
脱落者



定着者



実数



（資料）Webモニターアンケート

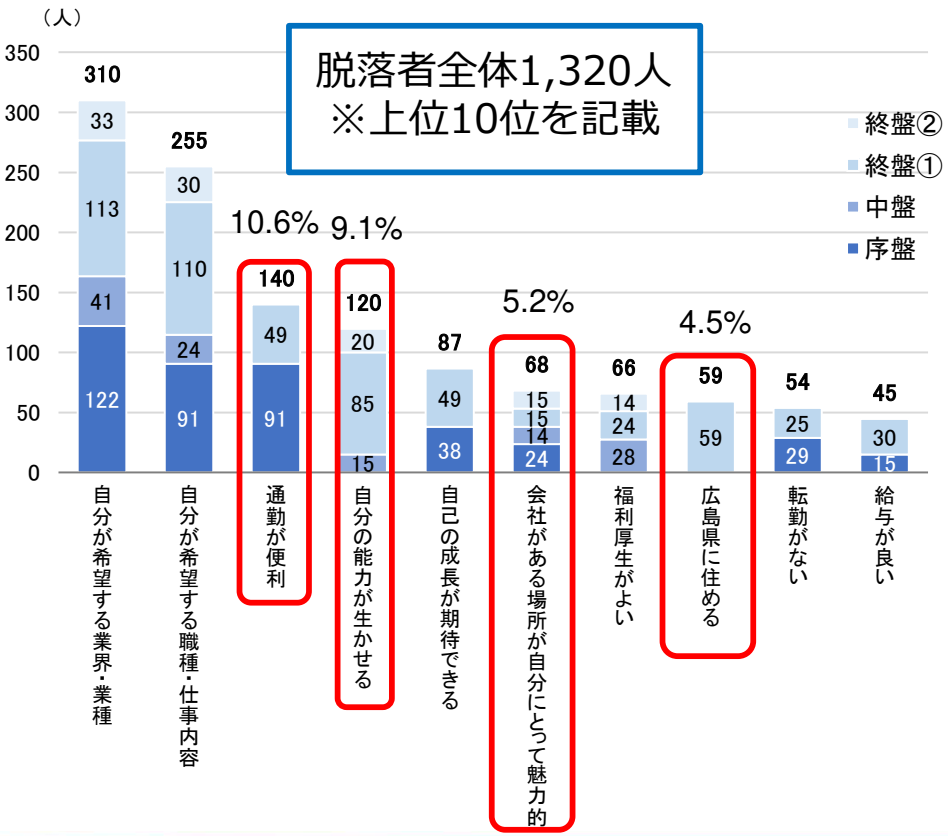
クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【行動】

決め手

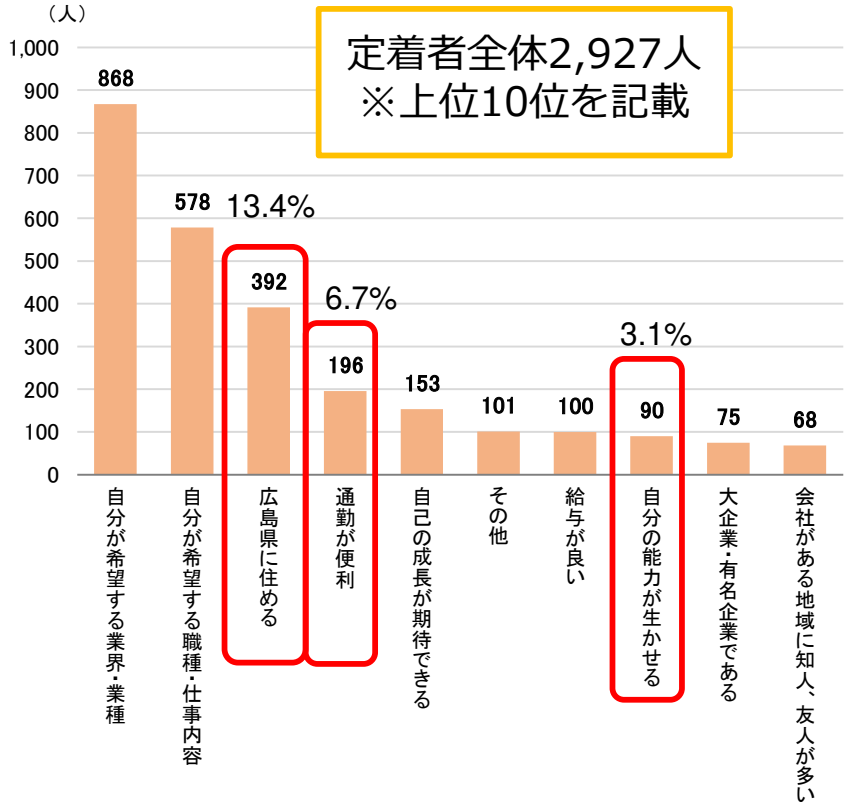
- 脱落者と定着者の決め手を比較すると、**脱落者は「自分の能力が生かせる」、「通勤が便利」や「会社がある場所が自分にとって魅力的」を決め手**としている一方、**定着者は「広島県に住める」ことを決め手**としている。

➢ **脱落者は、仕事内容や環境面で、よりよい条件の県外企業や地域へ流出していると考えられる。**

就職先の決め手（クラスターF）（脱落）



就職先の決め手（クラスターF）（定着）



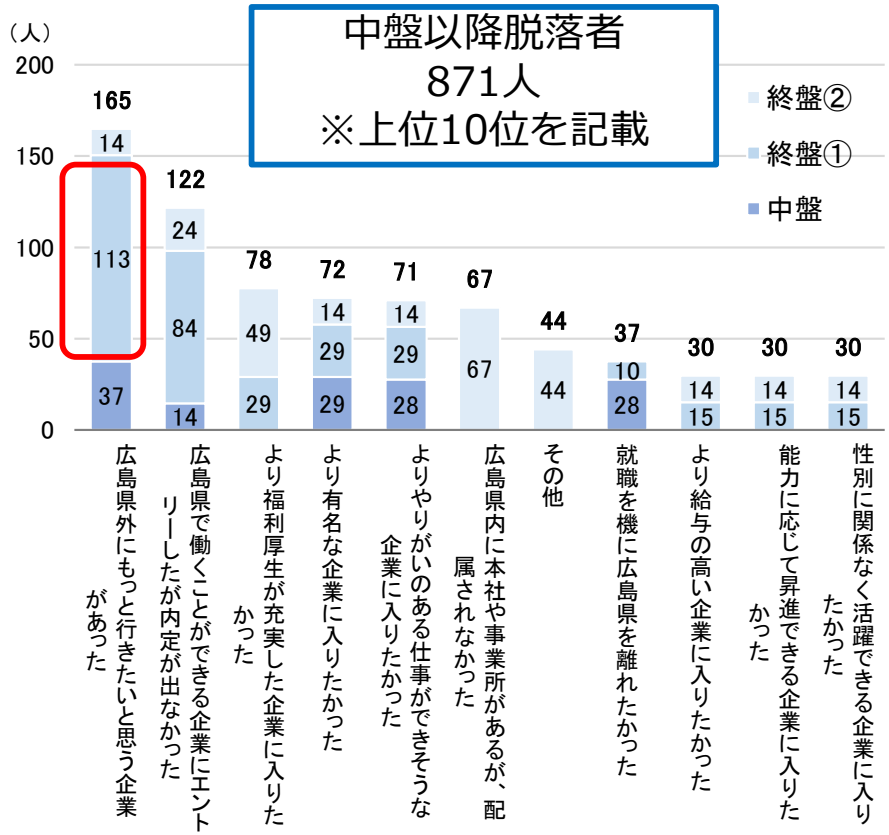
（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【行動】

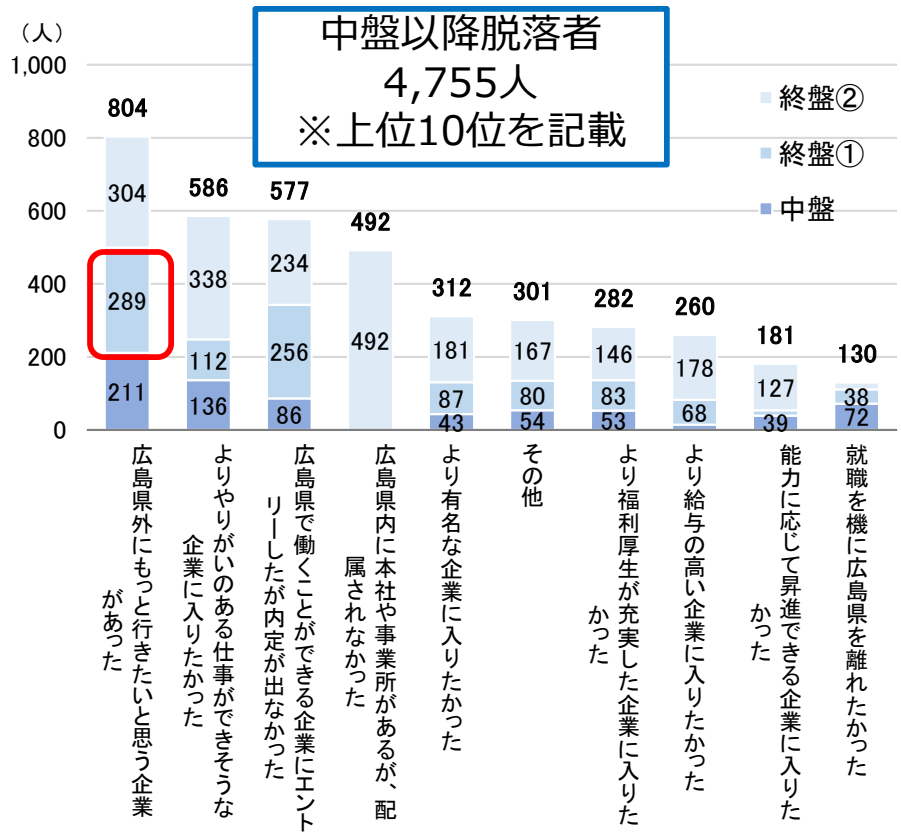
広島県で就職しなかった理由

- 「もっと行きたいと思う企業があった」が最多で、**終盤①（入社しなかった）での脱落が目立つ。**

県内就職しなかった理由（クラスターF）



県内就職しなかった理由（全クラスター）



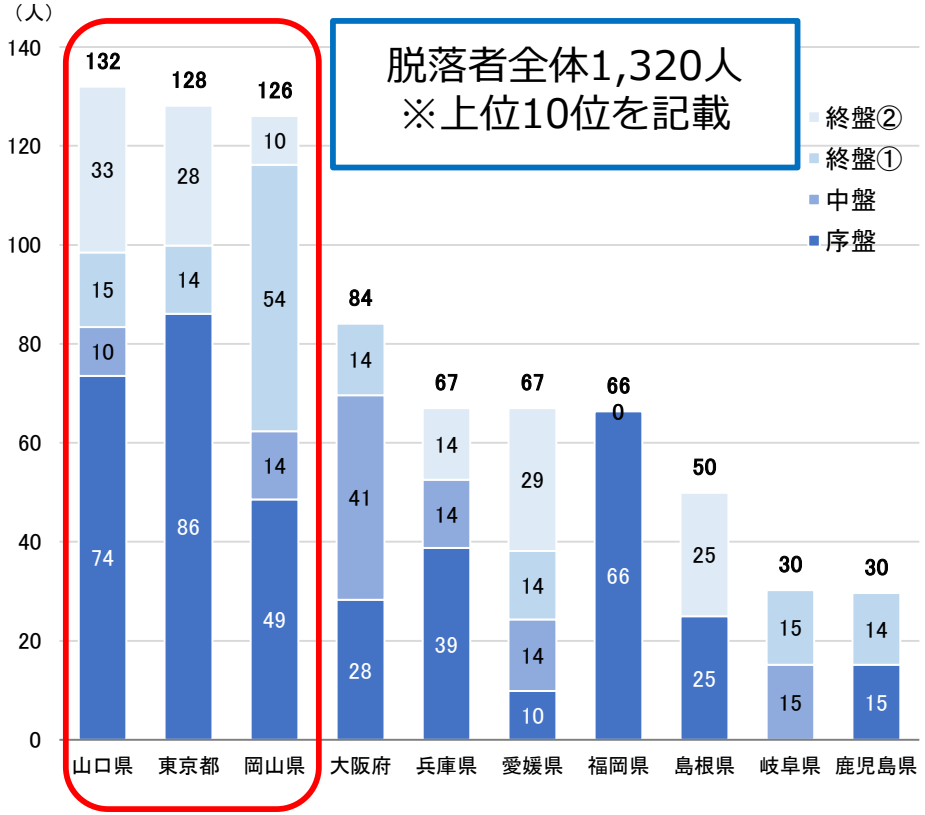
（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【行動】

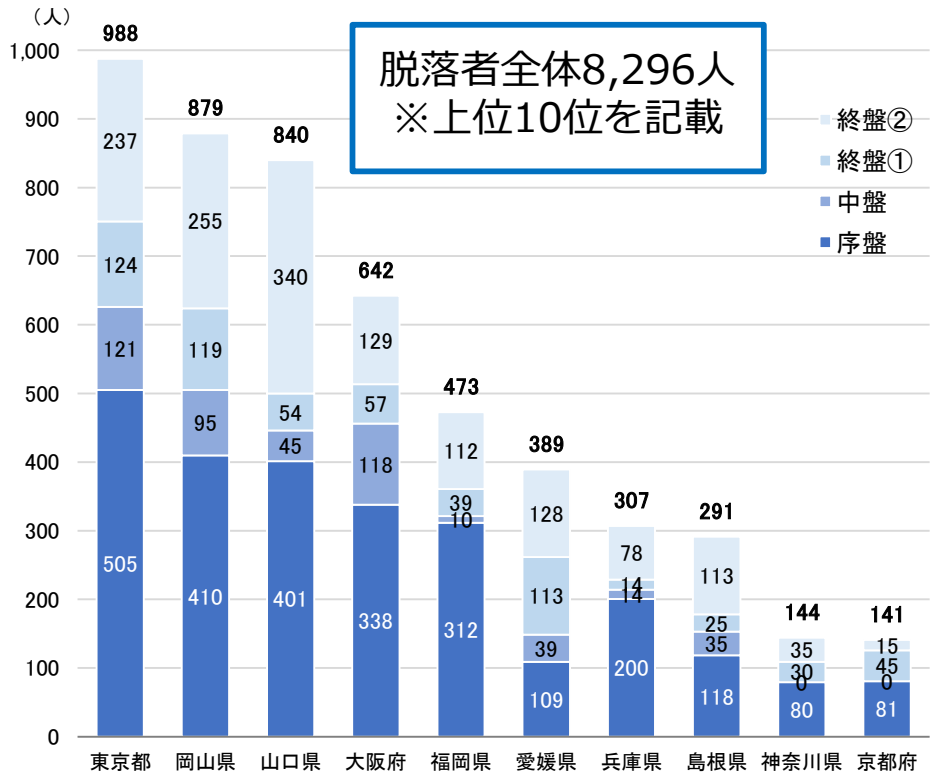
流出地域

- 流出地域別で見ると、山口県、東京都、岡山県の順に多い。大都市圏に流出する場合は序盤に脱落、近隣県に流出する場合は終盤に脱落するといった**脱落段階の傾向は見られない**。

流出地域（クラスターF）



流出地域（全クラスター）



クラスターF（居住地重視：全方位こだわり型）【補足情報】

ヒアリング結果より

■ 東京の企業へのアクセスのハードル低下

- 就職先を選ぶ際に**東京の会社でといった形で絞り込み**をかけられて、広島県の企業が候補に入ってこないことも問題意識を持っている。（製造業）
- オンライン面接などが増えたことで、**東京の企業が地方学生を採用しやすくなっている**。最近は最終面接だけ対面で、その交通費も企業が負担するケースが増えている。（大学キャリアセンターＡ）

■定着の背景としての地元愛

- **広島県で採用された人は、「広島に帰りたい」「広島のために」という思いがあり**、その上で、当社を選んでくれている。より遠隔地にある事務所では、リモートにより東京の仕事を手掛ける状況にあるが、（これに比べると）広島拠点のメンバーは「広島のために」ということで、広島の仕事に従事する。（IT・通信）

■ 地元定着に向けた情報発信の必要性

- いい企業はたくさんある一方で、マツダなどの**一部の上場企業しか知られていない**ため、そこがアピールできるといい。**関東だからいい企業というわけではなく、地元でもいい企業はある。**マイナーでも待遇がよい、福利厚生がよいなど、大学生や高校生を引き付けるような企業は広島県に多くあると思う。（クラスターAに分類されるWebアンケート回答者）

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 定着率が高いクラスターではあるが、広島に対する評価が高い中で、自身が重視する事項について複数の候補を比較検討した結果、**よりよい条件の県外企業や地域へ流出**していると考えられる。（居住環境や自己の成長重視の場合は大都市圏、自分の能力が生かせることやＷＬＢを重視する場合は近隣県へ流出）

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している544人。（うち、県内大学生320人、県外大学の女性152人）

上記理由に該当する脱落者の推定人数（単位：人）

就職の志向＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	計
成長志向	170	85	290	112	657
業務分野・適性重視	20	14	58	0	92
安定・WLB重視	230	24	185	53	492
こだわりが薄い	29	0	50	0	79
計	449	123	583	165	1,320

大学所在地	性別	実数
広島県内	男性	212
	女性	108
県外	男性	72
	女性	152

（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 県内の学生については、実数としては**男性の方が多い**。
- **県外出身者の方が対象に当たる可能性が高い**。専攻については「不明」が多いため特に特徴的な傾向は見られない。
- 県内学生については、県外出身の男性の参加を意識しつつ、広くアピールしていく。
- **県外学生については、実際の構成比に比べて女性の比率が高く、実数として多い**。文系とその他の学部が比較的多く、理系の比率が低いため、どちらかと言えば人文・社会科学的な分野で女性が活躍できるできるイメージを発信していくことが有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》

ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、終盤①までに脱落している、就活の志向が成長志向のクラスターFの学生の内訳をみると、県内の大学に通う男性、県外の大学に通う女性が多い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	212	0.9
	女性	108	1.2
県外	男性	72	0.5
	女性	152	1.9

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》

ターゲットの絞り込み

クラスターFに分類され、終盤①までに脱落する県内の大学に通う男性は、全体の構成比に比べると、県外よりも出身者である割合が高い。
クラスターFに分類され、終盤①までに脱落する県外の大学に通う女性は、理系よりは文系やその他の学部である割合が高い。

			県内大男性		県外大女性	
			実数(人)	出現係数	実数(人)	出現係数
出身地	広島県		166	0.6	317	－
	県外	隣接県	106	2.6	－	－
		三大都市圏	45	3.8	－	－
		九州圏	15	1.6	－	－
		その他の地域	30	6.9	－	－
専攻	文系		121	0.70	165	1.13
	理系		106	0.99	69	0.63
	その他		15	0.34	41	1.63
	不明		121	2.50	41	0.94

（資料）Webモニターアンケート

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【まとめ】

【志向・行動特性】

- 全体的に定着者数が多い中で、序盤と終盤で同程度脱落している。
- 広島県に対するイメージは、全体的に高評価をしている人の割合が高い。
- 就職先に対する志向は、脱落者と定着者ともに、成長志向とWLB志向に二分されている。
- 脱落者は、仕事内容や環境面で、よりよい条件の県外企業や地域へ流出していると考えられる。
- 流出地域別で見ると、山口県、東京都、岡山県の順に多い。大都市圏に流出する場合は序盤に脱落、近隣県に流出する場合は終盤に脱落するといった脱落段階の傾向は見られない。

【推定される脱落理由】

- 広島に対する評価が高い中で、自身が重視する事項について複数の候補を比較検討した結果、よりよい条件の県外企業や地域へ流出していると考えられる。（居住環境や自己の成長重視の場合は大都市圏、自分の能力が生かせることやＷＬＢを重視する場合は近隣県へ流出）

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- このような理由で脱落している544人。（うち、県内大学生320人、県外大学の女性152人）

クラスターF（居住地重視・全方位こだわり型）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- 県内大学の学生に対して、自分が活躍・成長できる舞台が広島にある、と実感できる機会を学生のうちから体験してもらう。例えば、学生を中心とする若者に、県内（とりわけ都市部）を舞台に様々なイベントを企画・運営してもらい、学生時代から大学内に止まらない多様なネットワークを形成させ、自己実現につながる経験の機会を提供すれば、大学卒業後も広島県を拠点に生活し、地域に関わる様々な仕事をしたいと考えるのではないか。
- 県外大学の女性に対しては、広島県が起業家を含めて様々な女性が活躍する地域であることをPRすることで、起業や、すぐに起業に至らずとも、広島県で働くことがイメージでき、就職する人を増やせるのではないか。

クラスターG
（居住地重視：安定・ゆとり重視）

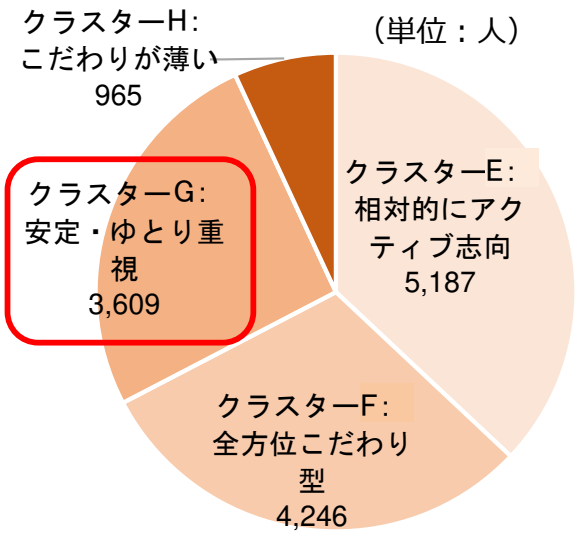
「精神的なゆとりが持てる」「人柄が温かい」「買い物等の環境が充実している」「医療体制が充実している」「老後も安心して暮らせる」など生活の**安心やゆとりなどに関する項目を重視**する。

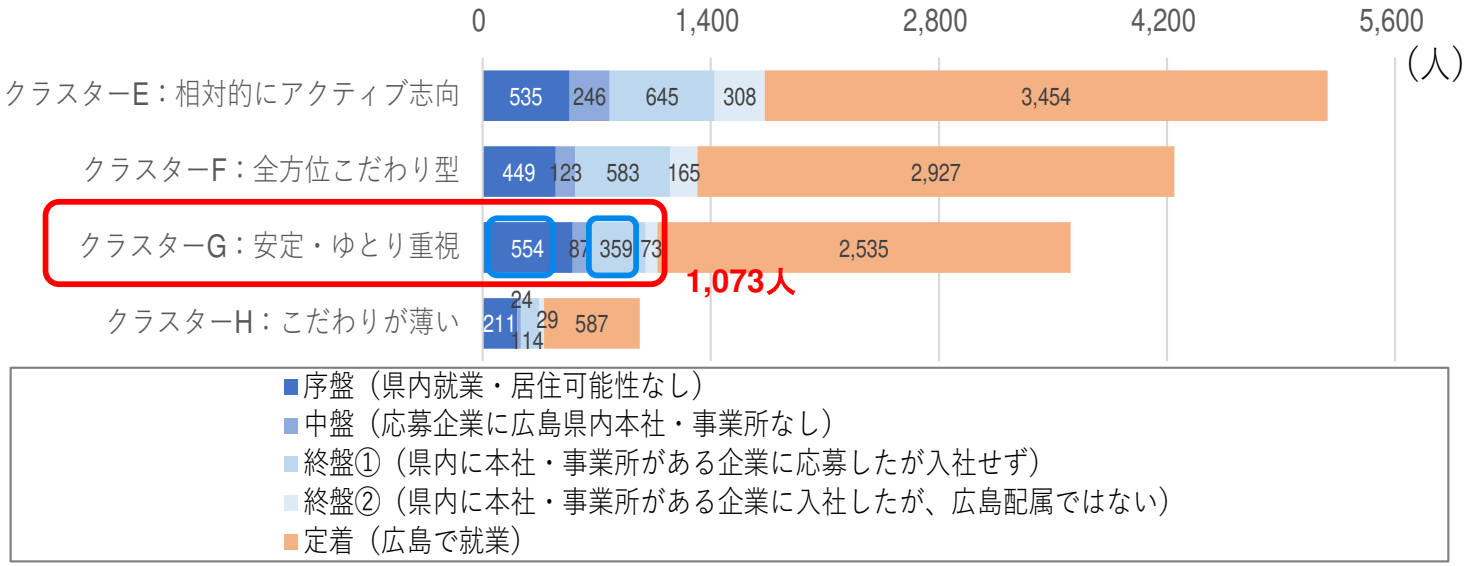
クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【全体ボリューム・脱落プロセス】

- クラスター全体の人数は、3,609人。そのうち、脱落者は1,073人（**序盤脱落者 554人、終盤①脱落者 359人**）
- 定着率は７割を超えており、居住地重視クラスターの中でも、定着の割合が最も高い。

➢ 序盤と終盤での脱落が多い。

全体ボリューム・クラスター内での脱落プロセス





（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【志向】

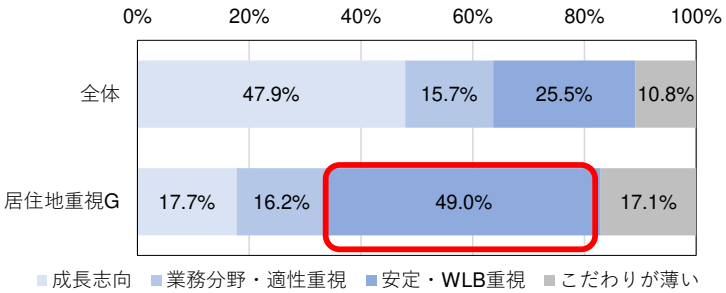
就職先に対する志向

- 「長期間安定的に働くことができる」、「福利厚生が良い」、「転勤がない」といったことを重視する**WLB志向の人の割合が高い。**

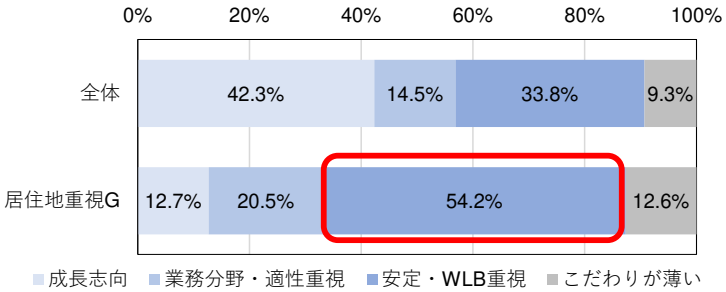
脱落者・定着者別の就職先に対する志向の傾向

比率

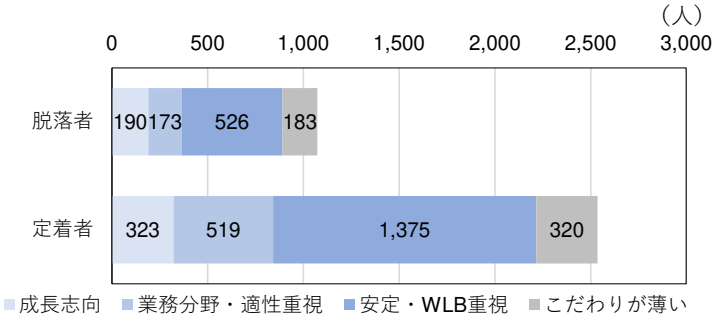
脱落者



定着者



実数



（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【志向】

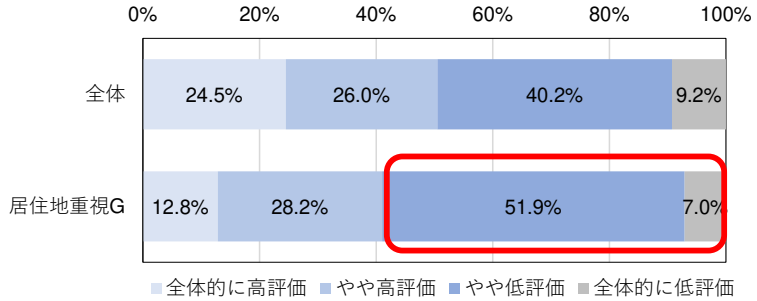
広島県に対するイメージ

- 脱落者・定着者ともに、**広島県に対するイメージは、全体的にやや低評価をしている人の割合が高い。**

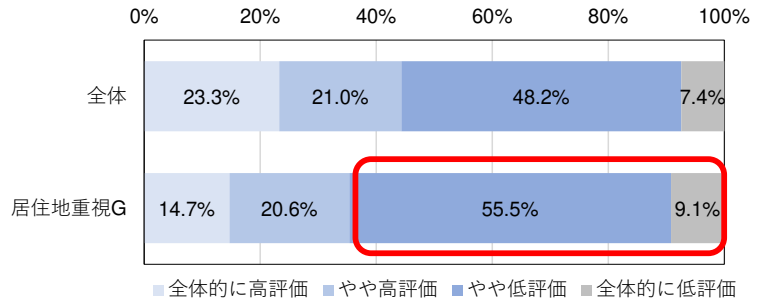
脱落者・定着者別の広島県に対するイメージの傾向

比率

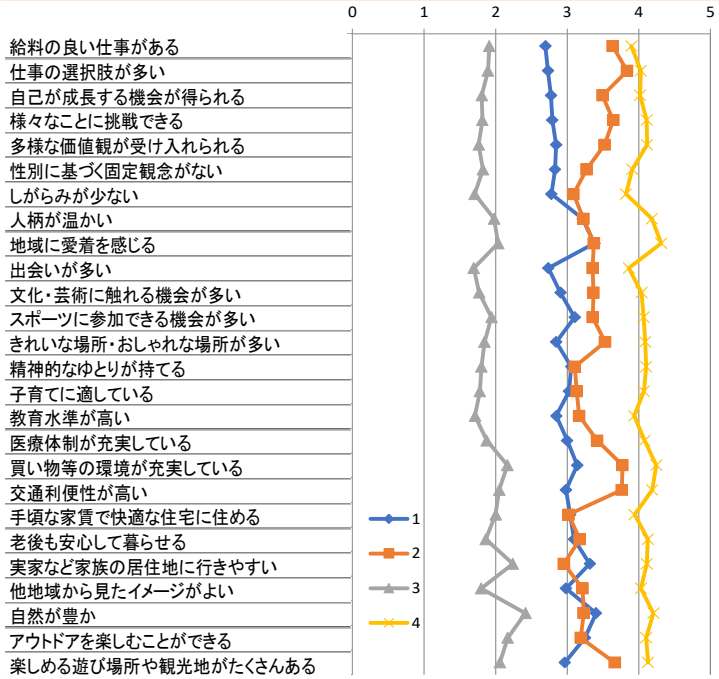
脱落者



定着者



広島県に対するイメージ（統計分析によるグループ分け）
- 全体的に高評価(4)
- やや高評価（買い物・交通、遊びなど）(2)
- やや低評価（仕事、価値観、出会いなど）(1)
- 全体的に低評価(3)

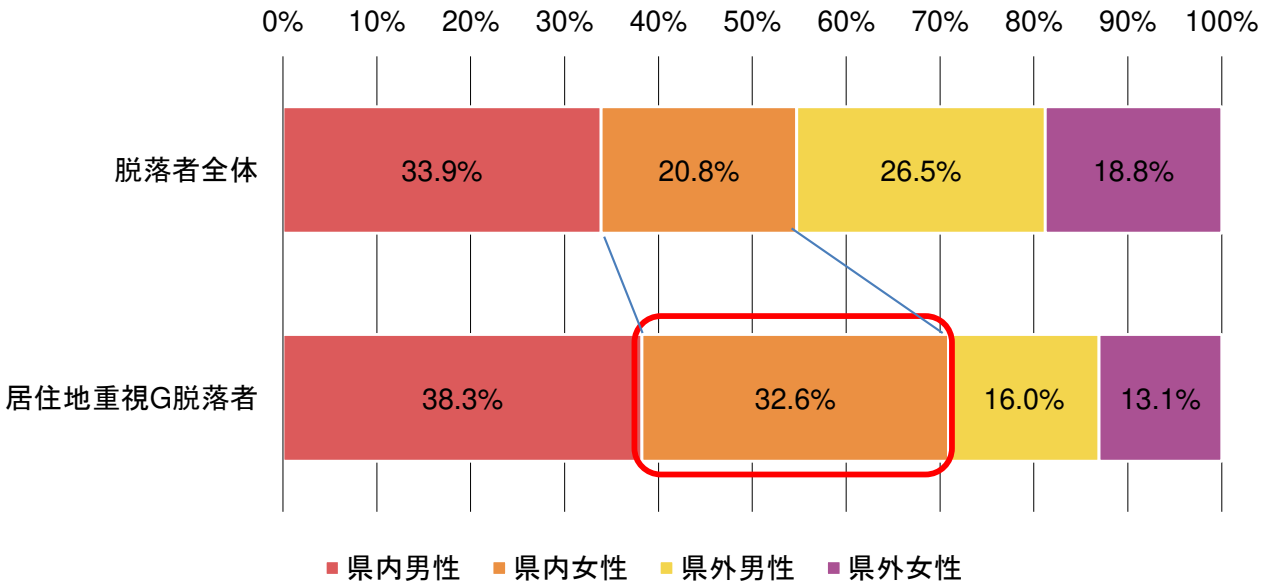


（資料）Webモニターアンケート

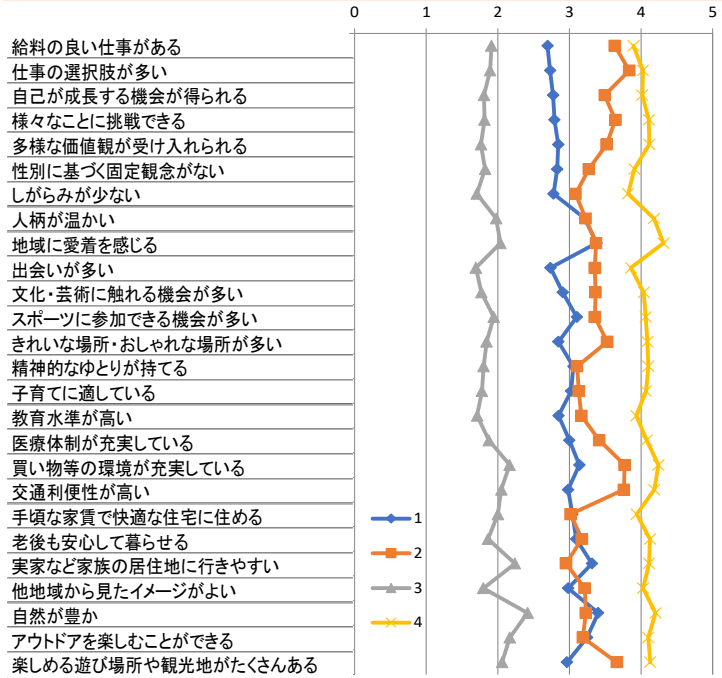
クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【志向】

- 脱落者の傾向として、広島県に対するイメージに関する設問において、特に**県内大学の女性**が低い評価をつけている。
  - ➢ 高評価の人と低評価の人とで、評価の差異が大きい項目には、**「多様な価値観が受け入れられる」「性別に基づく固定観念がない」**などがあり、居住地において安定・ゆとりを重視する県内大学の女性にとって、これらの項目に対する低い評価が、広島県から離れる一因になっている可能性がある。

広島県に対する評価が低い人の内訳（男女・県内外）



広島県に対するイメージ（統計分析によるグループ分け）
- 全体的に高評価(4)
- やや高評価（買い物・交通、遊びなど）(2)
- やや低評価（仕事、価値観、出会いなど）(1)
- 全体的に低評価(3)



（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【志向】

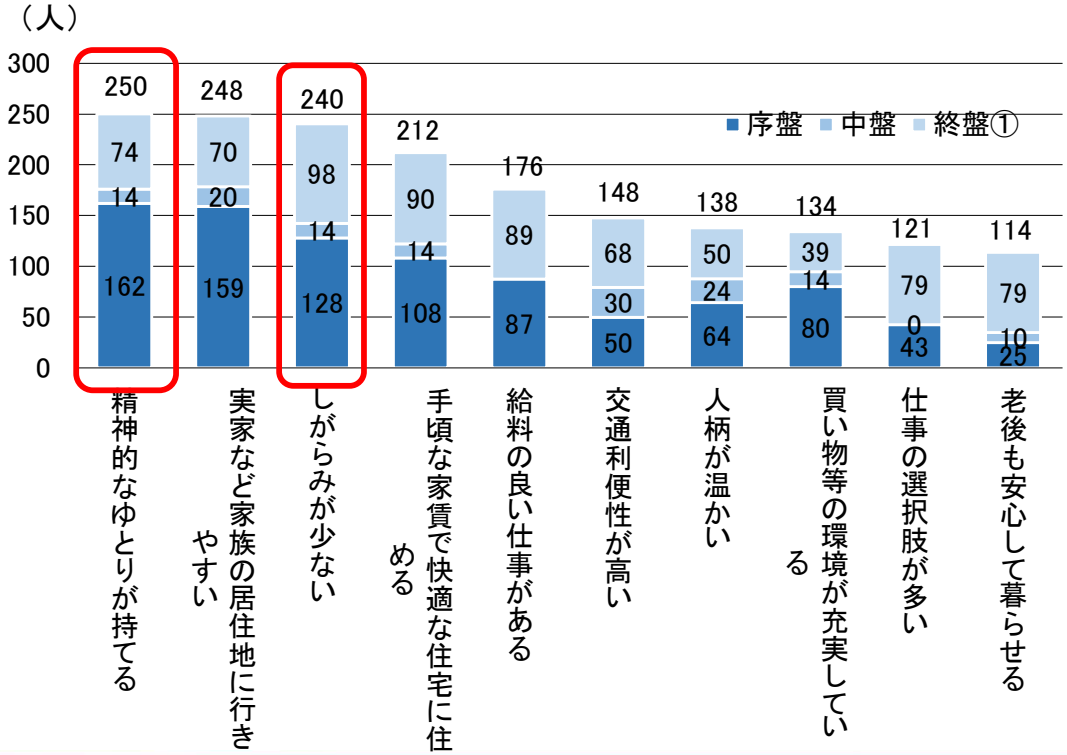
居住時において重視する項目×広島県に対するイメージ

- 広島県に対して「精神的なゆとりが持てる」というイメージが持てず脱落する層（序盤　162人、終盤①74人）　や「しがらみが少ない」というイメージが持てず　脱落する層（序盤128人、終盤①98人）が存在する。

➢　広島県に対する**ネガティブイメージがあり、生活するイメージを持てず**に脱落している層がいるのではないか。

※「実家など家族の居住地に行きやすい」というイメージがで持てない脱落者が多いのは、県外出身者が多いためと考えられる。

居住地選択において重視する事項について、「非常に重視する」又は「やや重視する」を選択し、かつ、当該項目が広島県のイメージに合致すると「あまりそう思わない」又は「全くそう思わない」を選択した人数



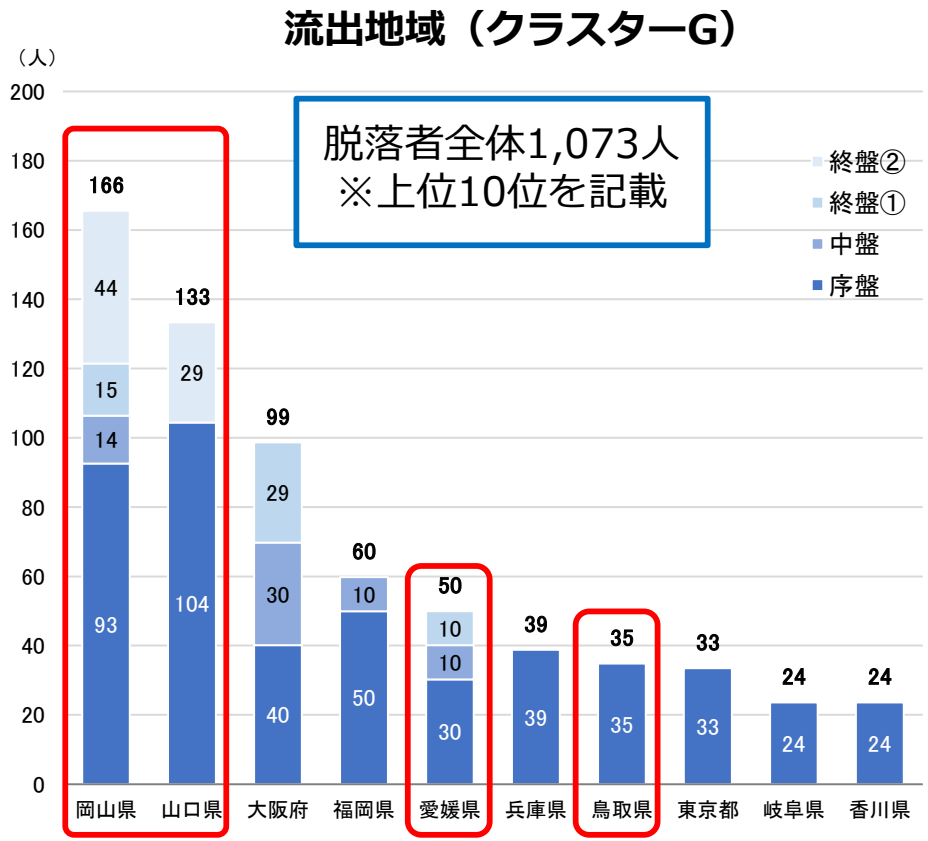
序盤から終盤①にかけて
脱落した999人
※26項目中上位10項目を記載

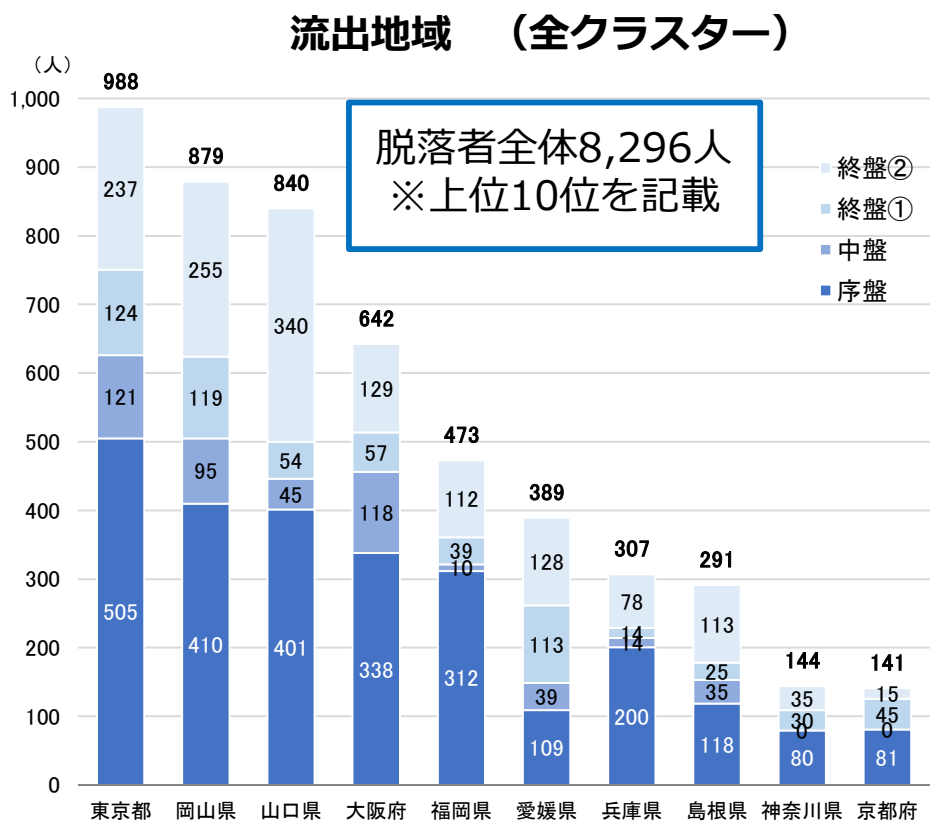
（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【行動】

流出地域

- 岡山県（166人）、山口県（133人）、大阪府（99人）、福岡県（60人）、愛媛県（50人）が上位で、いずれも序盤で脱落している人が多い。
- このクラスターでは東京都は８位（33人）。
- 脱落者は、東京都よりは隣接県（岡山県、山口県、愛媛県）に転出しており、**序盤で脱落する人が多く、出身地にUターンしているケースも多い。**





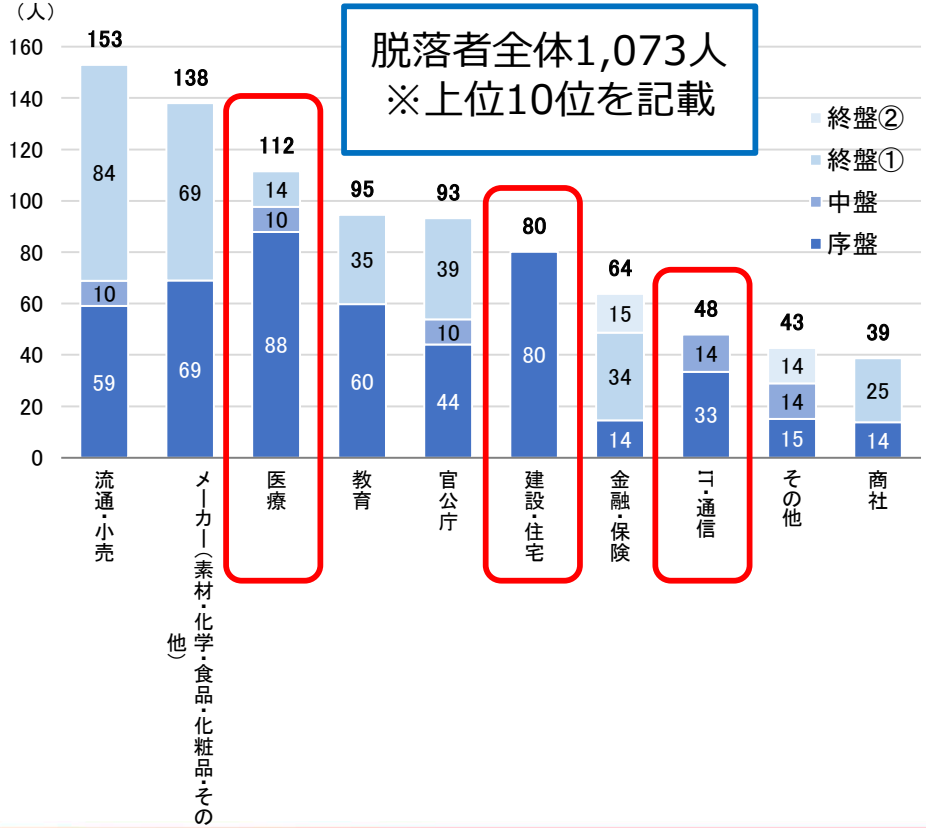
クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【行動】

第一志望業種

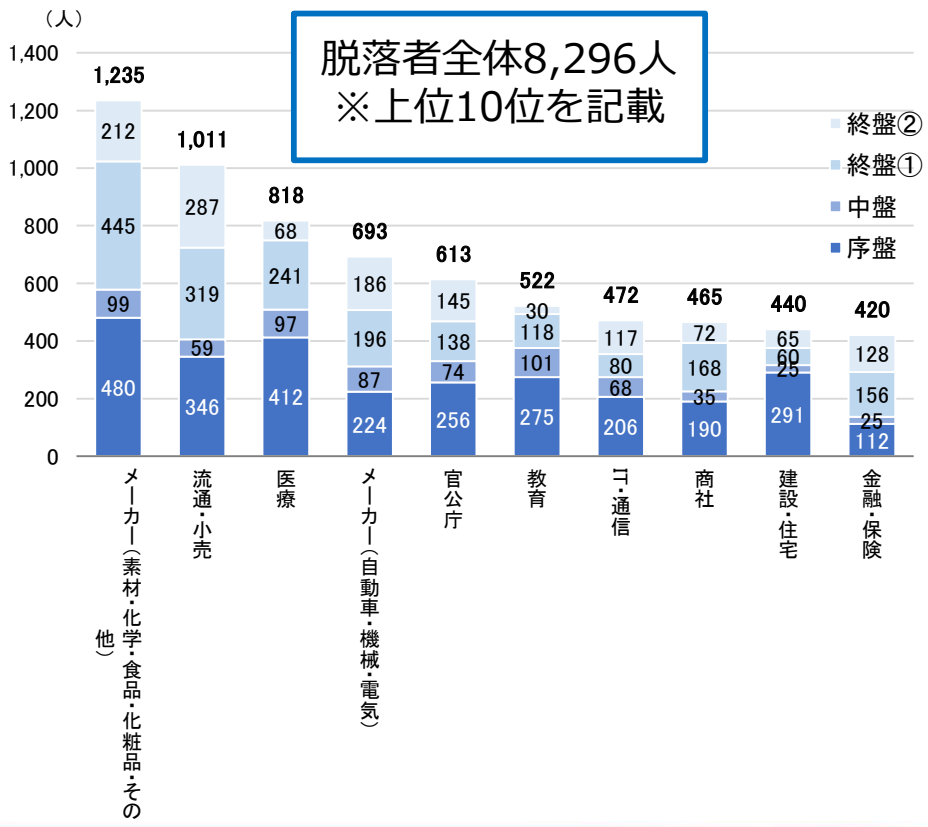
- 脱落者と定着者の志望先業種を比較すると、脱落者においては、全クラスターでは４位の「メーカー（自動車・機械・電気）」が10位以内に入っていない。
- **「建設・住宅」は序盤、「IT・通信」は序盤と中盤で脱落しており、「医療」も序盤での脱落が多い。**

➢ 脱落者の第一志望業種の上位には「メーカー（自動車・機械・電気）」が入っていない一方で、「IT・通信」は入っており、**地元企業にあまり目が向いていない。**

第一志望業種（クラスターG）



第一志望業種（全クラスター）



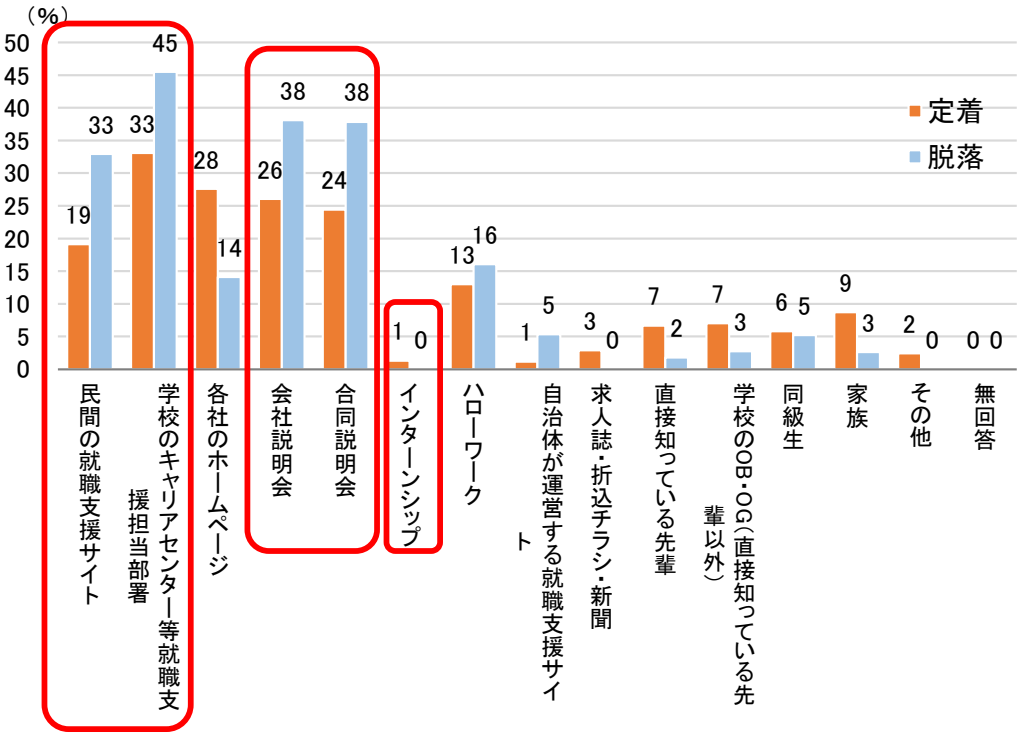
（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【行動】

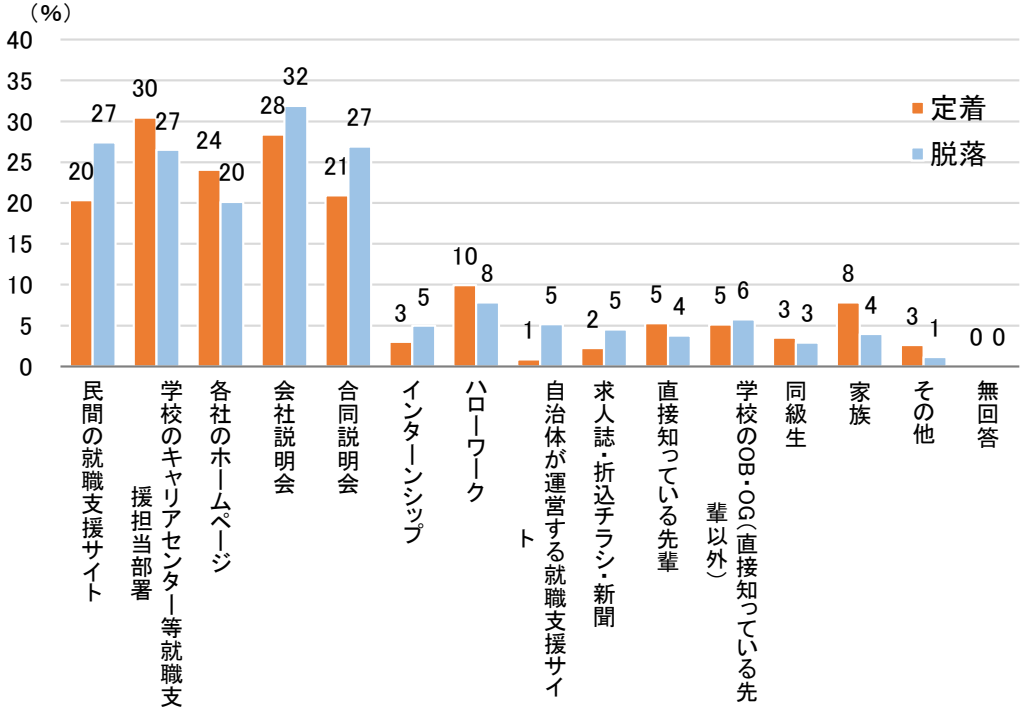
情報収集手段

- 脱落者の県内企業に関する情報収集をみると、**「民間の就職支援サイト」（33%）、「学校のキャリアセンター等就職支援担当部署」（45%）、「会社説明会」（38%）や「合同説明会」（38%）等の割合が定着者よりも高い。**
- 脱落者・定着者ともに、インターンシップはほとんど活用していない。

情報収集手段-県内企業（クラスターG）



情報収集手段-県内企業（全クラスター）

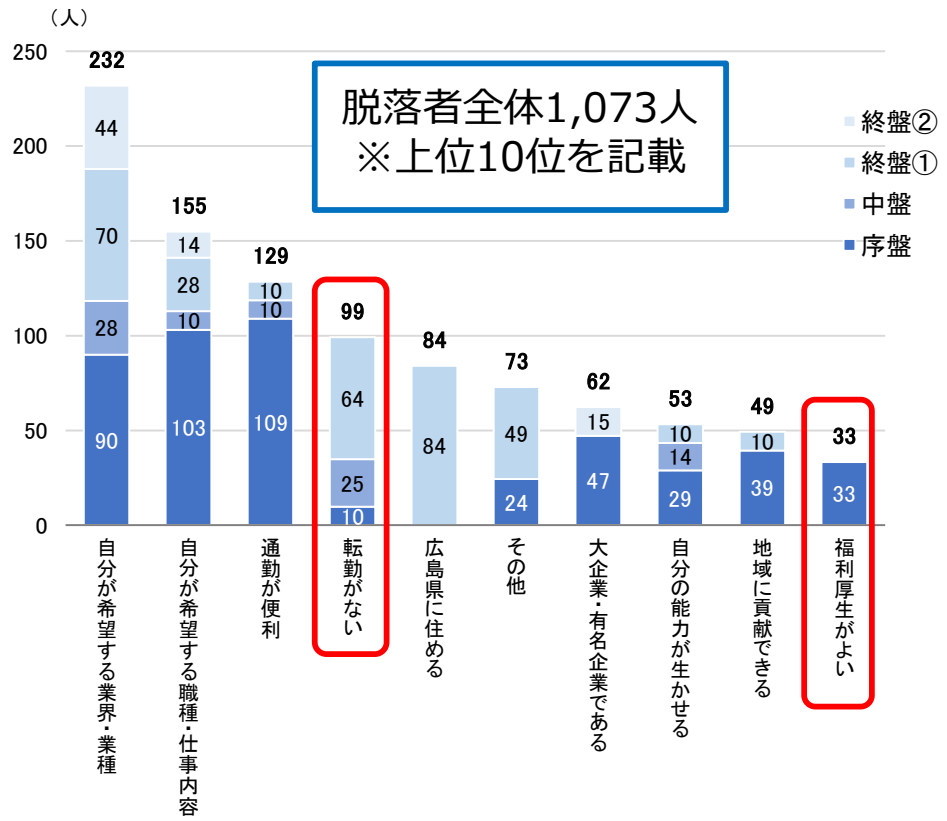


クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【行動】

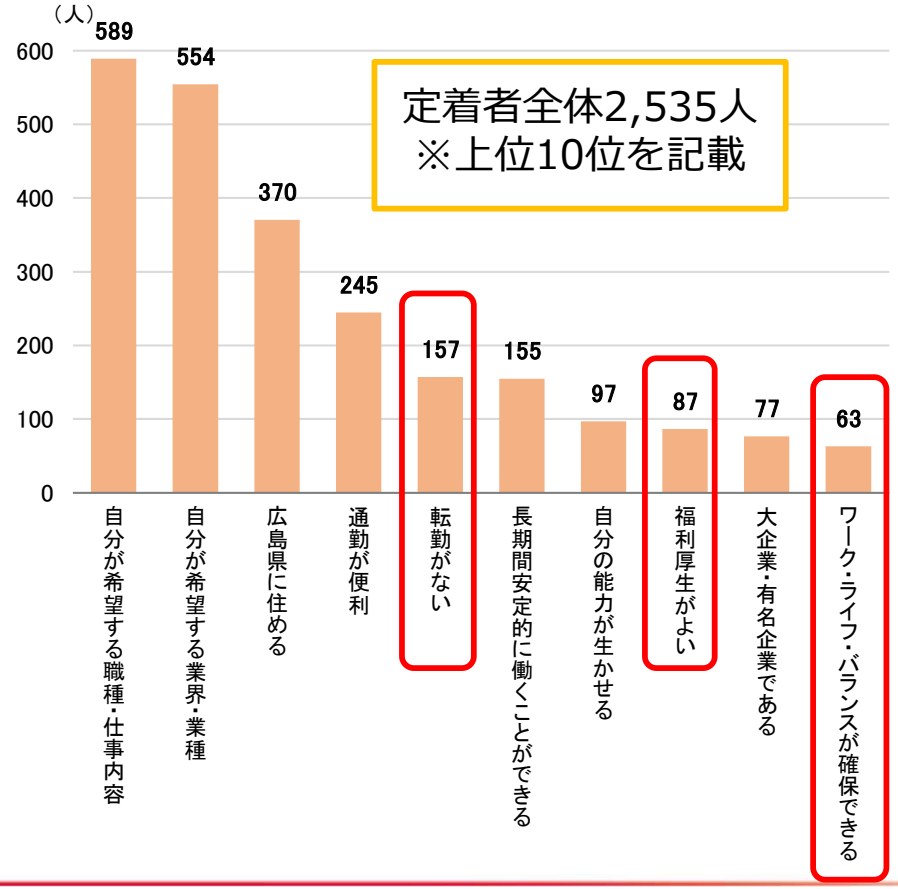
決め手

- 他のクラスターと異なり、「転勤がない」、「福利厚生がよい」、「ワーク・ライフ・バランスが確保できる」が決め手となっているケースが多い。
- ➢ **働きがいよりも働きやすさを求めている傾向が強い。**

就職先の決め手（クラスターG）（脱落）



就職先の決め手（クラスターG）（定着）



（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【補足情報】

ヒアリング結果より

■ **転勤回避の傾向**

- **エリア限定の応募が意外と多い**。学生と話をすると、全国転勤というよりは、**なじみの地域の近くで勤務したい**というニーズが高い。エリア限定は入社後3年以内に、全国転勤にするか転居不可か選べるので、まずはエリア限定からという方が多いのかとも思う。（金融・保険）
- 関西や首都圏に進学した学生に話を聞くと、**通勤ラッシュを経験して、やはり広島で働きたいという学生もいる**。ゆとりや生活を考えて、広島に戻ることを決める学生はある程度いるようである。（金融・保険）
- **転勤を望まない若年男性が最近増えてきている**印象がある。学生と話をすると、広島に残りたいなど自分の将来・キャリアを明確に持っている学生が増えている。そういった学生が広島本社の銀行などを受けている。（金融・保険）

■ **広島への定着希望者へのアピール**

- 高度IT人材等は東京圏や愛知県に集中しており、広島県内にいない。採用には苦戦しているので、**完全リモート勤務を可としている**。（製造業）
- 就活の段階で、広島で働きたいと思う人に、広島の働き口があることを知ってもらう。**県外が本社の企業でも、広島に営業所や支社があり、広島で勤務ができるということをもっとアピールしたほうがいい**と思う。（Ｉターンした Webアンケート回答者）

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 定着率が高いクラスターではあるが、安定やWLBを重視し、生活環境の変化をあまり好まず、働きやすい仕事をしながら暮らしたいと考えている中で、脱落者は自分にとってのWLBが広島県には存在しないと思い、序盤で脱落しているのではないか。
- **しがらみや性別に基づく固定観念、精神的なゆとりが持てるか、**といった項目でネガティブな反応を示す層もあり、広島県に対してネガティブなイメージがあり、生活するイメージを持てないまま脱落しているのではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- 広島県に対するイメージが低く、終盤①までに脱落している588人。**特に、性別に基づく固定観念が広島県には残っているというイメージを持っている人が多い県内大学の女性（207人）。**

上記理由に該当する脱落者の推定人数（単位：人）

広島イメージ＼脱落段階	序盤	中盤	終盤①	終盤②	合計
全体的に高評価	58	10	54	15	137
やや高評価	200	24	65	14	303
やや低評価	250	54	209	44	557
全体的に低評価	45	0	30	0	75
計	553	88	358	73	1,072

大学所在地	性別	実数
広島県内	男性	212
	女性	207
県外	男性	101
	女性	69

（資料）Webモニターアンケート

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【ターゲット】

【打ち手の立案に向けたターゲットの具体化】

- 実数としては男女ともほぼ同数だが、全体の比率を考えると女性の方が出現率は高い。
- このクラスターに属する**県内大学の女性は、隣接県以外の遠方出身の学生、その中でも三大都市圏出身者が該当している可能性が高い。**
- そのため、県外から広島県内の大学に入学してきた人も含めて、多様性が尊重され、性別に基づく固定観念のがない地域であるという印象を持ってもらうことで、「古い考えが残る地域」というイメージを持つことで脱落していた人の行動を変容させることが有効ではないか。

《脱落理由に該当する学生の内訳》
ターゲット候補の抽出

推定される脱落理由に該当する、終盤①までに脱落している、広島県に対するイメージが低いクラスターGの学生の内訳をみると、県内の大学に通う女性が、全体の構成比に比べて高い。

大学所在地	性別	実数(人)	出現係数
広島県内	男性	212	1.1
	女性	207	1.6
県外	男性	101	0.7
	女性	69	0.6

※出現係数：この属性における構成比が、全体の構成比よりも高い比率で出現している場合、１より大きくなる。

《脱落理由に該当する学生を見つけやすい属性》
ターゲットの絞り込み

クラスターGに分類され、終盤①までに脱落する、県内の大学に通う女性は、全体の構成比に比べると、県内よりも県外、特に三大都市圏出身者である割合が高い。

			県内大女性	
			実数(人)	出現係数
出身地	広島県		151	0.4
	県外	隣接県	76	1.5
		三大都市圏	76	5.3
		九州圏	30	2.6
		その他の地域	30	5.6
専攻	文系		166	0.79
	理系		151	1.16
	その他		0	0.00
	不明		45	1.23

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【まとめ】

【脱落者の志向・行動特性】

- まず居住地ありきで就職活動を行うため、序盤で脱落する人が多い。山口県や愛媛県など、序盤で流出している場合は出身地へのUターンであることも多く、この層の行動変容は起こしにくい。
- 福岡県、東京都は序盤の離脱が特に多く、当初から都会に出たいという志向があるのではないか。
- 全体としての定着率は高く、就活途中で離脱する人は少ない。
- **出ていくなら出ていく、留まるなら留まる、というという傾向がはっきりしている。**

【推定される脱落理由】

- 安定やWLBを重視し、生活環境の変化をあまり好まず、働きやすい仕事をしながら暮らしたいと考えている中で、脱落者は自分にとってのWLBが広島県には存在しないと思い、序盤で脱落しているのではないか。
- **しがらみや性別に基づく固定観念、精神的なゆとりが持てるか**、といった項目でネガティブな反応を示す層もあり、広島県に対してネガティブなイメージがあり、生活するイメージを持てないまま脱落しているのではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- 広島県に対するイメージが低く、終盤①までに脱落している588人。**特に、性別に基づく固定観念が広島県には残っているというイメージを持っている人が多い県内大学の女性（207人）。**

クラスターG（居住地重視：安定・ゆとり重視）【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

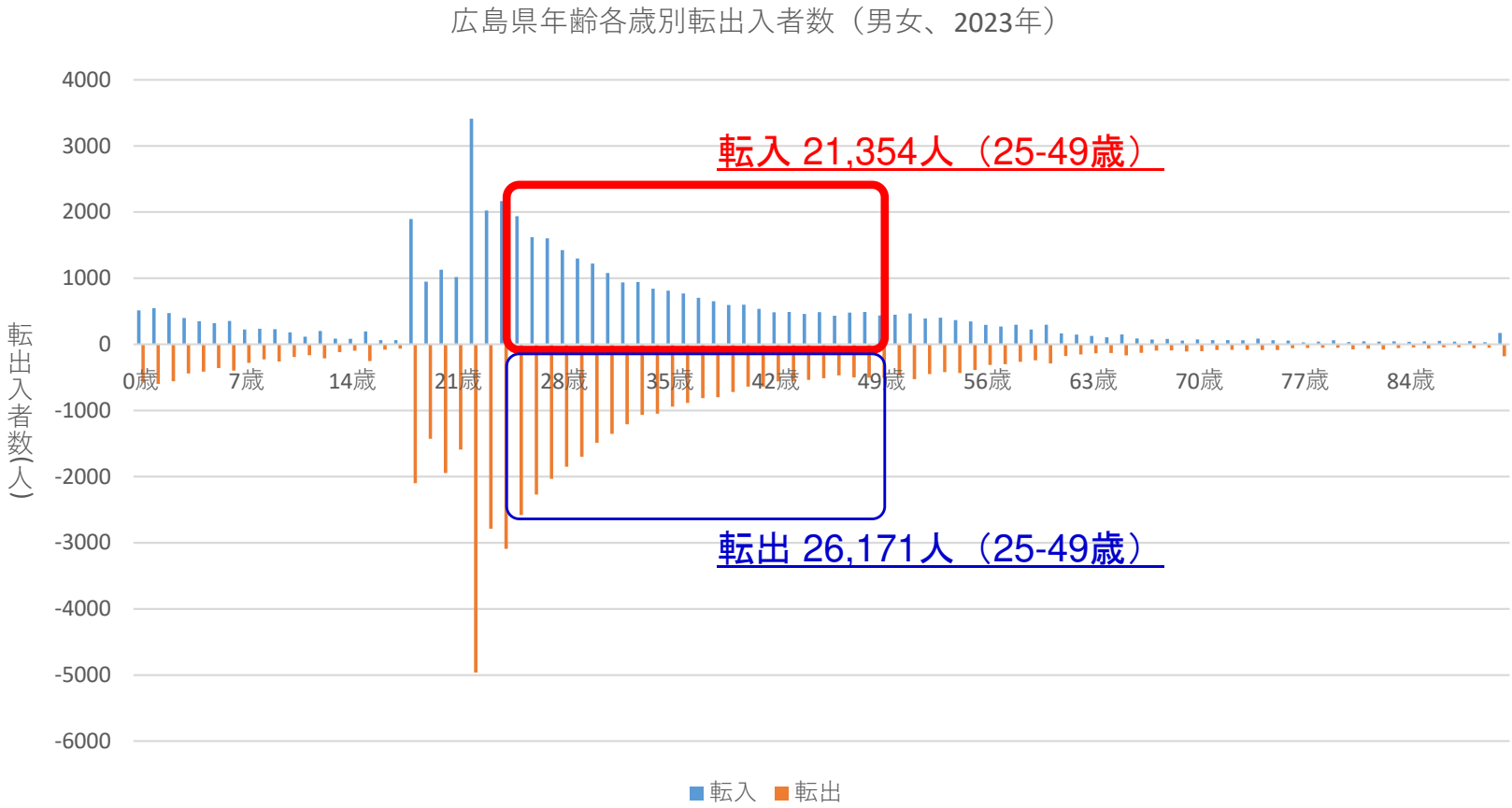
- 「多様な価値観を受け入れる雰囲気」「性別に基づく固定観念」について、古い考え方が残る地域、というイメージを払しょくしていく。
- 都市魅力を向上させ、都会に出たり地元に戻ったりしなくても、ここが自分にとって安心してゆとりを持って暮らせる地域だと思えるようにする。

3-3-2 ：UIターン

UIターン【全体ボリューム】

■UIターンの総数

- 広島県における25-49歳の転出は年間約26,171人、転入は年間約21,354人。
  ※24歳までの就職については新卒就職時の分析で詳細に分析しているため、UIターンにおいては、**25歳以上に焦点を当てて分析する**。（40代まで転出超過が継続していることから、本調査では49歳までを調査対象としている。）



（注）年齢各歳別の集計値が公表されている日本人住民と外国人住民を含めた総数を掲載
（資料）住民基本台帳人口移動報告

UIターン【分析の考え方】

■ＵＩターンの分析の考え方と対象

- 主に、**UIターンの意向を持っている者と持っていない者との「志向の違い」はどこにあるのか**といった観点から分析を行った。
- 主な分析対象は以下の表のとおり。

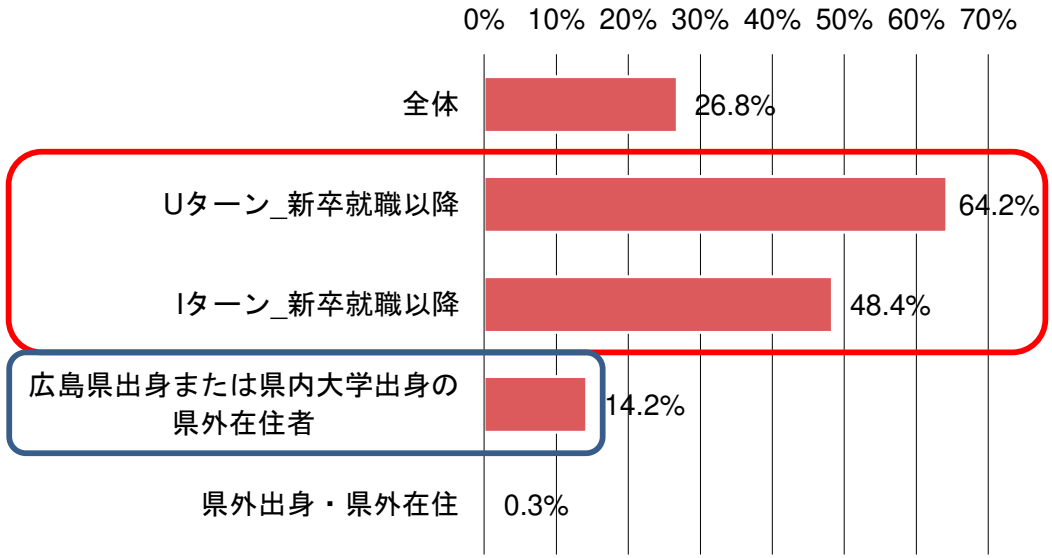
分析対象	アンケート回答内容に基づく分析の対象
①広島県出身者等による Uターン	広島県出身者（高校卒業時点の居住地が広島県である者）または県内大学出身者のうち、新卒就職後、県外に在住している者
②県外出身者等による Iターン	広島県出身でなく（高校卒業時点の居住地が広島でない）、新卒就職以降、広島県に住んだことがない者

UIターン【属性】

■**配偶者の出身地**

- 実際に新卒就職以降のタイミングで**広島県にUIターンした人の、配偶者の出身地**を見ると、Uターン者64%、Iターン者48%が広島県出身となっている。
- 一方で、「広島県出身者または県内大学出身者のうち、新卒就職後、県外に在住している者」は14%となっており、**配偶者が広島県出身であることは県外から県内に移ってくる強い誘因**になっていることがうかがえる。

配偶者の出身地が広島県という人の比率（配偶者がいる人の中での比率）



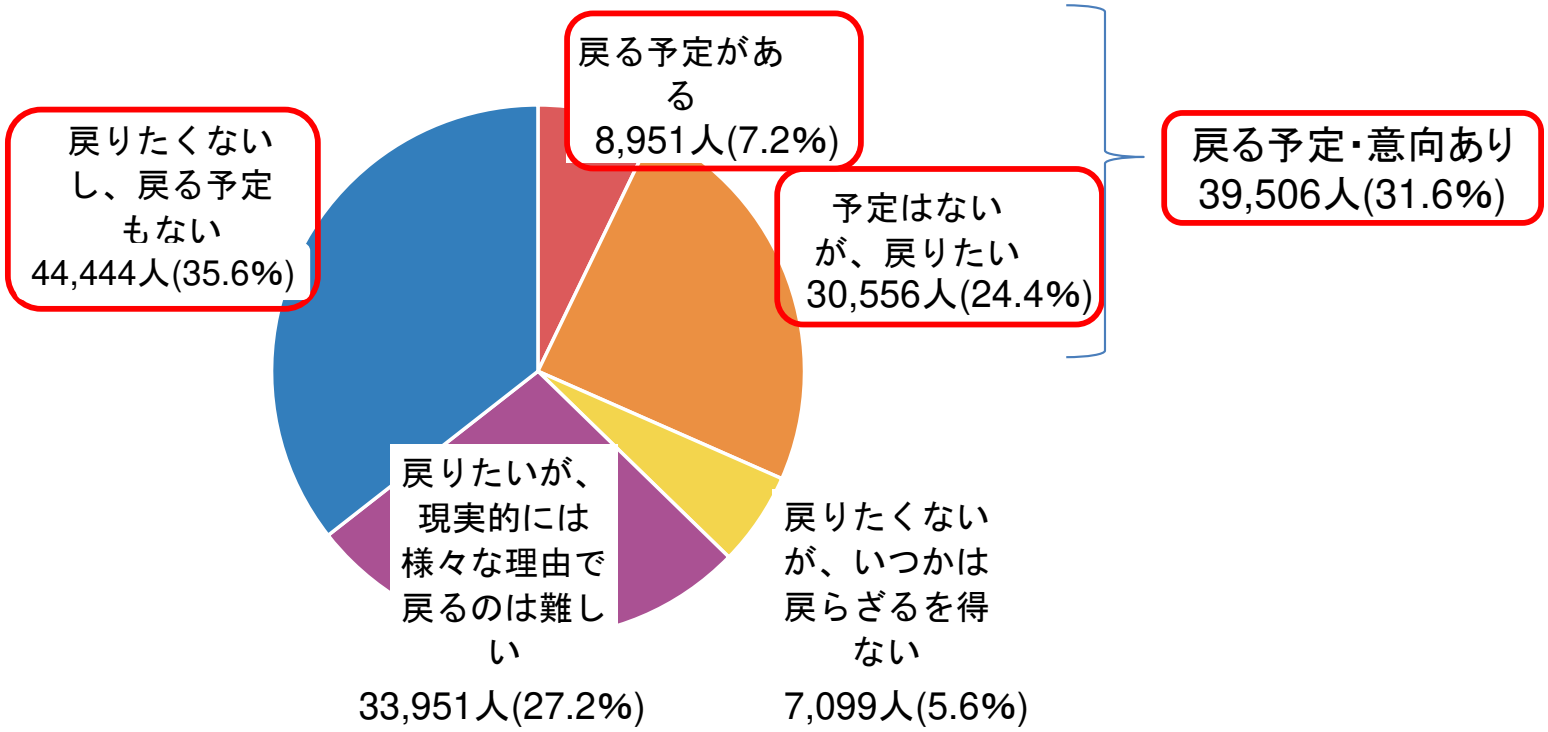
（資料）Webモニターアンケート

①広島県出身者等によるUターン【志向】

■Uターンに対する意向と理由

- 広島県出身者または県内大学出身者のうち、新卒就職後、県外に在住している者（以下「Uターン候補者」という。）の**広島県に戻る意向としては、「戻りたくないし、戻る予定もない」が71,200人（35.6%）で最多。「戻る予定がある」と「予定はないが戻りたい」を合わせると63,200人（31.6%）**

広島県に戻る意向（広島県出身または県内大在学、現在は県外在住）



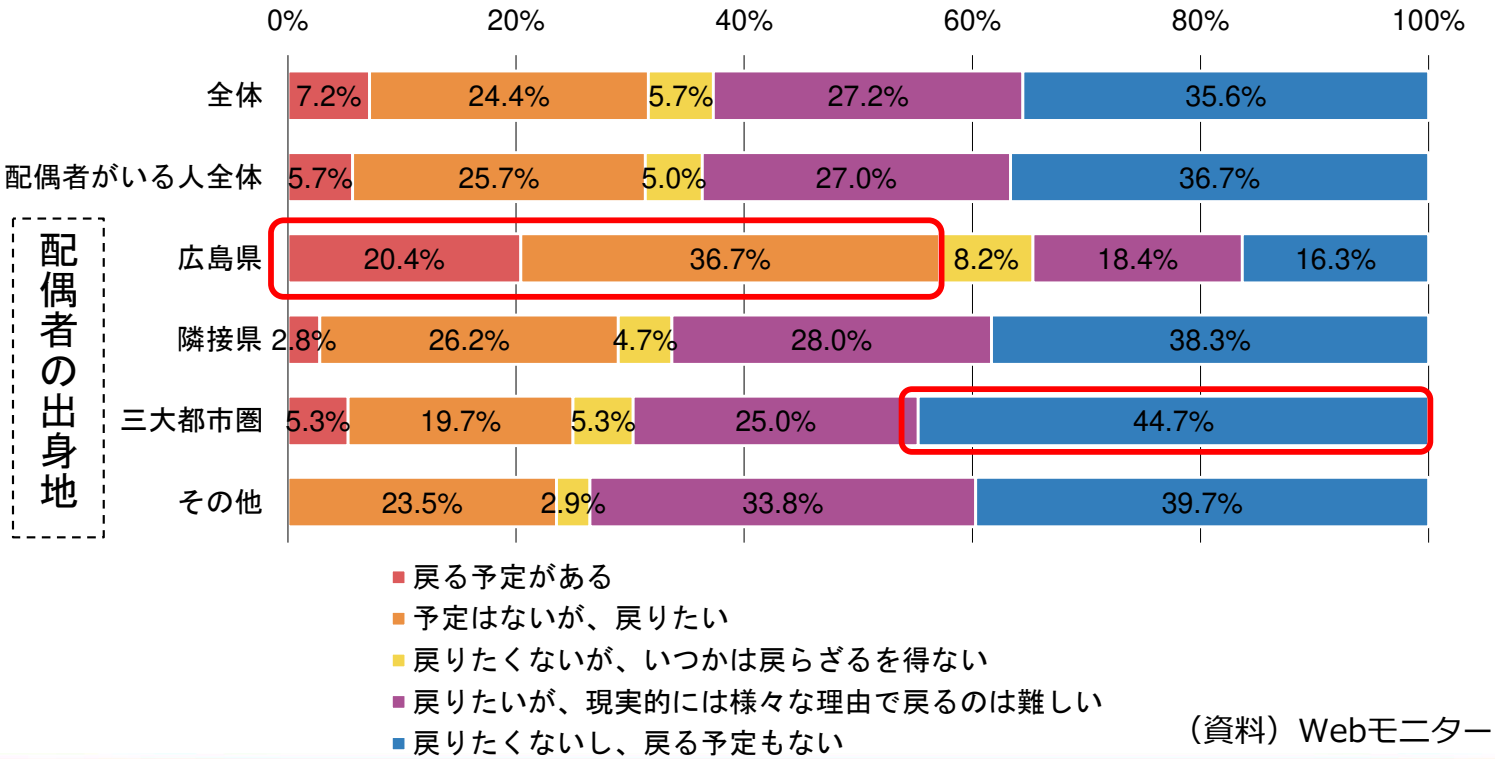
（注）人数は、県内出身または県外大学出身者のうち、県外に在住している約5,000人×25年（25-49歳）=125,000人をもとに算出。
（資料）Webモニターアンケート

①広島県出身者等によるUターン【志向・属性】

■配偶者の出身地別のUターン意向

- Uターン候補者のうち、配偶者がいる人の配偶者の出身地別にUターン意向を見ると、配偶者の出身地が広島県の場合、**「戻る予定がある」が20.4%**と他の属性より群を抜いて多く、**「予定はないが、戻りたい」を合わせると57.1%**に達する。
- 一方で、配偶者の出身地が他県になると、その比率は大きく下がり、特に**配偶者が三大都市圏出身の場合、「戻りたくないし、戻る予定もない」が44.7%と他の属性より目立って高く**なっている。

配偶者の出身地別に見たUターン意向（広島県出身または県内大在学、現在は県外在住）

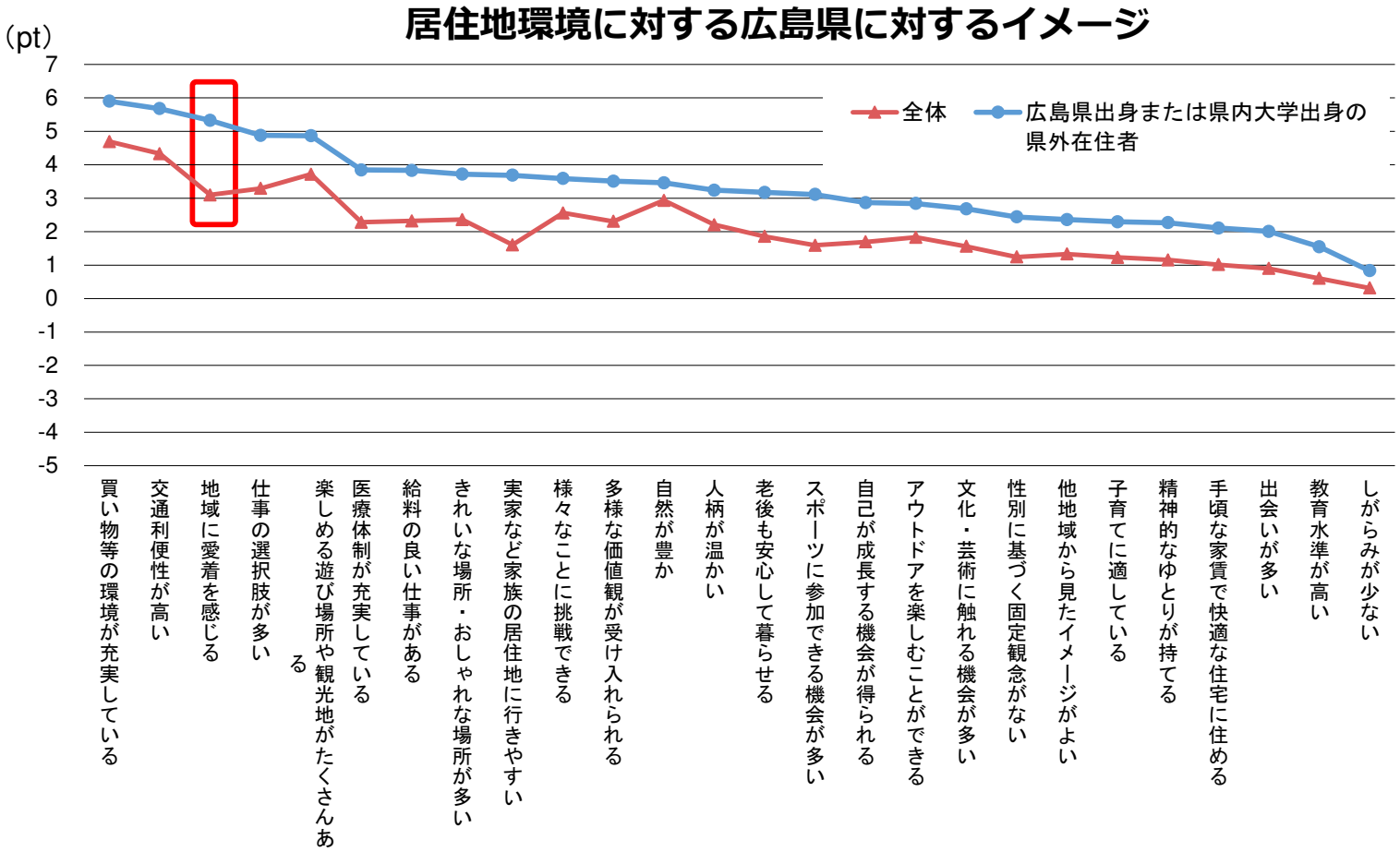


（資料）Webモニターアンケート

①広島県出身者等によるUターン【志向】

■居住地環境に対する広島県へのイメージ

- Uターン候補者は、**広島県に対するイメージについて、広島県出身者または県内大学出身者全体よりも高く評価**している（特に、「地域に愛着を感じている」について高く評価）。



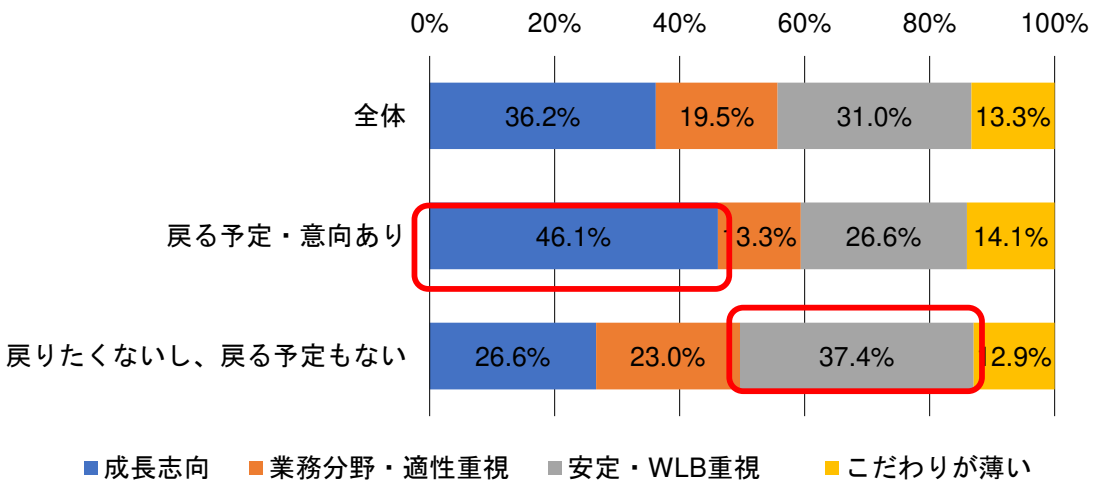
（注）「広島県出身または県内大在学、現在は県外在住」のポイントが高い順に左から項目を並べている。
（資料）Webモニターアンケート

①広島県出身者等によるUターン【志向】

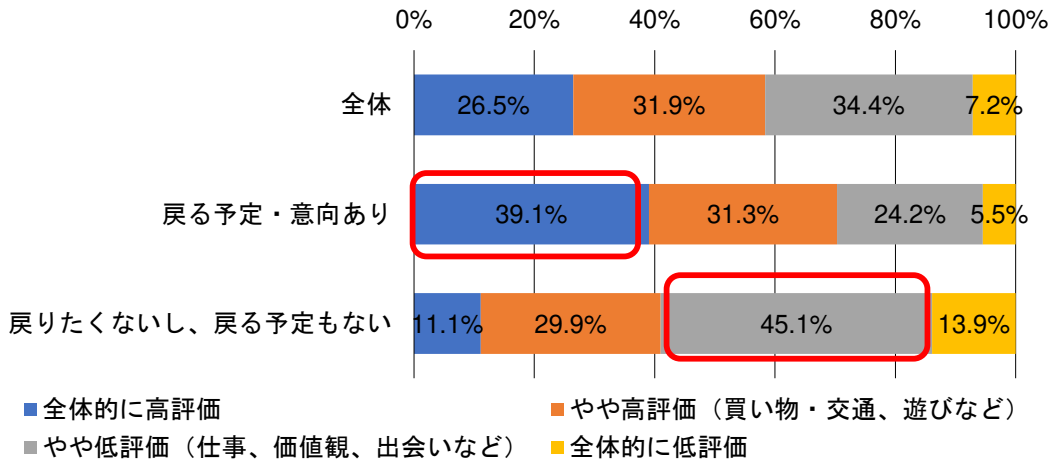
■Uターンに対する意向別の志向

- 広島に戻る意向がある層とない層で、就職先や居住地に対する志向や、広島県に対するイメージにおいて、どのような違いがあるのかを分析した。
- 就職先に対する志向では、**戻る意向がある層**は「給与等の待遇」「自己の成長」など成長を重視する傾向**（成長志向）が高く**、戻る意向が**ない層は「福利厚生」「長く働ける」など安定・WLBを重視する傾向**が強い。
- 居住地に対する志向では、戻る意向のある層とない層の間に、目立った差は見られなかった。
- 広島県に対するイメージは、戻る意向がある層は「全体的に高評価」の比率が高く、戻る意向がない層は「やや低評価（仕事、価値観、出会いなど）」「全体的に低評価」の比率が高い。

広島県に戻る意向別に見た
就職に対する志向



広島県に戻る意向別に見た
広島県に対するイメージ



（資料）Webモニターアンケート

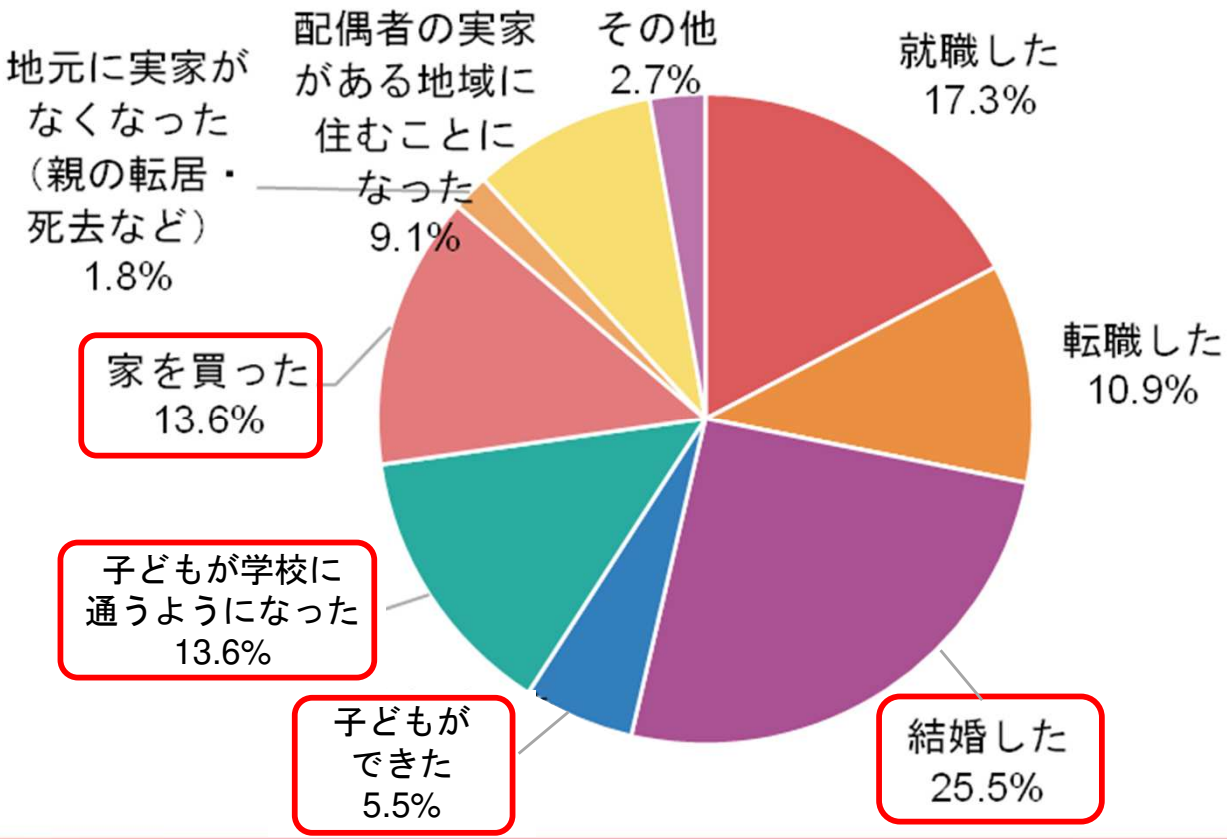
①広島県出身者等によるUターン【志向】

■Uターンに対する意向と理由

- Uターン候補者が広島県に戻ることは難しいと考えるようになったタイミングとして、結婚・出産、子どもの成長やマイホームの購入をタイミングとして挙げている者は、58.2%存在する。

➢ **結婚から子どもが学校に通うタイミングにかけて、生活基盤が形成され、戻れないと思う人の比率が上昇**する。
（結婚25.5%⇒子供の就学 44.6%⇒マイホーム58.2%）

広島県に戻れないと思った時期（Uターン候補者）



（資料）Webモニターアンケート

①広島県出身者等によるUターン【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- Uターン候補者は、新卒就職時は就職先を重視し、就職先を選ぶうえで、給与や自己の成長といった**成長志向を持っている人の方が、Uターンしたいと思っている**比率が高い。
- ただ、結婚、子どもの誕生、子どもの就学、マイホームの購入、といった**ライフステージの進行に伴い、広島県に戻ることを諦める**人が増えていく。
- 一方、**配偶者が広島県出身であると、Uターンしたいと思っている人の比率は目立って上昇**し、実際UIターンしている人においても、配偶者が広島県出身という人の比率は高い。

《行動変容を期待するボリューム》

- 県外に在住する広島県出身、あるいは広島県内大学出身者が、県外において広島に縁がある者同士で交流することで故郷広島県への思いを強めるともに、親交を深める中で結果的に結婚し、その後の転職等を機にUターンを決断するというケースが、最もUターンする可能性が高いと考えられる。
- その可能性があるのが、県外に在住する、新卒就職時に成長志向だった未婚の人（生活基盤が形成される前の人）、その中でもライフステージが比較的浅い25-39歳だとすると、11,602人となる。

上記理由に該当する脱落者の推定数

属性＼年齢	25-29歳	30-34歳	35-39歳	40-44歳	45-49歳
成長志向の県外在住者（人）	9,050	9,050	9,050	9,050	9,050
未婚率（%）	61.8	38.7	27.6	23.2	21.4
該当者数（人）	5,597	3,504	2,502	2,100	1,939
合計			11,602		15,642

（資料）総務省「国勢調査」における全国の未婚率（令和2年）を使用

①広島県出身者等によるUターン【補足情報】

ヒアリング結果より

■ Uターン希望者の存在

- **家庭の都合、介護、育児で地元の広島に帰ってきたいという方は多い。**（製造業）
  エリア限定で働きたいという学生はいる。中四国出身で関西の大学に進学したが、**中四国エリア限定で採用したケースもある。**広島でというよりは、中四国でという考え方であるが帰りたいという気持ちが念頭にあると思われる。（金融・保険）
- 県外に進学したが、地元が住みやすく、また**将来的には、近くに住んでいるほうが、自分にとっても親にとっても何かと都合がよい**と思い、就職で戻った。学生時代だけ県外で楽しもうと決めていたので、後悔はない。（UターンしたWebアンケート回答者）
- **本学の学生は新卒では取れないが、中途では採用できている**と聞く。学生が首都圏で挑戦することは良いことであると思うが、その人たちが戻って来てくれたら良いと思う。（大学キャリアセンターＡ）

■Uターンを促す情報発信

- 広島県出身の県外大学生にアプローチしづらくなっているため、**県に東京などでの合同説明会などを開催**してもらえるとありがたい。（金融・保険）
- **Uターンの方を対象としたようなオンラインイベント**や高校への出前講座などは母集団の形成につながっていると感じる。（金融・保険）
- **広島県で働く、暮らすということを県外に住んでいる方にわかりやすく発信**できると、Uターンの判断材料になるのではないかと思う。広島県で暮らすことのイメージが持てなければ、帰ってくるという判断もしにくいのではないか。（金融・保険）

①広島県出身者等によるUターン【まとめ】

【広島県に戻る意向がある者の志向・行動特性】

- **配偶者が広島県出身**の場合、Uターン意向が目立って高くなる。逆に三大都市圏の場合、意向が大きく下がる。
- 新卒時の就職先に対する志向として、「給与等の待遇」、「自己の成長」など**成長を重視する傾向（成長志向）が高い。**
- **広島県に対して良いイメージ**を持っているが、結婚、子どもの誕生、子どもの就学、マイホームの購入、といった**ライフステージ**の進行に伴い、広島県に戻ることを諦める人が増えていく。

【推定される脱落理由】

- 自己の成長を重視し県外に就職し、いつかは広島県に戻りたいという気持ちがあったが、**結婚、子どもの就学、マイホームの購入、といったライフステージが進んでいくにつれて、広島県に戻れない、**という思いが強くなっていくのではないか。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- 県外に在住する、新卒就職時に成長志向だった未婚の人。その中でもライフステージが比較的浅い25-39歳（生活基盤が形成される前の人）、11,602人。

①広島県出身者等によるUターン【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

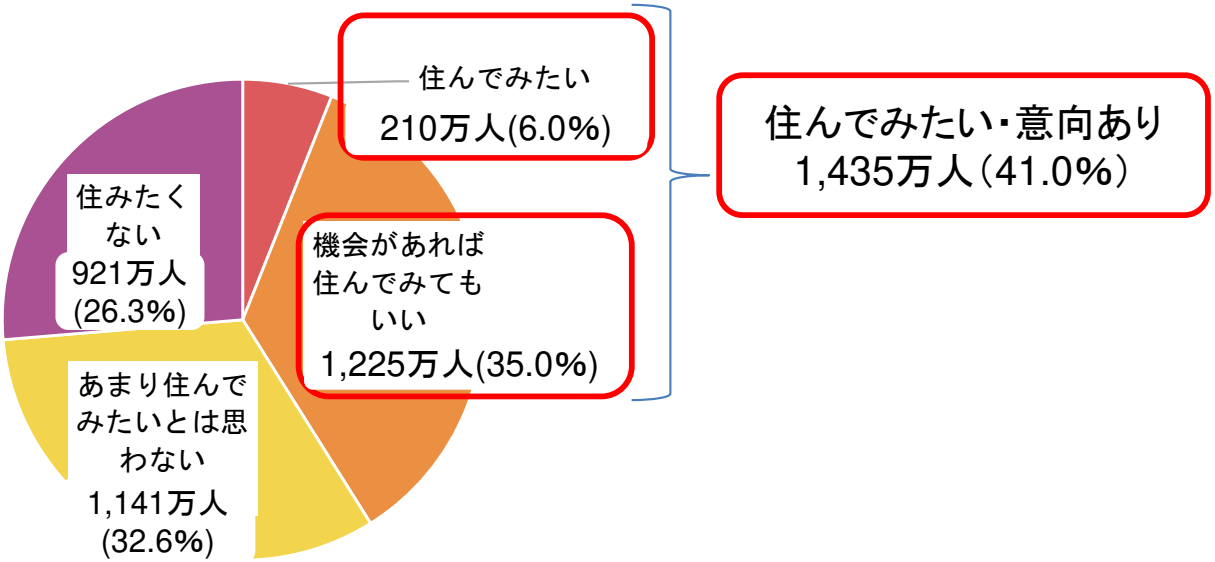
- 県外に在住する広島県出身、あるいは広島県内大学出身者（広島に縁がある者）同士の交流を活性化させ、様々な視点から広島県の魅力を再発見・確認してもらい、居住地選択を迫られた際の最有力候補として広島県を位置づけてもらう。

②県外出身者等によるIターン【志向】

■ **Iターンに対する意向と理由**

- 広島県出身でなく（高校卒業時の居住地が広島でない）、新卒就職以降、広島県に住んだことがない者（以下「Iターン候補者」という。）について、広島県への居住意向とその理由を確認した。
- **広島県に住んでみたい層210万人（6.0%）、機会があれば住んでみてもいい層1,225万人（35.0%）を合わせると1,435万人（41.0%）**となっている。

広島県への居住意向



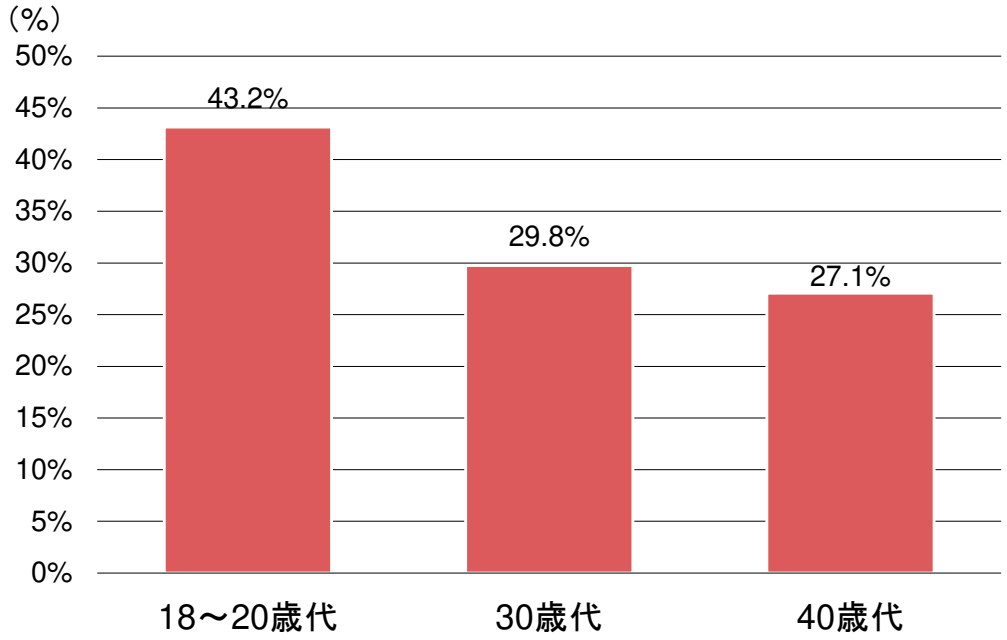
（注）人数は、25－49歳の県外在住日本人=3,500万人をもとに算出
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【志向】

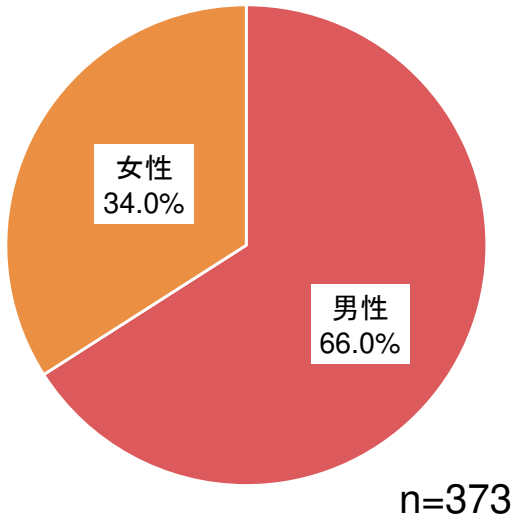
■ **Iターンに対する意向と理由**

- 広島県への居住意向を持つ層（6.0%）を年齢別にみると、**18-20代が最も多く、年齢を重ねるにつれて減少**する傾向がある。
- また、性別をみると、**男性の割合が高い**。

広島県への居住意向（年齢別）



広島県への居住意向（男女別）



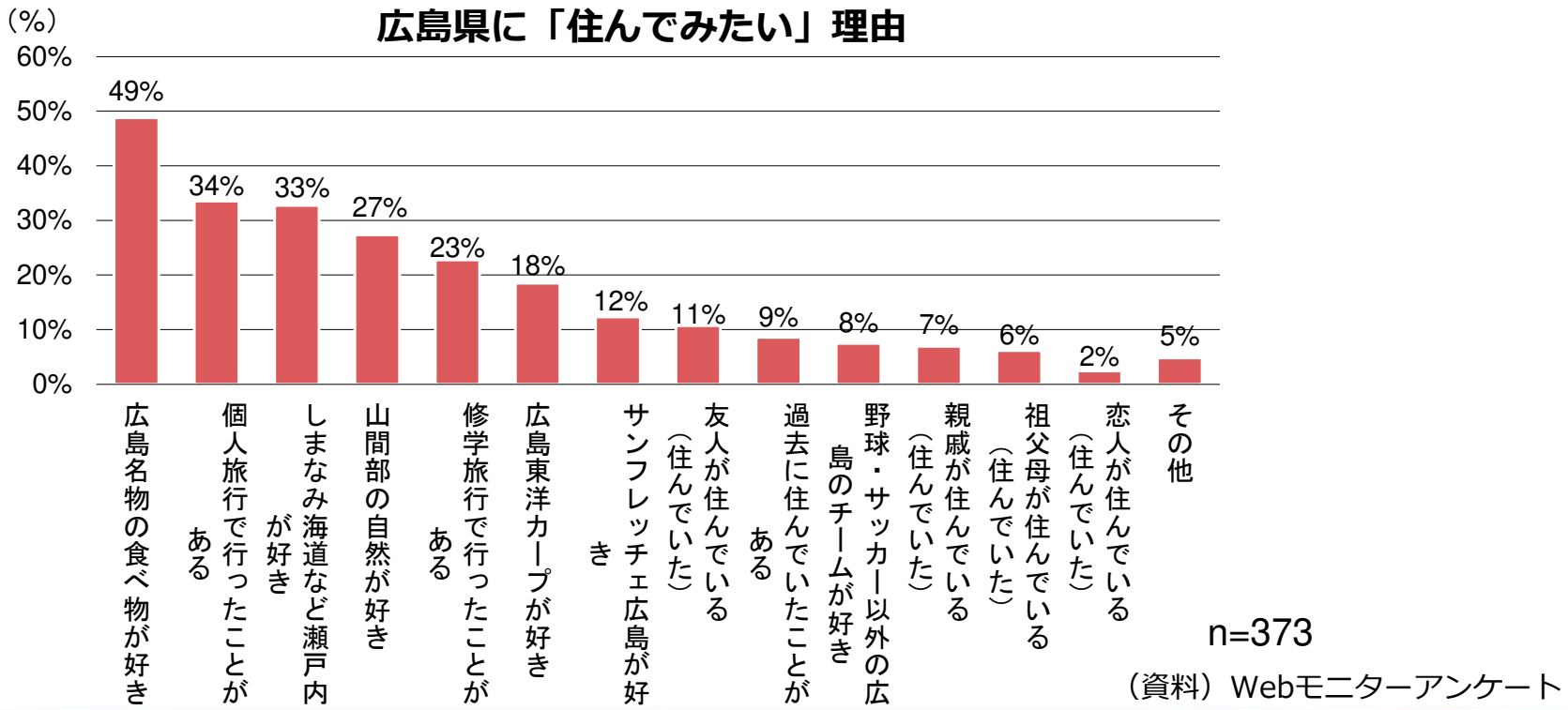
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【志向】

■Iターンに対する意向と理由

- 住んでみたい層の理由をみると、**「広島名物の食べ物が好き」を理由とする割合が最も高い。**
- 次いで、「個人旅行で行ったことがある」「しまなみ海道など瀬戸内が好き」「山間部の自然が好き」「修学旅行で行ったことがある」といった、**旅行先としての経験や名所を理由とする割合が高い。**
- その次に**「広島東洋カープが好き」「サンフレッチェ広島が好き」**などスポーツチームを挙げる割合も一定数おり、この属性は**ターゲットとして識別しやすい。**

➢ **旅行経験やスポーツの観戦経験などを接点**にすれば、**「広島県に住んでみたい」という県外在住者に効率的にアプローチできる可能性**がある。



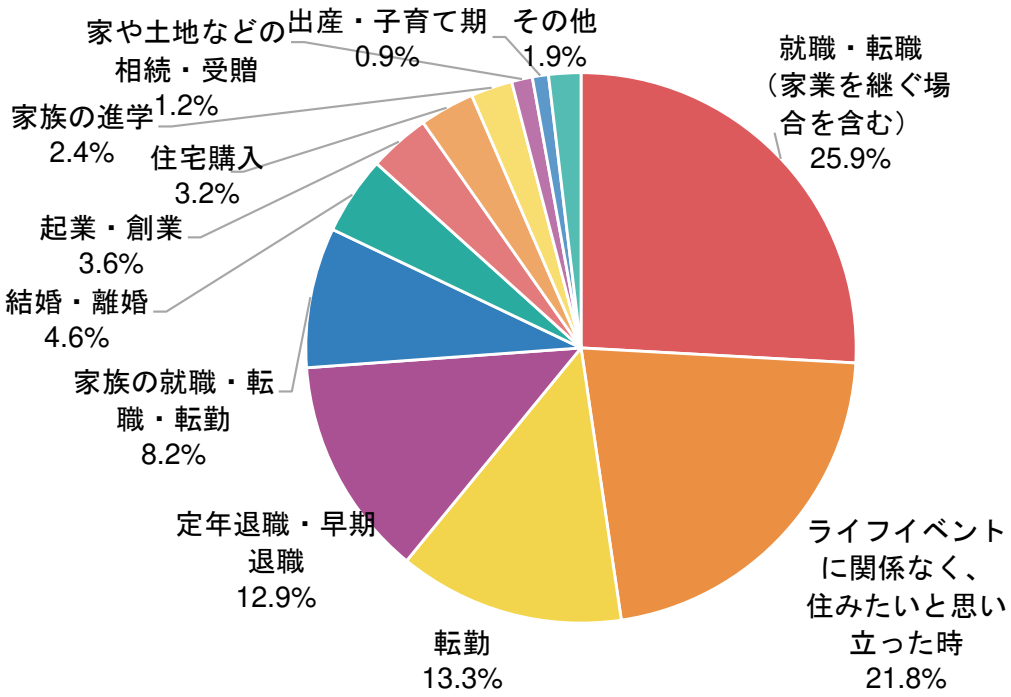
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【志向】

■Iターンに対する意向と理由

- 住んでみたい層が広島に移住する場合のタイミングとして挙げたのは、**「就職・転職」が最も多く、次いで、「ライフイベントに関係なく、住みたいと思い立った時」**となっている。

広島県に移住するタイミング（Iターン）



n=373

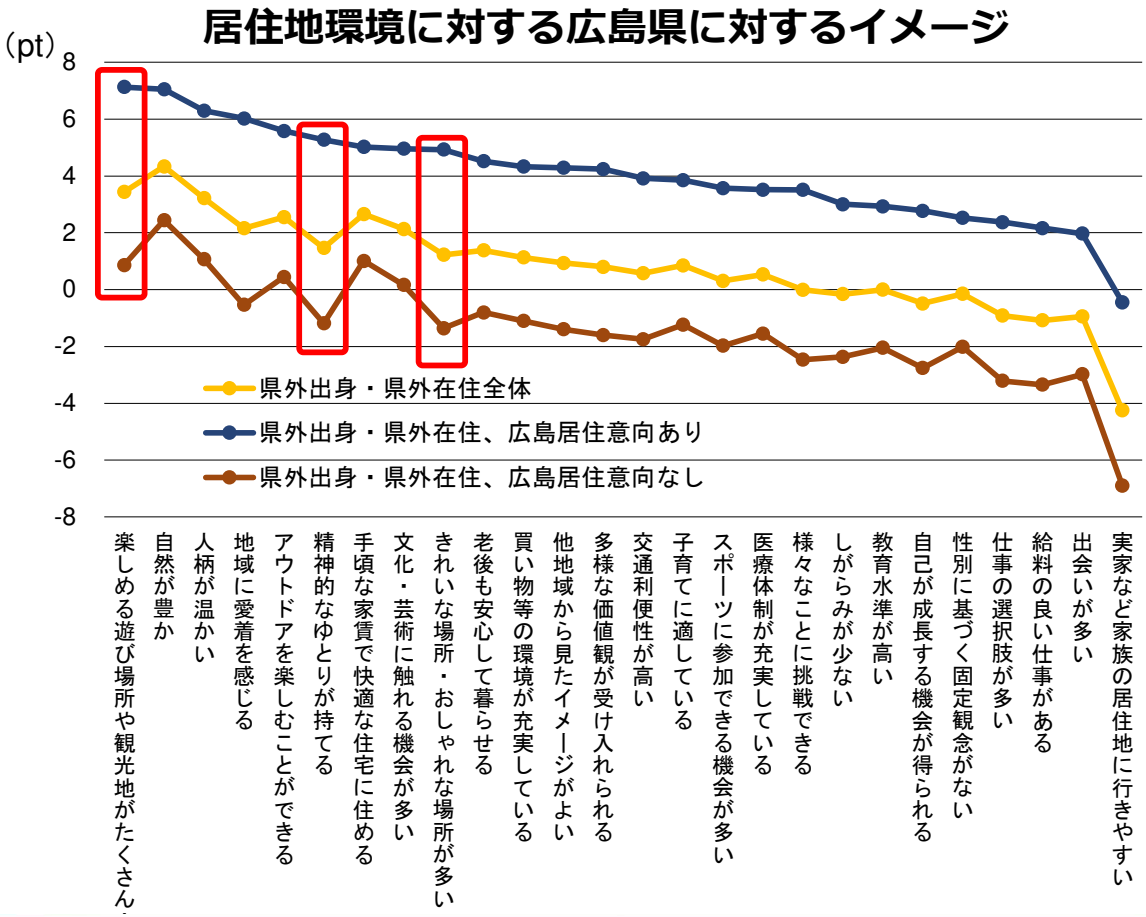
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【志向】

■居住地環境に対する広島県に対するイメージ

- Iターン候補者のうち、広島県に住んでみたい層（**青線**）は**「楽しめる遊び場所や観光地がたくさんある」「精神的なゆとりが持てる」「きれいな場所・おしゃれな場所が多い」**といった項目について評価が高い。

➢ 広島県に住むことで、県内の行楽地・景勝地やきれいな場所・おしゃれな場所を楽しみながら、精神的にゆとりをもって暮らすことができるイメージを持っていると考えられる。

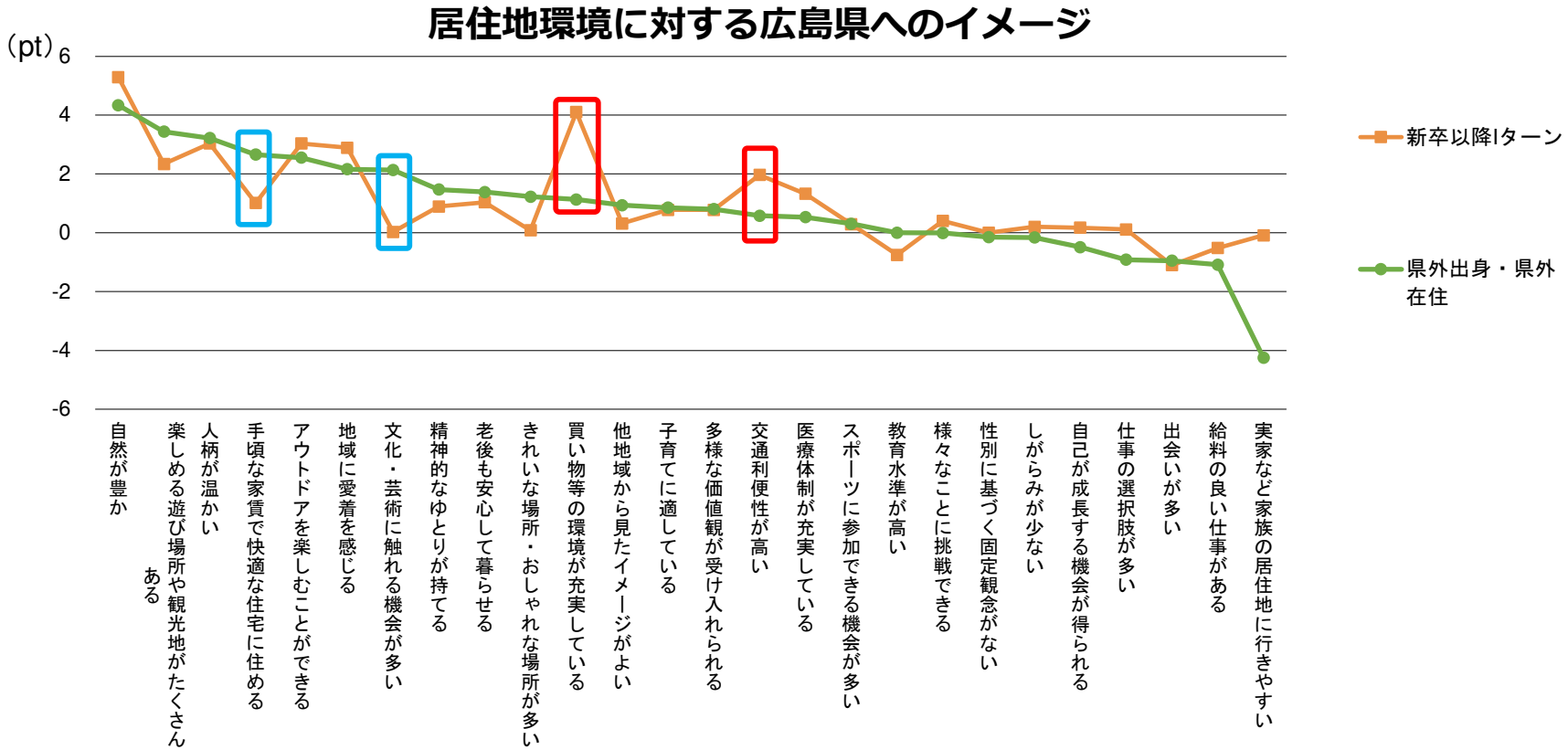


（注）「広島居住意向あり」のポイントが高い順に左から項目を並べている。
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【志向】

■**居住地環境に対する広島県へのイメージ**（実際にIターンした層とIターン候補者との差）

- 実際にIターンした層とIターン候補者との、広島県に対するイメージの差をみると、**「買い物環境の充実」、「交通利便性の高さ」、「仕事の選択肢の多さ」**などの項目について、**実際にIターンした層の方が評価が高い。**
- これらの要素は、県外に在住している人は「都会よりは不便なのではないか」と懸念しているが、**実際に住んでみると、それほど不便は感じない**要素と捉えることができる。
- 一方で、「文化・芸術に触れる機会が多い」「手ごろな家賃で快適な住宅に住める」については、**実際にIターンした層の方が評価が低い。**



（注）「県外出身・県外在住」のポイントが高い順に左から項目を並べている。
（資料）Webモニターアンケート

②県外出身者等によるIターン【補足情報】

ヒアリング結果より

■ 近隣県からのＩターン

- Ｉターンは毎年２割ほどである。その他は、広島県出身者と隣県出身者が８割程度である。**Ｉターン者は、広島県内の大学や近隣県の大学に進学した人**が多い。（金融・保険）
- 出身は隣接県、進学先は四国。四国に進学したのは、学力が合っていたことと、親の干渉のないところに住みたいという理由。**広島には親戚がいて、多少馴染みのある地域**であった。大学在籍中に、祖父の介護が必要となり、**地元に近い広島に引っ越し、就職活動も広島の企業に絞った**。（ＩターンしたWebアンケート回答者）

■ 人的つながりを背景としたＩターン

- 山陰出身の学生は、広島で就職するケースも多く、流入の方が多い。**友人のつながり等が理由**かと思われる。（大学キャリアセンターＢ）
- 地元に戻っても産業がない。地元に比べると娯楽も多く、暮らしやすい。**結婚をするので広島に残る。**といった理由が多い。（大学キャリアセンターＡ）

②県外出身者等によるIターン【脱落理由とボリューム】

【推定される脱落理由】

- 10-20代において、**旅行経験やスポーツチームで、広島県との接点を持つことにより、「住んでみたい」意向を持つが、具体的に暮らしてみるイメージまでは湧かず**、移住には至らない。

《行動変容を期待するボリューム》

- 広島県への旅行やスポーツ観戦の機会を活用すれば、広島県に移住したいと考える層に対して、接点が持てる可能性が相対的には高くなると考えられる。
- 特に、プロスポーツチームのファンについては、来訪目的が明確で識別しやすく、行動変容が期待できる対象にアプローチしやすい。
- 広島市民球場（マツダスタジアム）の来訪者から推定される広島県外在住のカープの熱心なファン（20-30代）は約47,000人と推定される。
- 仮にサンフレッチェがカープの1/3、ドラゴンフライズ他、その他のチームがさらに1/3と推定すると、行動変容を期待できるターゲットのボリュームは、約68,000人となる。

上記理由に該当するボリュームの推定数

属性＼チーム	広島東洋カープ	サンフレッチェ広島	左記2チーム以外	合計
カープ公式戦マツダスタジアム入場者数（人）	2,054,852	―	―	
県外入場者率（%）	36.5%	―	―	
20-30代の比率（%）	25.1%	―	―	
県外入場者の半数がカープファン、平均来場回数を2回と仮定	×0.25	カープの1/3と想定 ―	サンフレの1/3と想定 ―	
推定県外ファン数（人）	47,064 →	15,688 →	5,229	67,981

（資料）広島市都市整備局「令和5年度広島市民球場運営協議会資料」

②県外出身者等によるIターン【まとめ】

【広島県へ住んでみたい意向のある者の志向・行動特性】

- 年齢別にみると、**18-20代が最も多く、年齢を重ねるにつれて減少する**傾向にある。
- 性別をみると、**男性の割合が高い**。
- 住んでみたい層の理由をみると、旅行先としての経験や、スポーツチームを挙げる割合が高い。
- 実際にIターンした人との広島県に対するイメージの差を見ると、**「買い物等の環境が充実している」や「交通利便性が高い」**等については、**広島に移住する際の懸念事項であるものの、実際住んでみると、特に不便は感じない**要素と考えられる。

【推定される脱落（選ばれなくなる）理由】

- 10-20代において、旅行やスポーツチームで、広島県との接点を持つことにより、「住んでみたい」意向を持つが、具体的に暮らしてみるイメージまでは湧かず、移住には至らない。

《行動変容を期待するボリューム》

- 広島県への旅行や**スポーツ観戦の機会を活用すれば、広島県に移住したいと考える層に対して、接点が持てる**可能性が相対的に高くなると考えられる。
- スポーツ観戦：広島東洋カープの観客動員数・スタジアムへの県外来訪率から、広島県外在住のカープの熱心なファン（20－30代）は約47,000人と推定。その他チームのファンを合わせると、行動変容を期待できるターゲットのボリュームは、約68,000人となる。
- 観光客：広島県に訪れる宿泊客数（日本人）は約900万人、うち半数が県外からの来訪者とすると450万人。その中の1割にひろしま移住メディア「HIROBIRO」の存在を認知してもらうとすると45万人、その1割が実際に「HIROBIRO」 にアクセスすると4.5万人。（これをターゲットボリュームに設定）
  （アクセスした人の1%が移住すれば450人の効果量が見込まれる）

②県外出身者等によるIターン【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- スポーツ観戦と宿泊を伴うライトな移住をセットで体験をしてもらい、広島県で暮らすことの魅力を感じ、移住へのきっかけにしてもらうことで、広島県で暮らすことの魅力について、具体的なイメージを持ってもらう。

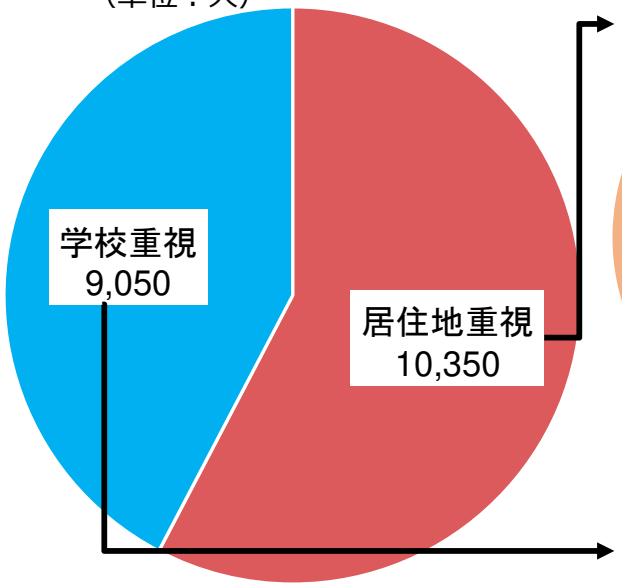
3-3-3：大学進学

大学進学【全体ボリューム】

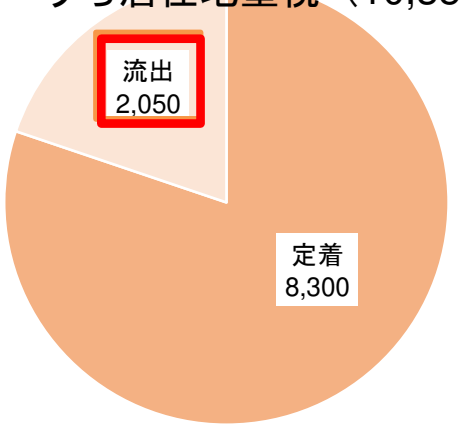
■ターゲットと期待効果
- トータルのターゲットは、県外に流出している7,900人（2,050人と5,850人）及び県外から県内に進学する6,000人であり、学生の志向を踏まえて詳細なボリュームを検討する。

県内の高校から大学等に進学する高校生（19,400）

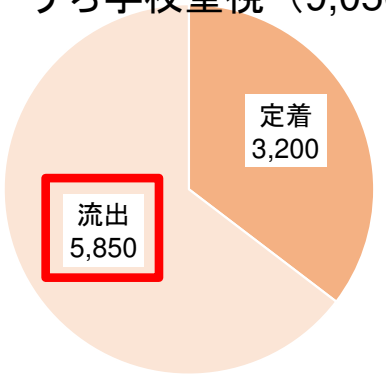
（単位：人）



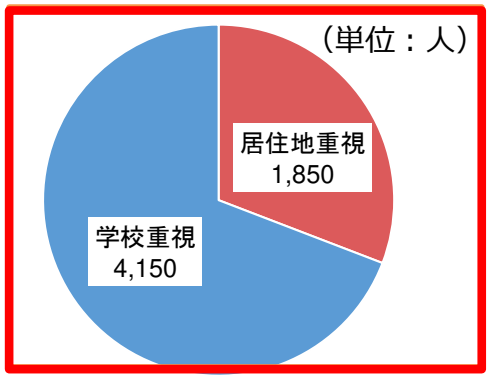
うち居住地重視（10,350）



うち学校重視（9,050）



県外の高校から県内の大学等に進学する高校生（6,000）



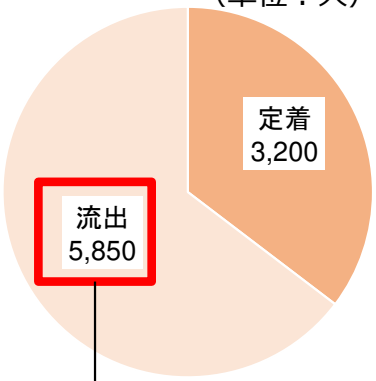
（資料）文部科学省「学校基本統計」より算出した数値をもとに、
Webモニターアンケート結果を当てはめて作成(以下、特に断りのない限り同様)

大学進学【志向と行動】

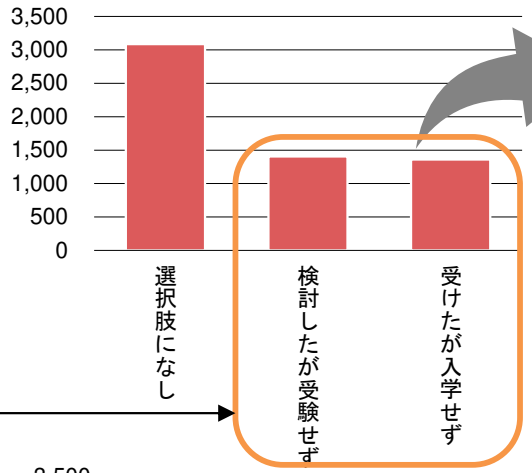
■着目点：県内高校生が進学先検討のどの段階で脱落しているか、なぜ脱落したか
- 学校重視、居住地重視とも、**流出者7,900人のうち、約半数は県内の学校を検討に入れている。**
- 学校や保護者への働きかけや、**学生のニーズに沿った学びの提供で定着が期待できそうな層が500人程度いると想定**される。

学校重視

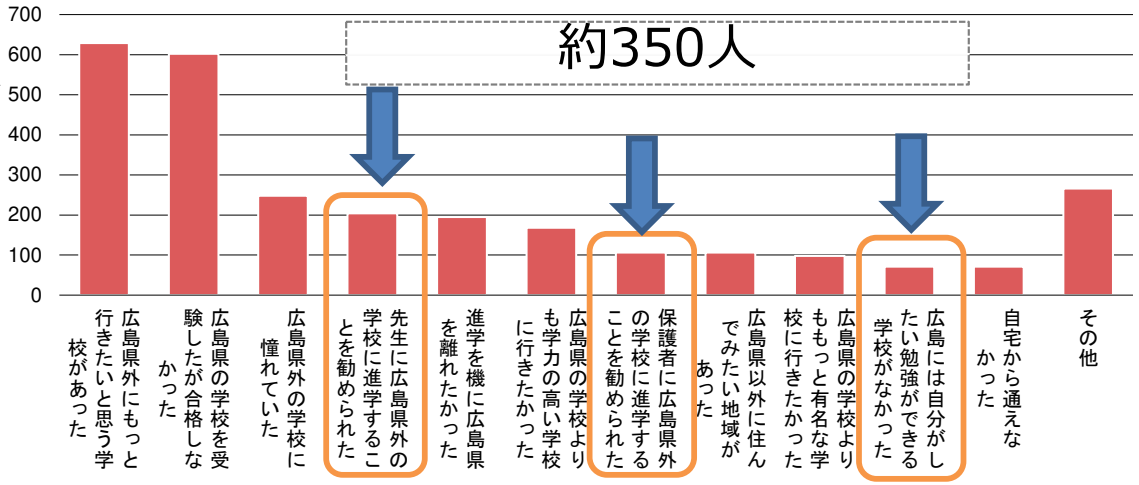
（単位：人）



脱落段階

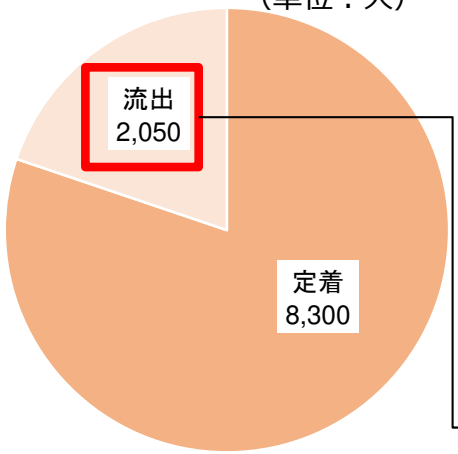


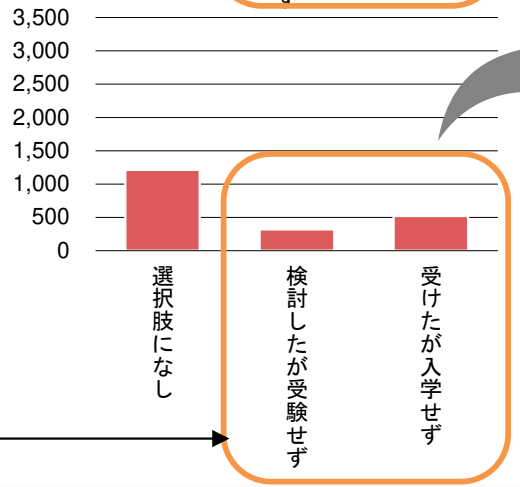
広島県の大学に進学しなかった理由（複数回答）

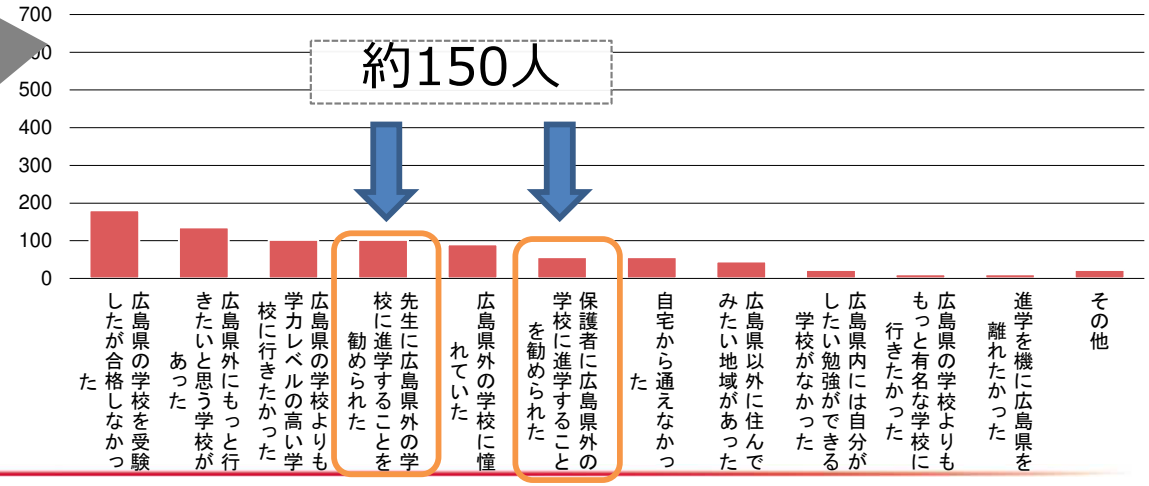


居住地重視

（単位：人）







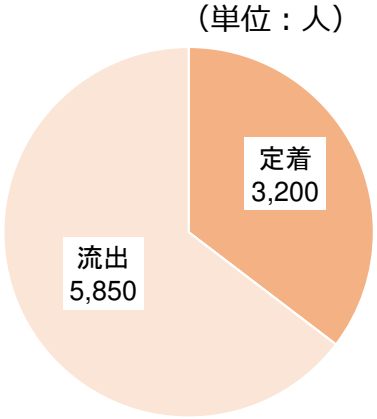
（資料）Webモニターアンケート

大学進学【決め手】

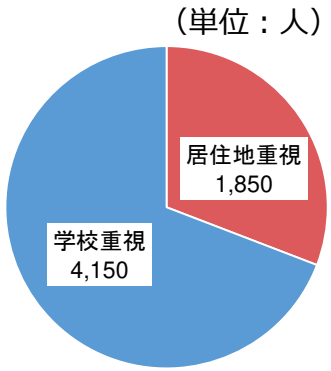
着目点：
- 上位5項目までは県内⇒県外、県外⇒県内とも共通
- **「知名度」や「キャンパスの立地」といった項目は、流出と流入で順位に差がある。**

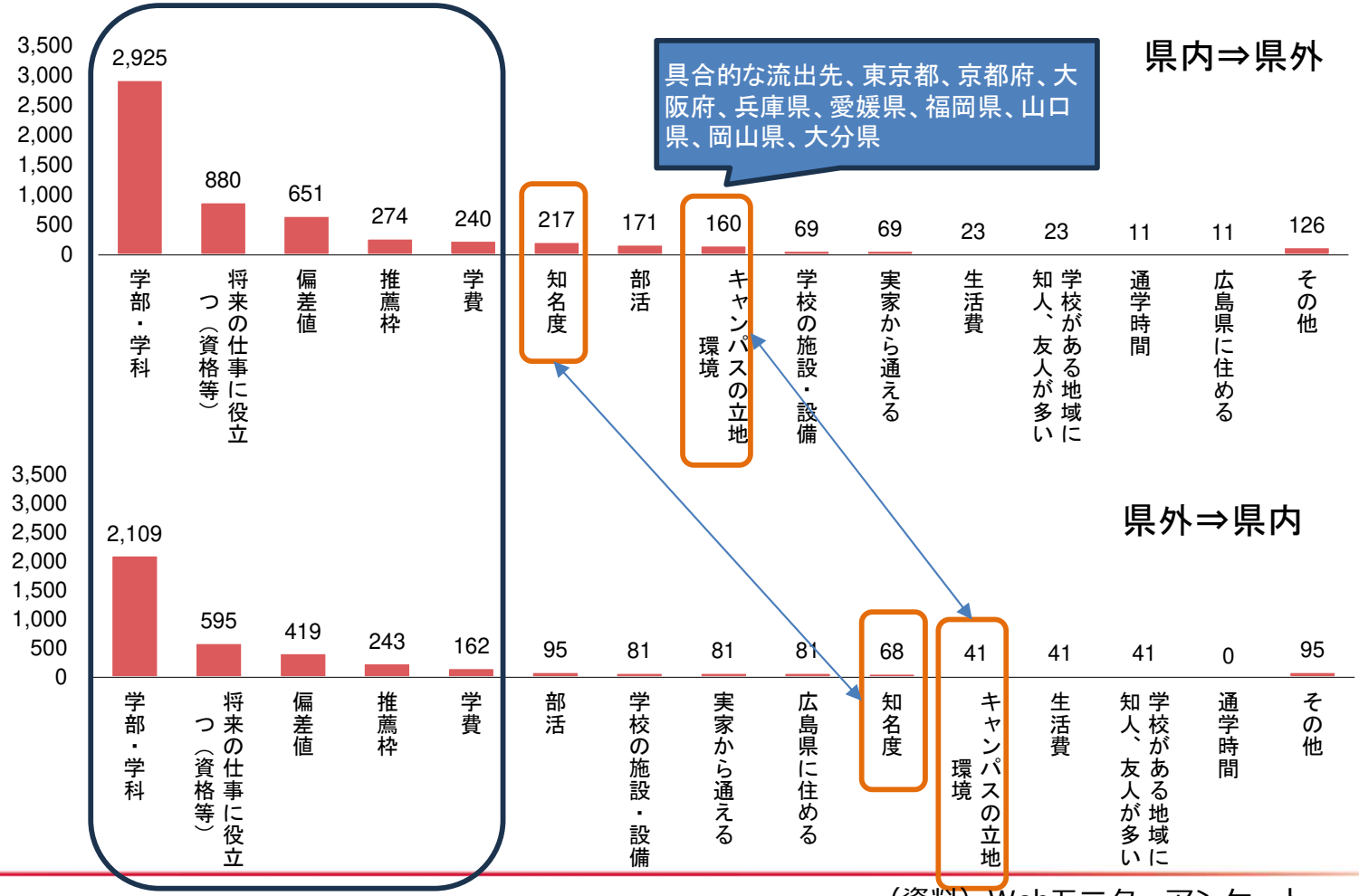
学校を選んだ決め手

県内から流出



県外から流入 県外⇒県内





（資料）Webモニターアンケート

大学進学【補足情報】

採用担当者・キャリアセンターヒアリング

■入学者・志願者の状況（キャリアセンターA）

- 令和5年度は志願者：県内約6割、県外約4割。入学者：Aキャンパスでは県内約8割、県外約2割。Bキャンパスでは県内5割弱・県外5割強、 Cキャンパスでは県内約６割・県外約4割。合計では県内7割弱、県外3割強となっている。
- 志願者自体は減少。志願者は**県内受験者数については安定**しており、県外からの受験者は年によって波がある。県外出身者の出身県の構成などに傾向の変化などは特にない。
- 全体では中国四国が多く、次いで近畿、九州。 B・Cキャンパスには少人数ながら全国各地から学生が集まる。
- Cキャンパスでは**国公立大学で全国唯一ここでしか取れない資格の養成コースがある**ので、学生が全国から来ている。

■入学者・志願者の状況（キャリアセンターB）

- 例年、県内出身者3割、県外出身者7割。上下5%程度で推移している。
- 広島県の次は福岡県、兵庫県出身者が多い。次いで、愛媛や島根などの中四国地方も多い。
- 県内から本学に合格者を出す学校は決まっているので内訳は変わらない。

■その他（大学生活等）

- 広島市内は遠いのでアクセス性の面でも課題がある。学生はアルバイトをするにも広島市内に行く必要があった。一部の学部の市内移転で変わっていく可能性はある。（キャリアセンターB ）
- キャンパスメンバーズ制度を導入しており、美術館・博物館や広島交響楽団の演奏会など学生証の提示で無料で観覧できる。（キャリアセンターA ）

大学進学【まとめ】

【脱落者の志向・行動特性】

- 脱落者のうち、居住地重視・学校重視のいずれにおいても、約半数が「検討したが受験せず」及び「受けたが入学せず」と回答しており、約半数が広島県内の大学を候補としている。
- 上記脱落者が広島県の大学に進学しなかった理由として、**先生や保護者に広島県外の学校を勧められたと選択した層**が一定数見られた。
- 大学を選んだ決め手を県内から流出した人と県外から流入した人で比較すると、県内から**県外の大学へ流出した人の中には、他県から県内に流入した人には見られない、「知名度」や「キャンパスの立地」といった項目を優先する人**が一定数いる。

【推定される脱落理由】

- 県内大学に入学する人は、学部学科や将来の役に立つことが決め手で県内の学校に進学している。一方で、場所や大学そのものにあこがれを抱いている人は少ない。大学の立地や県外の大学そのものにあこがれを抱き、県外へ流出する人が一定層脱落している。

《上記理由をもとに行動変容を期待するボリューム》

- 広島県の大学を検討・または受験したが入学しなかった人のうち、学校や保護者への働きかけや、学生のニーズに沿った学びの提供で定着が期待できそうな層500人。
- 学校を選んだ決め手に、キャンパスの立地環境を挙げている県内高校の160人。

大学進学【課題解決の方向性】

【課題解決の方向性】

- 居住地重視・学校重視のいずれにおいても、学部学科や将来の役に立つことが決め手で県内の学校に進学している。
- 国内唯一や周辺地域にはない特徴的な学びが得られる環境を、県内外の高校の生徒や教師にしっかりとアピールすると広島県の大学を志望する人が増えるのではないか。
- 県内大学に入学する人で、場所や大学そのものにあこがれを抱いている人は少ない。都市部で学生が学べる環境を拡充し、キャンパスの環境の良さで広島県の大学を選ぶ高校生を増やすとともに、学生時代に大学内だけでなく、様々な人々と自然に関係が結べる環境を整えることで、新卒時の流出抑制にもつなげる。

４　まとめ

4　まとめ

■ **調査分析結果のまとめ**

【広島県の社会減少の状況】

- 転出の高止まり、転入の減少により、転出超過が拡大している。
- 広島県は、福岡県や宮城県等、他の地方中核県に比べても第３次産業の従業者比率が低く、第３次産業比率が高い東京圏や大阪圏に、情報通信産業やサービス業（飲食・宿泊、医療・福祉）の従業者が流出している。
- 大学進学、新卒就職、20代後半から40代のUIターンが転出超過の3つの波となっている。

【社会減少の要因分析と課題解決の方向性】

《新卒就職》

- 居住地を重視する層の人数は、就職先を重視する層の倍以上であるが、脱落率は就職先を重視する方が高いため、脱落者は両者で概ね拮抗。
- 就職先を重視する層の方が、就職先検討の序盤で脱落する比率が高い。BtoB分野に優良企業が多いにもかかわらず存在を認知していない学生が多い。多様で競争力のある企業の存在とその業務内容を知る、そして若者が働きたいと思える環境を整えることが重要。
- 居住地を重視する層の方が、就職先検討の後半で脱落する比率が高い。広島県に残りたい気持ちがあっても、強い動機がなければ県外に流出する。居住地としての広島県の魅力が高まるとともに、その魅力を学生時代にどれだけ体感できるかが大事。

《UIターン》

- 配偶者が広島県出身だと「広島県に戻る」Uターン意向は高まる傾向にある。
- Iターンについては、観光での広島県への来訪は「広島県に住んでみたい」と思うきっかけになり得る。また、広島県に拠点を置くスポーツチームは、広島県に移住する可能性が高い層との接点になり得る。

《大学進学》

- 学校や保護者への働きかけや、学生のニーズに沿った学びの提供で定着が期待できそうな層が一定数存在。